

令和2年度

第52回 全国小中学校環境教育研究大会(東京大会)

第56回 東京都小中学校環境教育研究発表会

**21世紀「環境の世紀」への提言**

**持続可能な社会づくりのための環境教育の推進**

**—環境教育によって育む学力と環境保全意欲—**



日時 令和3年2月26日(金) 14時00分 ~ 16時20分

会場 オンライン開催(ライブ配信・期間限定録画配信)

主催 全国小中学校環境教育研究会 東京都小中学校環境教育研究会

後援 文部科学省 環境省 東京都教育委員会  
全国連合小学校長会 全日本中学校長会 東京都公立小学校長会  
東京都中学校長会 日本教育公務員弘済会東京支部  
日本ESD学会 日本環境教育学会 ESD活動支援センター  
関東地方ESD活動支援センター

表紙・裏表紙の絵画ポスター

令和元年度 第23回全国小中学校児童・生徒環境絵画コンクール受賞作品  
(令和2年度は開催中止)

### 表表紙の絵画

#### ◆佳作

小学校の部 千葉県長南町立長南小学校 5年 大久保 彼方

### 裏表紙の絵画

#### ■佳作

中学校の部 東京都墨田区立竪川中学校 2年 目黒 雛子

主 催：全国小中学校環境教育研究会  
後 援：文部科学省 / 環境省 / 公益財団法人日本環境協会  
協 賛：株式会社みずほフィナンシャルグループ  
明治安田生命保険相互会社  
丸紅株式会社  
積水化学工業株式会社

応募総数：小学校 1,654作品 中学校 1,109作品 計 2,763作品

# 目 次

目次	.....	1
大会次第	.....	2
挨拶 全国小中学校環境教育研究会 会長	藤森 克彦	..... 4
挨拶 文部科学省 初等中等教育局 視学官	藤枝 秀樹 様	..... 5
挨拶 環境省大臣官房 総合政策課 環境教育推進室長	三木 清香 様	..... 6

## 口頭発表の部

1 持続可能な社会づくりのための環境教育の推進 ～環境教育によって育む学力と環境保全意欲・脱プラ生活②～	東京都小中学校環境教育研究会 会長 藤森 克彦 研究部長 關口 寿也 研究員 濱田 会美	..... 8
---	---	---------

## 誌上発表の部

1 地域と連携し、将来をよりよく生きようとする児童の育成を目指した環境教育の実践 ～地域の人的・物的資源を生かした教育活動を通して～	茨城県銚田市立白鳥西小学校 校長 佐藤 雅彦	..... 24
2 地域とつながり 未来を拓く はやしまっ子の育成 ～E S Dの資質・能力を備えた児童の育成～	岡山県都窪郡早島町立早島小学校 校長 越宗 倫生 研究主任 河本 章宏	..... 30
3 地域とつながり 未来を拓く はやしまっ子の育成 ～E S Dの資質・能力の育成に向けた、中学校区での一貫カリキュラムの充実～	岡山県都窪郡早島町立早島中学校 校長 小野 秀明 研究主任 赤堀 恵一	..... 38
4 地域に働きかけ、追究し続ける子供の育成 ～ふるさと学習の継承と創造～	愛知県岡崎市立生平小学校 校長 長坂 博子 教 諭 伊奈 良晃	..... 46
5 主体的に学習に臨み、SDG sの視点で未来につなげようとする子の育成 『挑め！環境問題～平間環境守り隊』の実践	神奈川県川崎市立平間小学校 校長 佐川 昌広 総括教諭 石橋 修一	..... 52
6 主体的に学び、持続可能な社会を創造する環境教育 ～曽根干潟周辺の自然からの学びを通して～	福岡県北九州市立曾根東小学校 校長 澤野 孝雄 研究主任 高木 龍太郎	..... 58
7 <只見町小・中学校共通テーマ> 故郷只見を愛し、誇りに思う心を育てるE S D ～ 故郷のよさを学び、課題を見つめ、未来を切り拓く力へ ～	福島県南会津郡只見町立只見中学校 校長 横山 泰久	..... 64
全国小中学校環境教育研究会 沿革史		..... 73
大会宣言		..... 87

# 大会次第

日 時 令和3年2月26日(金) 14時00分 ～ 16時20分

会 場 オンライン開催(ライブ配信・期間限定録画配信)

## 会 次 第

司会・進行 事務局 伊勢 明子

1 開会挨拶 全国小中学校環境教育研究会 会 長 藤森 克彦

2 来賓祝辞(リモート)

文部科学省 初等中等教育局 視学官 藤枝 秀樹 様

3 研究発表 口頭発表 司会 事務局 伊勢 明子

4 誌上発表校紹介

5 講 演 「持続可能な社会を考える」

元NHKクローズアップ現代キャスター 国谷 裕子 氏

6 大会宣言・閉会の辞 副 会 長 棚橋 乾

## ■ 口頭発表の部 ■

### <口頭発表>

- 1 持続可能な社会づくりのための環境教育の推進  
～環境教育によって育む学力と環境保全意欲・脱プラ生活②～  
東京都小中学校環境教育研究会 会長 藤森 克彦  
研究部長 関口 寿也  
研究員 濱田 会美

## □ 誌上発表の部 □

- 1 地域と連携し、将来をよりよく生きようとする児童の育成を目指した環境教育の実践  
～地域の人的・物的資源を生かした教育活動を通して～  
茨城県鉾田市立白鳥西小学校 校長 佐藤 雅彦
- 2 地域とつながり 未来を拓く はやしまっ子の育成  
～E S Dの資質・能力を備えた児童の育成～  
岡山県都窪郡早島町立早島小学校 校長 越宗 倫生  
研究主任 河本 章宏
- 3 地域とつながり 未来を拓く はやしまっ子の育成  
～E S Dの資質・能力の育成に向けた、中学校区での一貫カリキュラムの充実～  
岡山県都窪郡早島町立早島中学校 校長 小野 秀明  
研究主任 赤堀 恵一
- 4 地域に働きかけ、追究し続ける子供の育成 ～ふるさと学習の継承と創造～  
愛知県岡崎市立生平小学校 校長 長坂 博子  
教諭 伊奈 良晃
- 5 主体的に学習に臨み、SDG sの視点で未来につなげようとする子の育成  
『挑め！環境問題～平間環境守り隊』の実践  
神奈川県川崎市立平間小学校 校長 佐川 昌広  
総括教諭 石橋 修一
- 6 主体的に学び、持続可能な社会を創造する環境教育  
～曾根干潟周辺の自然からの学びを通して～  
福岡県北九州市立曾根東小学校 校長 澤野 孝雄  
研究主任 高木 龍太郎
- 7 <只見町小・中学校共通テーマ> 故郷只見を愛し、誇りに思う心を育てるE S D  
～ 故郷のよさを学び、課題を見つめ、未来を切り拓く力へ ～  
福島県南会津郡只見町立只見中学校 校長 横山 泰久

## はじめに

全国小中学校環境教育研究会  
会長 藤森克彦

新型コロナウイルス感染拡大の影響で大会開催そのものが危ぶまれましたが、関係の皆様方のご支援ご助言をいただき、ここに第52回全国小中学校環境教育研究大会（東京大会）をオンラインにて開催できますこと、心より御礼申し上げます。

本会は昭和42年に公害教育研究会として誕生し、その後全国小中学校環境教育研究会と改名して今年度で52年目を迎えました。発足当時は地域の公害から子供たちの健康を守ることが急務であったことから、教育環境や公害に対する意識・健康の状況調査をはじめ、環境週間の行事や環境教育推進事業への協力を通じて、様々な啓発活動を進めてきました。それから半世紀、地球規模での気候変動や温暖化による影響など様々な環境問題が深刻化している現代では、地球の未来を担う子供たちに「環境を保全する意欲や態度と環境問題を解決するための問題解決能力」を育成することが喫緊の課題となってきました。さらに、コロナ危機を受けた誰も予測できない社会を生き抜くためには、世界の環境・貧困・人権・平和・開発といった様々な問題を自らの課題として捉え、主体的に学び、身近なところから協力して取り組むことを通じて、課題解決につながる新たな価値観や行動を生み出すことが重要となります。その継続によって社会全体のパラダイムシフトを図り、持続可能な社会を創り出していくことがESDの目標であり、私たちが取り組んできた環境教育のめざすところでもあります。

今、世界では、国連で掲げられた「2030年迄に達成されるべき17のゴールSDGs」の実現へ向けてESDの柱となる環境・社会・経済への取り組みが各国の施策として実施されつつあります。SDGsは、すぐにでも取り組まなければならない多様な17の内容を明確に示しているため誰にでも分かりやすく、多くの企業やNPO、行政の具体的な取り組みが加速してきました。

今回の小・中学校学習指導要領の前文にも、「多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の担い手となることができるようにする」ことが明記され、ESDを踏まえた環境教育の展開が示されました。小中学校においてSDGsを視野に入れた教育活動の充実を図ることがこれまで以上に重要になってきます。さらに、ICT環境の充実が進めば、学校間はもとより学校と社会・世界との距離はぐんと縮まり、これからの学校の在り方そのものを常に問い直すことも求められます。今こそ環境教育ESDで育む能力・態度を明確にし、主体的・対話的で深い学びによって育つ学力・活動意欲の向上を図るためのカリキュラム・マネジメントを推進することが極めて重要です。

本会ではこれからも、地球の未来を担う子供たちの主体的な学びを成立させることを大切にしながら、教育に携わる多くの方々とともに、環境教育を中心に据えたESDの研究を進めていきたいと考えます。本大会が各地域の実践交流の場となり、一層輪を広げ連携していくためのきっかけとなること。そして、さらなる進展を図る機会となることを願ってやみません。

本大会を開催するにあたり、文部科学省、環境省、東京都教育委員会、全国連合小学校長会、全日本中学校長会、東京都公立小学校長会、東京都中学校長会、日本教育公務員弘済会東京支部、日本ESD学会、日本環境教育学会、ESD活動支援センター、関東地方ESD活動支援センターの皆様をはじめ関係各位の皆様にご多大なるご指導、ご助言、ご後援を賜り、心より感謝申し上げます。

## 主体的に学習に臨み、SDGsの視点で未来につなげようとする子の育成

### 『挑め！環境問題～平間環境守り隊』の実践

神奈川県川崎市立平間小学校

校長 佐川 昌広

総括教諭 石橋 修一

#### 1. はじめに

川崎市は、多摩川に沿って南北に細長い形で、南部の臨海工業地帯には、メガソーラーなど優れた環境技術を持つ施設や企業が集積している。また、北部の多摩丘陵や東京都との境を流れる多摩川には、自然が残されている。

川崎の学校は、公害のまちというイメージから脱却し、環境先進都市としての川崎あるいは再生した多摩川というような変化の中で、行政やNPO、企業の出前授業や施設見学などの協力を得ながらエネルギー・環境教育を進めてきた。さらに、かわさき教育プランのキャリア在り方生き方教育の考えをNPOや企業と共有し、「わたしたちのまち川崎」という視点から、ふるさと川崎への愛着やシビックプライドを醸成するような川崎ならではの地域に根差したエネルギー・環境教育も進めている。そして昨年、SDGs未来都市に選定されている。

平間小学校は、多摩川のガス橋近くにある川崎市中原区の児童数500名強、創立77年の学校である。明るく素直な子が多く、平間プライドを合言葉に自分をつくり、自分のまちや学校をみんなで作り上げていこうとしている。地域の特徴として、多摩川と平間銀座商店街が挙げられる。多摩川のガス橋下には多摩川最上流部の干潟があり、海と川の生き物が集まる貴重な場所である。平間銀座商店街は、南武線平間駅から多摩川近くまで続く商店街で、サマーフェスティバルやサンバカーニバル等のイベントや、お店屋さん体験などの学習で平間小の子どもにとって大切な場所である。

平間小では、多摩川と商店街を核とした環境教育やSDGs及びコミュニティ・スクールを実施している。多忙な学校において新しい教育を始めるのではなく、ESDやSDGsの視点を加えることで、教科横断的に取り組むことや、単元づくりや教材づくりが充実するようなカリキュラムデザインが考えられ、働き方改革や地域の活性化等の学校運営面でも生かせるので、子ども・教職員・地域が元気な学校になるような取組であると考え。 (ESDやSDGsは、子どもの心の発達や自己肯定感＝平間プライドの醸成に寄与することや、主体的・協働的に学ぶ力＝主体的・対話的で深い学びを高めることなど、現場が抱える教育の諸問題の解決に大きく役立っている)

この取組は、平間小だけで行うのではなく、近隣の川崎市立平間中学校や神奈川県立川崎工科高等学校との連携、川崎市小学校教育研究会の社会科教育研究会・理科教育研究会・生活科・総合的な学習の時間教育研究会及び「エネルギー環境子どもワークショップ in 川崎」実行委員会の協力を得て、川崎から全国に発信できる教育として成り立つものと考え。

#### 2. 平間小マネジメントコンセプト

##### 平間小マネジメントコンセプト

『すべての平間小の子が、どこにいても楽しく生き生きとすごすために、

平間プライドをもって自立と共生をめざす』

(SDGsの理念である「誰一人取り残されない」に通じる考え)

本校では、自分をつくり(自分を知り、自立する)、私たちのまちや学校をみんなで創り上げていく(周囲の人たちとつながり、共生する)という意味の合言葉「平間プライド」を学校運営のマネジ

メントコンセプトの最初に掲げ、全ての教育活動をSDG sの視点から捉えて推進している。様々な学習を通して日常的に子どもがSDG sを意識しているだけでなく、特にコミュニティ・スクールとして地域とともに運営する本校では、子どもがSDG sについて学んだことや考えたことを、家族や町の人に伝え、地域とともにいかに取り組んでいくかに力を入れており、多くのステークホルダーを巻き込んだ取組を川崎市内外に発信している。

### 『すべての平間小の子どもが、どこにいても楽しく生き生きとすごすために』今年度3つの重点

#### ① 「SDG sの視点での生活科・総合的な学習の時間の研究～主体的・対話的で深い学びを大切にしたい授業」

本校は、生活科・総合的な学習の時間の川崎市研究推進校である。そこでカリキュラム・マネジメントと、主体的・対話的で深い学びの実現に向け、つながりと見通しをもった教科横断的な授業改善を推進している。さらに、持続可能な社会の創り手の育成という面からSDG sの視点を加えることで、単元づくり・教材づくりが充実するカリキュラムデザインを考えている。

#### ② 「コミュニティ・スクール～学習が豊かなものになるようなステークホルダーと連携した開かれた学校づくり」

多摩川や平間銀座商店街を核とした授業を行うため、コミュニティ・スクールを教育課程の中に位置づけ、地域人材を活用した教育活動を実践している（ガス橋下干潟観察会・大人のための多摩川ガサガサ探検や商店街での夜店出店・CM創りなど）。また、学校や地域や保護者が連携・協働して地域に根差した特色ある教育活動に取り組むことでSDG sの17の目標の達成に貢献することにつながる。この取組は、保護者や地域の協力はもちろん、様々なステークホルダーの協力を得て行っている。

#### ③ 「ユネスコスクールチャレンジ～ESDを推進するカリキュラム・マネジメント」

今年度、本校はユネスコスクールに申請している。カリキュラム・マネジメントとは、総合的な学習の時間を中心に、教科等の学びを横断的に関連づけた教育課程を創ることと考え、教員だけでなく、職員室・保健室・事務室・用務員室・給食室のESD・SDG sの取組も行っている。

## その他の特徴的な取組

### 平間SDG sフェス

本校では、全ての学年でSDG sを学んでいるが、1月にその集大成として、「平間SDG sフェス」を開催する。このフェスでは、子どもがSDG sについて発表するだけでなく、SDG sに取り組む様々なステークホルダー（PTA・町会・商店街・企業・NPOなど）が、出前授業を行ったり、ブースを出展したりする。平間小の子どもだけで行う取組ではないので、「平間SDG sフェス」と呼んでいる。このフェスを川崎の平間から世界に広く発信したいと考えている。

参加団体は、動物愛護センター・花王・日本財団・ユニセフ・JT B・JICA・TBM・KDDI・積水化学・地球温暖化防止活動推進センター・岩手県山田町教育次長・アフリカを旅する小島先生・保育園ぶどうの実平間園・県立川崎工科高校・平間町会・平間銀座商店街・平間小PTAなどである。

平間SDG sフェス全体の参加者数は、約650名（地域・教育関係者・行政・企業・政治家・マスコミなどが市内外から180名、保護者や家族470名）だった。子どもも大人も参観者であり実践者でもあるというスタンスがSDG sにふさわしいと考えた。

### エネルギー・環境子どもワークショップ in 川崎 2020

2. 8 大戸小体育館

市内の小中学生とワークショップ形式でSDG sや環境の取組についての発表を見せ合う。毎年16団体300名の児童生徒と300名程度の大人が集まるイベントである。本校では5年生がこのワークショップに参加することで、他校からの刺激を受け、環境教育のまとめとなっている。

#### 4. 5年「挑め！環境問題～平間環境守り隊」の実践

##### (1) 単元設定の理由

現在地球規模の環境問題は深刻な現状である。しかし、そのことについてなんとなく知っているだけで、どこか自分事として捉えられていない。児童に限らず大人達の認識としても、直接目に見える変化がないため実感がわかないのだと思われる。

そんな中、我々が暮らす川崎市は「公害の町」として広く知られていた歴史がある。顕著な例として多摩川の惨状は当時の資料を見ると誰もが衝撃を受ける。しかし、多摩川は一度失われた自然環境を、人々の思いと努力によって、現在では元の自然環境を取り戻している。

このことは、川崎に暮らす者としては知っていなければいけないことであり、また環境は「人の手によって良くも悪くもできる」という教訓として大きな意味をもつ。

初めにも述べたが、現在地球環境は深刻な状況にある。国連で世界の共通目標であるSDGsにも設定されていたり、この日本でも環境省から「2100年天気予報」が公式に発表されたりするほどである。このように、今こそ真剣に環境問題に取り組んでいかなければならない。そんな中、川崎市の実例は大変価値があると考えられる。

本単元を通して、子ども達には「一度壊れた自然環境も人間の手で元に戻すことができる」ことを理解し、自分達の未来のためにやるべきことを考え、これまで当たり前としてきた生活のあり方を見直し、新たな「当たり前」を創り上げてほしいと願う。

##### (2) 単元構想図

環境について考えながら生活しよう。

現在の子どもの姿

- ・無駄遣い、好き嫌いなど、自己中心的な生活態度が見られる。
- ・相手を意識して発表する力が低い。(意欲・技能ともに)
- ・学習に対して意欲的な児童が多い。

#### 探究活動1 身の回りの環境について考えよう。

##### 活動の動機づけ

#### 多摩川ガタガタ探検隊 (ガス橋)

- 身近な自然である多摩川の干潟の生き物をつかまえ、普段気づかない自然や生き物の存在に気づく。

#### 身の回りの自然環境を知ろう (課題設定・情報の収集)

- 自分達の身の回り (平間の町) の自然環境について考える。(クモの巣マップ)
- 疑問や関心をもったことをもとに個人の課題を設定し、調査する。(植物・動物・昆虫)

#### 調査内容を交流しよう (整理・分析) (まとめ・表現)

- 身の回りの自然環境について調査したことを、友だちに伝える効果的な発表方法でまとめる。(整理・分析) (まとめ・表現)
- 調査報告会を行い、交流する。(まとめ・表現)



#### 多摩川ガサガサ探検隊 (丸子橋)

##### 活動の動機づけ

- 身近な自然である多摩川の生き物をつかまえ、普段気づかない自然や生き物の存在に気づく。また、過去の多摩川 (死の川) との大きなギャップを感じさせる。

#### 中本賢さんのお話

- 多摩川の水質汚染の歴史と現在の様子との比較を通して、人間と環境のあり方を考える。
- 環境は人間の手で悪くもなるし、改善もできることに気づかせる。

## 探究活動2 環境問題について考え、自分の生活を見直そう。

環境について考えながら生活しよう。

### 現在の環境問題を知ろう（課題設定・情報の収集）

- 現在世界中で懸念されている環境問題の現状を知る。（資料・ゲストティーチャー）
- 環境改善の実践例を聞いたり、体験したりする。（出前授業）
- 疑問や関心をもったことをもとに個人の課題を設定する。

#### 活動の動機づけ

- 「2100年の天気予報」を見て、地球温暖化の現状と課題を知る。

### 課題について調べよう（情報の収集）

- 自分の課題について調べる。（本・インターネット）

### 環境問題との向き合い方を考えよう（整理・分析）

- 調べたことを整理して、自分自身が環境問題にどのように向き合っていたらよいか考える。（日常生活の見直し→学校生活の見直し）

### 自分の生活を見直そう（課題設定・情報の収集）

- 自分たちの考えた生活改善の方法を意識して、生活する。（チェック表）

### 環境問題について自分の考えや、実践したことを発表しよう（まとめ・表現）《学年交流会》

- 自分のクラスの取り組みだけでは問題を解決できないことに気づき、学年全体で取り組む意義を確認する。
- 環境問題に対する自分の考えと取り組みについて、効果的に伝える方法を考え、学年交流会で発表する。（国：「わかりやすく伝える」）
- 学年交流会を通して、学年全員で「平間環境守り隊」として活動することを確認する。

## 探究活動3 平間のみんなに私たちの実践を伝えよう

#### 活動の動機づけ

### 平間の町の現状を知ろう

- 地域に暮らす人々の環境問題に対する実態調査をする。（校内・商店街のインタビュー・アンケート活動）
- なぜ、ごみ拾いなどのボランティア活動をしているのか、活動に対する思いや身近な環境に対する考え、継続して取り組むことの必要性を聞く。



### 平間の町の環境に自分達ができることを考えよう（課題設定）

- 平間の町の環境における問題点に基づいて自分たちにできる改善策を考え、「平間環境守り隊」（各クラス）を結成する。

### 平間環境守り隊の活動計画を立てる（情報収集・整理分析）

- 具体的な取り組みをクラス全員で話し合う。（国：提案書「あしたをつくる私達」）
- 全体で取り組む内容や、グループで取り組む内容を考え、活動分担する。
- 各グループで計画書を作成する。

環境について考えながら生活しよう。

平間 みんなに私たちの実践を伝えよう (情報収集・整理分析・まとめ・表現)

○SDGsフェスで自分たちの実践を伝える準備をする。

○相手に伝える工夫を考え、効果的な発表方法を考える。

○SDGsフェスで自分たちの実践を伝える。

活動をふりかえろう (まとめ・表現)

○「平間環境守り隊」の活動内容と成果を紙媒体にまとめる。(国：「活動報告書」)

○「平間環境守り隊解散集会」報告書を基に、お互いの成果やこれからの自分のあり方を語り合う。

(有志で「エネルギー・環境子どもワークショップ」に参加)



### めざす子どもの姿

人間の生活の仕方によって環境は変わってしまうことや、自分達の生活を改めることで環境を改善することができることに気づき、日常生活において身の周りの環境について考えながら行動できるようにする。

## (3) 成果と課題

### ◎成果・子どもの意欲を引き出す手立て

#### 「多摩川体験」

多摩川でガタガタ探検・ガサガサ探検の2回の体験活動を環境学習の入り口に設定したことで、「環境は、人の手によって良くも悪くもなること」について実際に見たり感じたりしたことを通して理解を深めることができた。この考えが、本単元の軸になり、自分たちが環境改善に向けて行動を起こしたり、自分たちの活動を広めたりしようとする際の根拠になった。

#### 「2100年天気予報」

資料として提示した環境省「2100年天気予報」は、子どもたちの意欲を引き出すうえで非常に効果的だった。環境問題に対して具体的な取り組みを実践するうえでの必然性や、未来の環境に対する危機感を自分事として捉えるうえで最高の資料だった。

### ◎課題・表現力、発想力、発表方法の工夫について

上述の通り、SDGsフェスで、学習の成果や自分たちの実践を、校内や地域の人に伝えるべく、相手意識をもって発表方法を考え、伝えることができた。

しかし、子どもたちの活動の様子を見て、表現力・発想力を高めていく必要があると感じた。「どうしたら飽きずに最後まで聞いてもらえるか?」「相手の印象に残るためにできることはないか?」など、子どもたちから引きだそうにも、モデルになる発表方法との出会いが不足しているように感じた。今年度のSDGsフェスのように様々な発表方法に触れる機会を積み重ねていく必要があると感じた。

## 環境教育及び持続可能な開発のための教育（ESD）を巡る社会動向

環境省 大臣官房総合政策課  
環境教育推進室長 三木 清香

第52回全国小中学校環境教育大会の開催、おめでとうございます。新型コロナウイルス感染症による様々な制約の中、関係者の多大な御尽力で本大会が今年度も途切れなく開催されますことに、お慶び申し上げます。

最近の環境教育及び持続可能な開発のための教育（ESD）を取り巻く社会情勢を見ると、コロナ禍の影響は言うまでもありませんが、環境等の地球的問題への危機意識を背景に国連が定めた目標「持続可能な開発目標（SDGs）」実現への社会全体の変化の流れが注目されます。ヨーロッパでは、コロナによる経済ダメージからの復興の過程で、持続可能な活動に修正して新たな発展へ向かうグリーン復興が呼びかけられています。日本は、秋の第203回国会総理所信演説において、日本が2050年までにグリーン社会の実現を目指すと宣言しました。国、地方自治体、産業界をはじめ広範な社会の構成員がそれぞれの立場で知恵を絞ってSDGs実現社会への移行を図っています。2050年二酸化炭素実質排出量ゼロを表明した自治体は、201自治体(28道府県、113市、2特別区、48町、10村(2020.12.25時点))に上り、これらの自治体の合計人口は9千万人を越えました。産業界では、事業報告や投資など経営の根幹に持続可能性の観点が求められるようになり、企業が具体的な取組を表明するようになりました。SDG実現の鍵と期待されるICTは、Society5.0の取組による発達と、コロナ禍のリモートワークによる急速な普及が相まって、日常生活にも大きな影響を与えるようになりました。

このように変革していく社会においては、自分の価値観を持ち、自ら情報を入手して学び続け、正しく判断して行動できる人材、さらには、よりよい社会への智恵、先導する行動力を持つ人材が求められるでしょう。そして、その根底には、地球環境を考えた行動様式を身につけ、持続可能な社会の構成員であることが求められます。環境教育・ESDは、学習者の体験等による気づき、調べ学習等による掘り下げた認識と理解を基に、環境に配慮した行動への行動変化を得ることを目的として発達してきました。今、求められる人材育成そのものであり、昨今の社会情勢を受けた発展と普及が期待されます。本大会が後押しになることを心から願います。

我が国の環境教育・ESDの原点を為す持続可能な社会の概念は、新学習指導要領に反映され、本年度から小学校で全面実施、来年度から中学校で全面実施されます。また、2019年12月に国連が採択した「持続可能な開発のための教育(ESD):SDGs実現に向けて(ESD for 2030)」では、実施目的は、SDGsの17の全ての目標実現への貢献を通じてより公正で持続可能な世界の構築を目指すこと、と明示されました。2020年11月にユネスコが実施のロードマップを公表し、日本政府は次期ESD国内実施計画を策定中です。文部科学省と共同議長を務める環境省としても、効果的な計画を練り上げ、実施を進めてまいります。

最後になりましたが、第52回全国小中学校環境教育大会の御盛会と関係者の皆様の一層の御活躍を心からお祈り申し上げます。

# ■ 口頭発表 ■ P 8 ~ 2 2



## 1 持続可能な社会づくりのための環境教育の推進

～環境教育によって育む学力と環境保全意欲・脱プラ生活②～

東京都小中学校環境教育研究会

会 長 藤森 克彦

研究部長 関口 寿也

研 究 員 濱田 会美……P8～22



## 持続可能な社会づくりのための環境教育の推進

～環境教育によって育む学力と環境保全意欲・脱プラ生活②～



東京都小中学校環境教育研究会  
 会長 棚橋 乾  
 研究部長 関口 寿也  
 研究員 濱田 会美

### I 研究主題設定の理由

#### ー環境問題と新型コロナウイルスー

未曾有の事態に直面している令和2年度である。新型コロナウイルスの世界的蔓延は、私たちの市民生活、経済活動、衛生概念を根底から覆す事態を引き起こしている。今後も感染者数の増大は繰り返すことは必至であろうし、長期的な戦いは避けられない。治療薬やワクチンといった特効薬の開発の情報ももたらされているが、現状では終息の絵地図は描けない。コロナ前後で、世界の在り様が確実に変わったといえよう。人類が不安を覚えている。

これまで東京都小中学校環境教育研究会は、人類の行き過ぎた社会活動が引き起こしてきた環境問題に警笛を鳴らし、持続可能な社会への改善を試みる教材化を進め、授業実践を重ねてきた。地球温暖化やフードロス、海洋プラスチック問題などである。これらに取り組む中で、私たちの実生活はどう変化したであらうか。授業準備を進めて授業実践を行う時、うだるような暑い夏の日の午後、日々の給食や恵方巻等の残菜を目の前に抱えた傍、行楽で河川や海に出かけた楽しい折、私たちは当然ながらそこにある環境問題のその惨状に目を覆い、「それでも」「どうしても」何とかしなければと奮い立ち、突き動かされ、見えざるものに使命として後押しされて研究を進めてきた。しかし、滔々とした日常生活の中で、時にそれは途切れ、消沈することもあった。授業実践で子供たちと意思を一つにできたと実感し、幾ばくかでも使命を果たせた高揚感を得ることがあった時ですら、地球規模の温暖化や残菜や商店のペットボトルの陳列数が大きく変化する筈もなかった。そればかりか、枯れ葉舞う季節になれば温暖化の意識は薄らぎ、日々の給食の完食に一喜一憂し、スポーツドリンクはペットボトルを手にはせざるを得なかった。地球自体や人類を脅かす環境問題は歴然としてそこに存在し、足元まで日々迫りつつある。私たちもそれに関心を寄せてはいるが、季節や地域、時々でその体感や使命感に温度の幅があったことは否定できない。しかし、世界を席卷している新型コロナウイルス、言うなればコロナ禍は、これまでの事象とまったく趣を異にする。すなわち、私たちが生活する上で避けることのできない連続した制約や制限、意識変革を否が応なく生じさせていることである。季節や地域、時間に関係なくである。言い方を変えれば、環境問題に関する私たちの関心や意識の都合の良い逃げ場を封じる事態である。それはまるで、このままでは持続可能な社会はない、と、誰にでもわかる刃を向けているようである。

#### ー公害は終わってはいないー

翻って、1950年代から1970年代にかけて日本を揺るがした水俣病を筆頭とする公害病は、現在のコロナ禍と趣を同じくする。その発生こそ限られた地域ではあったが、それに対する不安や偏見、見通せない終息、意識改革の必要性は社会を変革した。法整備による企業の環境対策が進み、環境保全意識や環境倫理といったパラダイムシフトが進んだことは、誰もが知るところである。時を同じく昭和39年(1964年)、光化学スモッグに侵されていた東京に再び澄み切った青い空と子供たちの健康を取り戻そうという理念のもと、東京都小中学校公害対策研究会が発足した。私たち東京都小中学校環境教育研究会の前身である。かつて小学校社会科の教科書に掲載されていた「公害問題」は、現在は資料的な扱いとなって姿を残すのみとなっている。公害問題は終わった過去のものなのだろうか。公害、環境問題、新型コロナウイルスは、けっしてそれぞれ固有の問題ではない。私たち

の社会活動が根源にあつたり、社会活動によって蔓延と言う増長を招いてしまっていることを考えれば、環境問題と違って差し使え無いであろう。歴史家で、永く水俣病研究を進め、「不知火海総合学術調査団」の団長も務めた色川大吉氏はこう述べている。「公害が古くさいテーマだなんてことはない。地球温暖化も核のゴミもプラスチックの海洋投棄も、全て公害。人類がもたらした罪の解決に向けて、一人一人が自分の問題として向き合うべきだ。(R2. 11. 13 朝日新聞)」と。公害は、終わってはいない。

#### －脱プラスチックは善であるのか－

東京都小中学校環境教育研究会では、昨年度からテーマを「脱プラスチック」とし、まず中学年の指導カリキュラムを作成・実践した。その中で、私たちの生活に大きな恩恵をもたらし、ゼロにすることは事実上不可能であるプラスチックの存在自体が全て悪ということでは決してないことを実感した。違う側面、異なった角度で物事を見ること、つまり多面的な視点をもってプラスチックの存在を考えると、存在そのものではなく要はその使い様こそが課題であることが見えてきた。そして、これまでの環境教育の主流であった受け手(消費者)目線での指導カリキュラムでは不十分であることも鮮明となった。受け手(消費者)目線でのカリキュラムに沿った学習では、その結末において、プラスチック製品はリサイクルに回す、プラスチック製品(ストロー等)はできるだけ手に取らない、等のアクションをとることが常套であるが、サーマルリサイクルを除くと、プラスチックが純粹に資源として再生されるリサイクル率は25%たらずであり、受け手(消費者)目線での限界は明白なのである(「プラスチックを取り巻く国内外の状況」～H30.8 環境省)。教育が受け手目線に留まるのなら、SDGsの目指す2030年までの実効性はあるのだろうか。その実現のためには、「持続可能な社会づくり(ESD)」を実践できる人材育成を意図した、送り手(製造者、政策)目線も含めた、多面的な指導カリキュラムを推し進めていくことが必要不可欠なのである。

コロナ禍による休校により、効率的であることが優先された今年度の教育活動の実施で十分な実践となつてはいない面もあるが、昨年度作成した中学年モデルの指導カリキュラムをさらに発展させ、高学年モデルを検討した。今年、プラスチック関連の話題となった、ある製菓メーカーのチョコレート菓子の紙包装化や、高校生によるお菓子のプラスチック包装削減を求める署名への回答が神対応と称賛されたことなどからヒントを得て、商品包装からプラスチックを考える試みを行った。プラスチックが社会に爆発的に浸透していった最も大きな理由が商品のラベリング(商品包装)であることから、妥当な導入となろう。醤油や清涼飲料水、石鹼等、容器や包装に多様性のあるものを題材として、一番エコな包装はどのタイプなのかということ、まず出発点とした。エコという視点のみから考えれば、ペットボトルよりはリサイクルが容易な缶、缶よりはリユースできるビンがエコであることは明白である。しかし、児童の視点で、実際の生活に即して考えてみると、衛生的に安全、ペットボトルの方が過剰包装ではない、こぼさないので無駄にならない等、必ずしも素材そのものがエコであることが善であると言えない状況が垣間見られることとなった。折りしも、コロナ禍において衛生面がクローズアップされている現在である。前出のように、昨年度の研究から、一側面をもってしてプラスチックの存在全てが悪であるとは私たちは考えてはいない。そして、実際に脱プラスチックを推進しようとした時、衛生面や過剰包装、フードマイレージ(フードロス)といった問題も密接にかかわることになり、まさに環境ジレンマを生じさせる。さて、私たちは脱プラスチックに向けて、どのような戦いを挑むべきなのであるか。

#### －私たちにESDがある－

プラスチック問題は、差し迫った喫緊の問題である。それは、今後の排出をゼロにすれば、自然治癒力に期待して改善されていく可能性を僅かでも秘めた地球温暖化とは趣を異とする。排出されたプラスチックは、回収しない限り存在していく。また、最終的な処分方法の課題はあるにせよ、その地域の放射性物質や有機水銀を排除すれば、新たな惨劇を一定程度防ぐことができるといった地域限定的な問題でもない。新型コロナウイルスと同様に、地球規模での対策が不可欠な問題である。一方で、児童・生徒にとって目に見える形となつて実感することのできる事象として存在し、未来の地球や人類の存続に繋がるアクションへと変容させていく可能性を秘めた、環境教育の旗印となりうる問題で

もある。そして、そこに取り組む教育の視点が、エコ、衛生、安全、生活形態、社会通念、食糧問題等、多岐にわたる課題を包含し、解決の糸口の見えないものであることも明らかである。これは即ち、ESDそのものではないのであろうか。国連の掲げるSDGsの達成に全力で取り組むべく、学校教育というテリトリーでESDを推進していかなくては、私たちに明日はない。新学習指導要領の前文には、「持続可能な社会の作り手となることができるようにする」と記されている。この先の世界をどうしていきたいのか、そのためにどのような人間を育てるのか、そのビジョンをもたない教育は、持続不可能な地球を増長させていく。公害の滅失、持続可能な社会の実現、2030年までの目標としてのSDGsの達成には、数ある問題に主体的に立ち向かい、発信、行動する人間が絶対に必要なのである。その人材育成のために必要となる学校教育の学習活動の根幹は、学校経営に直結した「総合的な学習の時間」である。GAP(グローバルアクションプログラム)やホールスクールアプローチ、カリキュラム・マネジメント、ESDカレンダーなどに基づいて、未来を構築する学びを実践するために「総合的な学習の時間」の果たすべき役割は大きい。

本研究会では、これまで持続可能な社会づくりに貢献できる人材育成のために、環境教育を推進してきた。その理念や指導法などについて普及啓発の取り組みも重ねてきた。これまで本研究会が取り組んできたESDの授業概念を盛り込み、持続可能な地球に向けての小さな一歩を積み重ねてゆくべく、誰もが実践できる指導計画例を作成した。環境教育とは何か、ESDとは何か、学校現場が来るべき私たちの明日に向けて迷うことなく前進するために、本研究を生かして欲しい。

## II 研究の方法

- 1 役員定例会で理論構成を行う。
- 2 児童のアンケート調査をもとに、生活の中でのプラスチック容器への意識を測る。
- 3 全国小中学校環境教育研究会で作成した「新しい環境教育」で示す児童・生徒の3つの能力・態度をもとに、本会研究部で指導計画・授業プランを創造する。

### 【児童・生徒に身に付けさせたい3つの能力・態度】

地球とそこに生きるすべての生命にとって

(1) よりよい環境を求め持続させる意欲や態度

(2) よりよい環境のあり方を考える力

(3) よりよい環境の創造を目指す社会にすすんで参画し、貢献する実践力

- 4 全国小中学校環境教育研究会、外部機関と連携をし、研究員各校において指導実践を深める。
- 5 全国小中学校環境教育研究会の発表会（令和2年2月26日 オンライン開催）において、研究発表を行う。

## III 研究経過

- 1 学校現場でのESD推進状況の確認
- 2 取り組み可能な課題の検討
- 3 昨年度取り組んだ中学年モデル「替えて代えて変える未来」の検証、及び高学年モデルの検討
- 4 児童の生活の中での「プラスチック」への意識について調査、資料収集、学習会
- 5 「本当のエコって何だろう」の指導計画例の作成
- 5 研究会員の学校における授業実践（一部）
- 6 ポートフォリオ、イメージマップによる授業検証

## IV 第6学年 総合的な学習の時間「本当のエコって何だろう」指導計画例

- 1 指導計画テーマ「本当のエコって何だろう」
- 2 指導計画の目標

- ・プラスチックを中心とした私たちの生活と環境との関係に気付き、人や環境に配慮したより良い生活を創造する資質・能力・態度を身に付け、生活を見直す。

### 3 指導計画の視点

- (1) 私たちの身の周りにプラスチック製品があふれていること
- (2) プラスチックが紫外線で分解されてマイクロプラスチックになること
- (3) マイクロプラスチックが海洋に累積し、海洋生物や人間に対して害があること
- (4) プラスチック製品に対する社会の取り組みと私たちの生活との対比
- (5) 2030年に向けたプラスチック使用のアクション

### 4 他教科との関連

第6学年	
【教科】 単元	本指導計画との内容の繋がり
【国語】 情報と情報をつなげて伝えるとき	・目的や意図に応じて、集めた材料を分類したり関係づけたりして、伝えたいことを明確にする
【国語】 人を引きつける表現	・心が引かれる表現には、どのような工夫や効果があるか
【社会】 暮らしの中の基本的人権の尊重	・憲法で保障されている健康で文化的な生活を営む権利
【社会】 暮らしの中の国民主権	・憲法の国民主権の考えは、市や国の政治にどのように反映されているのか
【社会】 これからに向けたまちづくり	・これからに向けて私たちの暮らす街にはどのような課題があり、どのような取り組みが行われているのか
【理科】 私たちの生活と環境	・私たちの生活が環境とどのように関わっているか
【理科】 食べものをした生物どうしの関わり	・食べ物から生物同士の関係を考える
【理科】 地球環境を守る	・私たちは、地球環境とどのように関わっていけばよいのか
【家庭】 持続可能な社会を生きる	・生活と環境のかかわりを考え、生活をしよう ・物やエネルギーをどう使うのか

### 5 評価の方法

- (1) 事前のアンケート
- (2) プラスチック製品に関する是非についての意見とその変容
- (3) 授業毎の振り返り(ポートフォリオ)
- (4) 行動発信への意欲と継続的な活動の態度

### 6 指導計画例 「本当のエコって何だろう」(全5次・25時間程度)

次	小単元テーマ	指導内容	支援・留意点
1 3 時 間	ピクトグラムから考えるSDGs (つかむ・調べる)	○身の回りのピクトグラムを知ろう。 ○絵文字にどんな意味やメッセージが込められているか想像しよう。 ○今、地球で起こっていること。	・トイレや温泉、ピクトくんの紹介。 ・メッセージの書いていない絵文字を1つえらび、班でメッセージを考える。 ・猛暑・台風・森林伐採・ホッキョクグマ・枯れた土地・WF

		<p>○SDG sを知る。 ○気になる目標を1つ選んで調べる。</p>	<p>Pの給食支援・食品ロス・海ゴミなどの写真資料。 ・SDG sという言葉をおさえる。 ・『SDG sスタートブック(東京書籍)』。</p>
2 4 時間	<p>身の回りの品物のプラスチック使用について確かめよう (つかむ・調べる)</p>	<p>○買うならどっち? 【買い物①】好きな商品を選ぼう。 【買い物②】エコな商品を選ぼう。 ・飲料の容器の移り変わりを考える ・なぜ使われる?プラスチック。</p>	<p>・何をなぜ選んだか必ず理由を書く。 ・実際の商品を手に取りながら、買い物体験をする。 ・パッケージをよく見て選ぶ。 ・何をなぜ選んだか必ず理由を書く。 ・プラスチックが使われる理由について考え、知る。(利便性、陳列販売、保存等)</p>
3 2 時間	<p>この地球のプラスチック汚染 (つかむ・調べる)</p>	<p>○プラスチック汚染の現状を知る。 ・身の回りのプラスチックを確認しよう。 ・プラスチックを使用していない製品を見つけよう ・想像以上の廃棄プラスチックが存在していることを実感する。</p>	<p>・国連広報センター映像「プラスチックの海」視聴。 ・脱プラ生活の困難さの実感。 ・プラスチックの製造から廃棄までの資料。 ・マイクロプラスチックを顕微鏡で観察。 ・動物や人体への影響。</p>
4 8 時間	<p>本当のエコは? (つかむ・調べる・まとめる・発信する・調べる) ・プラスチック削減 ・プラスチックリサイクル ・脱プラスチック</p>	<p>○企業のプラスチック削減の取り組みから考える。 ・ネスレ日本の取り組みの紹介。 ・(株)ブルボンの記事の紹介。 ・わかったことやさらに調べたいことを書こう。 ○プラスチックリサイクルの今について考えよう。 ・飲料業界のペットボトル回収の取り組みの紹介。 ・プラスチックリサイクル、再生プラスチックの企業の取り組みの紹介。 ○前回考えたことや調べたいことをクラス全体で共有する。 ○調べ学習を進める。</p>	<p>・実際のお菓子の容器や包装を手に取りながら考える ・記事の感想を近くの人と共有する。 ・外部協働。 ・行政や企業の脱プラ施策を知る(外部協働)。 ・リサイクル率が向上しない理由を考える。 ・代替プラスチックにはどんなものや工夫があるか知る。 ・脱プラスチックの打開策模索。 ・タブレットやお菓子やジュースのパッケージを活用しながら個々に調べ学習を進める。</p>
5	<p>地球に送るアクション (発信する・調べる・)</p>	<p>○脱プラスチックに向けた調べ学習の成果を共有しよう。 ・政治、物流システム、消費者意</p>	<p>・製造から廃棄までのスパンで考えられているか。 ・行政や企業へのポジティブ</p>

8 時 間	まとめる・発信行動 する)	識、様々な側面からの脱プラスチックへの提案を共有する。	提言により、脱プラスチックへのアクションを実践する（外部協働）。
	・脱プラスチックで 社会を変えよう	・持続可能な社会に向けた個人や 家庭、コミュニティでできるアク ションを起こす。	
	・考えたことを共有 してさらに深める	○成果共有を基に、さらに調べ学 習を進め、提言としてまとめる。	・「こんな商品があったらもっと いいな」「こうした方がもっとエコ だな」という意識をもたせる。
	・脱プラスチック提 言	○実践と外部発信。	・外部協働者、保護者、地域の 方、在校生に向けて、まとめた 提言を公表する。 ・児童会や町内会等で提言に協 力できないかを探る。

## 7 指導細案（第2次）

次	時	単元過程	指導内容	支援・留意点
2 次	1	つかむ 調べる 共有する	<p><b>1 番好きな商品を選ぼう</b></p> <p>○どれを選んで買いますか。</p> <p><b>【買い物①】好きな商品を選ぶ</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・お菓子や日用品など、数種類の包装が異なる商品の中から自分が1番好きな商品を選ぶ。（全6品）</li> <li>・実際の商品を手に取りながら、買い物体験をする。</li> </ul>  <p>・ワークシートに選んだ商品とその理由をまとめる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・普段、商品を選ぶ際にどんなことに気を付けながら買い物をしているか全体で確認する。</li> <li>・家庭科で学んだことと関連づける。</li> </ul> <p>・何をなぜ選んだか必ず理由を書く。</p>

●買い物1 好きな商品を選ぶ

	商品	○×△	理由
1	しょう油 (びん)	×	家で使っているしょう油がこの ボトルだから、使いやすから
	しょう油 (密封ボトル)	○	
	しょう油 (特大)	×	
2	コーラ (びん)	×	いつもペットボトルで飲みやす から、持ち運びやすいから
	コーラ (缶)	×	
	コーラ (ペットボトル)	○	
3	ラーメン (袋)	×	その包装のままで食べる 食べやすいから
	ラーメン (紙容器)	○	
	ラーメン (発泡スチロール)	×	
4	ポテチ (紙カップ)	×	小さくしてお茶を飲んでいる から
	ポテチ (紙箱)	○	
	ポテチ (パウチ)	×	
5	チョコ (板)	×	1つ1つお茶を飲んでいる から
	チョコ (紙箱)	×	
	チョコ (お徳用)	○	
6	石けん (ポンプ)	○	うめがきかきかきかきかき 家で使っているから
	石けん (紙箱)	×	

・選ぶときに考えたことを書く。

C : 食べやすさ、使いやすさ、持ち運びできるもの、値段が安いもの、量がちょうどよいか、消費期限が長いもの、ベルマークの点数が高いもの、コロナだから個包装のもの、詰め替えができるかどうか 等

・わかったことを発表し、共有する。

2 つかむ  
調べる  
共有する

1番エコな商品はどれか比べて選んで考えよう

○どれを選んで買いますか。

【買い物②】エコな商品を選ぶ

- ・お菓子や日用品など、数種類の包装が異なる商品の中から環境に配慮した1番エコだと思う商品を選ぶ。(全6品)
- ・実際の商品を手に取りながら、買い物体験をする。



- ・パッケージをよく見て選ぶよう伝える。
- ・お菓子の容器や包装を手に取りながら考える。
- ・グループ活動での児童の面白い答えを拾い、クラス全体で共有する。

- ワークシートに選んだ商品とその理由をまとめ、グループで共有する。

●買い物2 環境を考えた商品を選ぶ

	商品	Ox△	理由
1	しょう油 (びん)	○	ボトルは容量がプラスチックなのでリサイクルできるびんを選びました。
	しょう油 (密封ボトル)	X	
	しょう油 (特大)	X	
2	コーラ (びん)	△	ペットボトルはプラスチックなのでリサイクルのできるびんを選びました。
	コーラ (缶)	○	
	コーラ (ペットボトル)	X	
3	ラーメン (袋)	X	袋と発泡スチロールの容器はプラスチックなので環境にいい紙容器を選びました。
	ラーメン (紙容器)	○	
	ラーメン (発泡スチロール)	X	
4	ポテチ (紙カップ)	○	パウチはプラスチックなので紙箱はプラスチックも入っているため紙製です。
	ポテチ (紙箱)	△	
	ポテチ (パウチ)	X	
5	チョコ (板)	X	板でも使用はプラスチックやアルミ缶が使われているので紙箱。
	チョコ (紙箱)	○	
	チョコ (お徳用)	X	
6	石けん (ポンプ)	X	紙箱は紙製ですが...
	石けん (紙箱)	○	

- プラスチックの問題は、児童の将来にも関係がある身近な問題であることをもう一度実感させる。

- 前時と選んだ商品が同じだったか、変わっていたか確認する。
- わかったこと・次回もっとくわしく調べたいことを書く。

C : 牛乳はパックとびんはどちらがよいか、紙を使うことのメリット・デメリット、企業のエコな取り組みは何か、素材 (紙・プラ・ビン・缶) の利点と欠点、ペットボトル・かん・ビン・紙パックの何が一番エコか、一番環境に良い容器は何か、一番エコなお菓子は何か、一番エコなお菓子の企業はどこか、お菓子の袋にプラスチックが使われていないものはないか、プラスチックはどのようにリサイクルしたりするのか、どの資源が一番エコなのか、デメリットのないリサイクルはあるのか、リサイクルに使う電気などはどれくらい地球に負担がかかるのか 等

3	調べる	本当に1番エコな商品かどうか調べよう	
4	まとめる	<p>○前回考えたことや調べたいことをクラス全体で共有し、調べ学習を進め、個々でまとめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ワークシートに書いた1番エコな商品だと思ふものとその理由をグループで話し合う。</li> <li>・自分が調べたいことを近くの人と共有する。</li> <li>・タブレットやお菓子やジュースのパッケージを活用しながら個々で調べ学習を進める</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・何ができるかよりも「こんな商品があったらもっといいな」「こうした方がもっとエコだな」という意識をもたせる。</li> </ul>

## 8 授業の様子、児童の感想

《授業の様子》

(1) 「紙ストローは本当に良いのか」(児童の調べ学習でまとめたレポートより)

○紙ストローとは

【自分の考え】

- ・ネットでけんさくすると「まずい」とか「ふやける」といった声が多い。
- ・でも環境のことを考えると紙のほうが良いと思うが、私はプラストローのほうがのみやすいし、良いと思う。

【調べたこと】

- ・スターバックスコーヒージャパンはプラストローを順次紙ストローに変える。
- ・プラスチックによる海洋汚染の問題。
- ・紙ストローはコストが高く、プラストローよりも耐久性が低い。
- ・ストローをはじめプラスチック製品のごみが世界で深刻な問題になっている。
- ・プラスチックは生きるために必要なもの。
- ・海洋ごみの7割がプラスチックごみ。
- ・世界のペットボトルが海に流れ着いている。



(太平洋側・・・日本製が多い、日本海側・・・中国か韓国製が多い)

【こんな商品があるといいなあ】

- ・プラストローが環境によくなって、紙にしたのにあまりよくなならない。プラにもどして、洗えるマスクがあるように耐久性の強いプラスチックにして洗って繰り返し使えるようにする。
- ・飲食店かカフェなどで飲む時は自分で持参する。とかコーヒーなどをストローなしで飲む工夫をする。
- ・ストローをつける場合にはレジ袋のように1本1円や2円くらいのねだんをつける。そうすれば断る人がふえるかもしれない。

【自分たちにできること】

- ・生活に必要なプラスチックだけど、使いすぎに注意する

(2) 「エコバックについて」(児童の調べ学習でまとめたレポートより)

### 【エコバッグは本当にエコなのか】

レジ袋は生産の際の負荷がとても少ないらしいです。どれくらいかという、コットンのバッグの131分の1ぐらいだそうです。これは、レジ袋を1枚使うのと、コットンのバッグを131枚使ってようやく同程度をいうことです。

では、エコバッグはエコではないのでしょうか。

答えは「エコである」です。世の中にはコットンよりエコな素材もありますし、コットンでも131回以上使えばレジぶくろより影響が少なくなります。重要なのは、どの素材を使うかではなく、何回使うか、なのです。言ってしまうとレジ袋を何回も利用する方が負荷が低いのです。

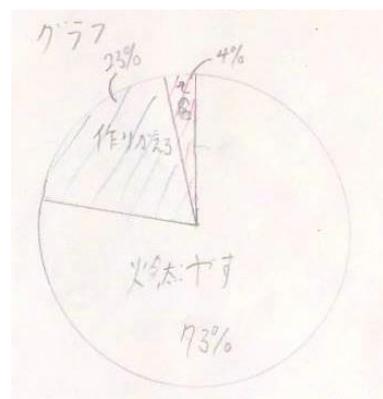
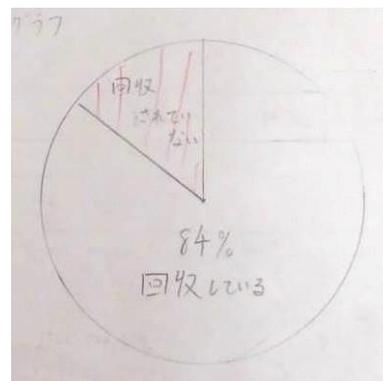
僕は現在、「エコバッグを使えば環境にいい」という風潮があるように思います。しかし、実際には何回も使わないと環境に良いといえないのです。それなのに「汚れてきたから新しいバッグを買う」や「新しいデザインのバッグが欲しい」というような人がいるように思えます。一番危険なのはこのことを意識していない人がいるということです。一見、環境に良いことをしているように見えても実際にはレジ袋以上に資源を消費している人がたくさんいます。そういった人を注意することで、資源の無駄使いをおさえられると思っています。

### 【リサイクル】

日本のリサイクル率は高いときいたことがあったので、実際どうなのか調べてみました。日本のプラスチックゴミ回収率は84%だそうです。これは世界トップクラスの数値であるそうです。

では、これ以上プラスチックなどの対策はいらないのでしょうか。答えは「必要である」です。実は回収されたプラスチックゴミの73%は「燃やしている」らしいのです。というのも、リサイクルには3種類あり、その中の1つにサーマルリサイクルというものがあります。このリサイクルはプラスチックを燃やして発電するというものです。僕はこれではいけないと思っています。

海外ではほかのプラスチック製品に作りかえるリサイクルなどをしているそうです。日本ではそういったリサイクルは23%しかありません。サーマルリサイクルは二酸化炭素を出すのであまり環境に良いとはいえません。84%も回収しているのに、もったいないと思います。日本でも、作りかえるリサイクルが広まることを願っています。



### (3) 「ぼくたちができること」(児童の調べ学習でまとめたレポートより)

現在、地球はかつてないスピードで環境が変化しています。なので、まず自分たちができることをやっていくことが大切です。

#### 【家庭でできること】

- ・電気を大切に使う。
- ・水を大切に使う。
- ・ゴミを分別する。

#### 【外出時にできること】

- ・「マイ〇〇」をもつ。(たとえばマイバッグなど)
- ・近くへ出かけるときは、徒歩や自転車を使う。

**【買い物のとき】**

- ・詰め替え商品を買う。      ・不要なレジ袋や過剰包装は断る。
  - ・リサイクル商品を購入する。
- などのことをすると環境にやさしいと思います。

<p>〈ほくちかてきこと〉</p> <p>2つ目は新品にこだわらないです。日本人は新品が好きですが、新しくないものでも十分使えるので、それを使うことがエコにつながります。また、セールや安いからといって、新しいものを買って環境に負荷がかかります。なので中古のものを買ったり、リユースすることが環境にやさしいと思います。</p>	<p>2つ目は新品にこだわらないです。日本人は新品が好きですが、新しくないものでも十分使えるので、それを使うことがエコにつながります。また、セールや安いからといって、新しいものを買って環境に負荷がかかります。なので中古のものを買ったり、リユースすることが環境にやさしいと思います。</p>	
<p>3つめは、地元産のものを食べるです。地元産の、それもオーガニックなものを食べたほうがエコだし、体にもよいです。なぜエコかという、たとえば、遠いところからくる食べ物は、転送でトラックや飛行機を使っています。そうするとガソリンなどの資源がもったいないので、地元産の食べ物を食べると環境にやさしいです。</p>	<p>3つめは、地元産のものを食べるです。地元産の、それもオーガニックなものを食べたほうがエコだし、体にもよいです。なぜエコかという、たとえば、遠いところからくる食べ物は、転送でトラックや飛行機を使っています。そうするとガソリンなどの資源がもったいないので、地元産の食べ物を食べると環境にやさしいです。</p>	

**【自分の考え】**

自分たちができるエコなことがたくさんあり、そんなにむずかしいことではないので、みなさんも注意しながら生活してみてください。

2つ目は、新品にこだわらないです。日本人は新品が好きですが、新しくないものでも十分使えるので、それを使うことがエコにつながります。また、セールや安いからといって、新しいものを買って環境に負荷がかかります。なので中古のものを買ったり、リユースすることが環境にやさしいと思います。

3つめは、地元産のものを食べるです。地元産の、それもオーガニックなものを食べたほうがエコだし、体にもよいです。なぜエコかという、たとえば、遠いところからくる食べ物は、転送でトラックや飛行機を使っています。そうするとガソリンなどの資源がもったいないので、地元産の食べ物を食べると環境にやさしいです。

**【環境にやさしい生活】**

環境にやさしい生活を紹介します。あまり車にのらないことです。車に乗る回数を減らすと、炭素の足跡という意味の Carbon Footprint (訳: CFP) を減らすことができます。この炭素は二酸化炭素を表します。二酸化炭素は地球温暖化の原因となるので、環境にやさしくありません。歩くや自転車で移動の方が環境にやさしいと思います。

(4) 「ビンと缶の容器はどちらが環境によいのか」(児童の調べ学習でまとめたレポートより)

【調べたこと】

ビンと缶の容器はどちらがよいのか、びんの容器はリターナルびんとワンウェイびんがあり、リターナルびんは何度か使えてワンウェイびんは一度しか使うことができません。しかしリターナルびんは、洗浄してもう一度びんとして使いリユースされています。ワンウェイびんもびんの原料やその他の原料として利用され、リサイクルされています。

一方、缶の容器はアルミニウムでできていて、回収した缶を溶かして再び新しい缶にして、リサイクルをしています。

日本のびんの回収率はほぼ100%で、アルミ缶のリサイクル率も90%をこえています。

では、缶の容器とびんの容器はどちらが環境によいのでしょうか。500ミリリットル容器1本あたりのCO<sub>2</sub>排出量を比較すると、びんが62グラム、缶が93グラムで、びんの方がエコという結果が出ています。このようなことから、びんと缶の容器ではびんの容器の方が環境によいということがわかりました。日本では缶が主流になりつつありましたが、びんを見直そうという動きもあります。

【自分の考え】

びんと缶の容器ではびんの方が環境によいということがわかったので、環境について考えて買う時はびんか缶で今までは悩んでいたけれど、これからはびんの飲み物の容器を買おうと思います。びんの方が環境によいということがわかったけれど、一番大切なことはリサイクルやリユースをすることが一番大切だと思いました。

《児童の感想》

- 自分で買い物に行く時に、素材などをよく見て買うものを決めたい。
- 自分の好きなものを買うと環境に良くなかった。
- エコバックはいつも買っていたらエコではないと思う。
- 使う場面それぞれで一番エコなのを選ぶとよいと思う。
- リサイクルだから地球にやさしいわけではないことがわかった。
- 環境にやさしいものが人それぞれ違ったけれど、みんなの意見や理由に納得できた。
- 過剰包装されているものが多い。エコなものを探す。そしてそれはなぜエコなのか調べたい。
- 今日見た商品のほぼ全部にリサイクルマークがついていて会社も工夫をしていると思った。
- お菓子の袋にプラスチックが使われていないものを調べたい。

《本学習指導を行う際にヒントとなるキーワード》

○プラスチック製品に関すること

- ・コスト    ・耐久性（長持ち、使用回数）    ・リユース    ・海洋漂流
- ・プラスチック原料の資源量（化石燃料）

○リサイクルに関すること

- ・サーマルリサイクル処理    ・リサイクル過程におけるCO<sub>2</sub>排出量
- ・びんのリサイクル（リターナル、ワンウェイ）    ・リサイクルするからよいとは限らない
- ・風潮（分別回収やリサイクルという行為で安堵）

○消費行動に関すること

- ・地産地消    ・マイレージ    ・意識した商品選択    ・意識した使用
- ・好きなものと環境に良いものは異なる

9 児童意識調査の結果 (都内小学6年生275名にアンケートを行った)

(1) 好きな醤油の容器、エコな醤油の容器はどれですか。



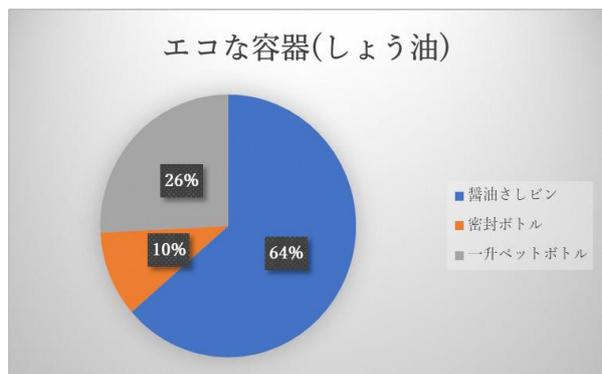
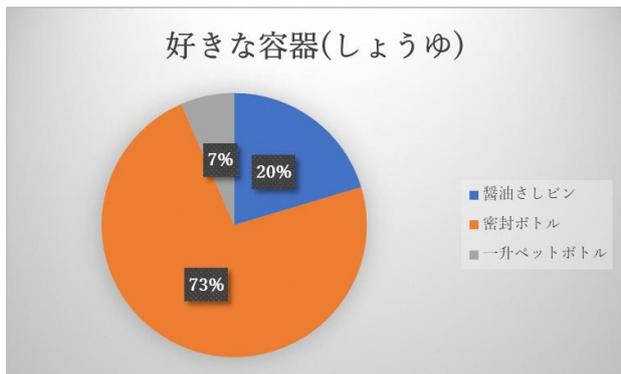
醤油さしビン



密封ボトル



一升ペットボトル



密封ボトルは、利便性、衛生面、鮮度感等が消費者に受け入れられ、登場から日が浅いが急速に浸透した。その結果がそのまま調査にも表れ、好きな容器では73%に上るが、エコかどうかでは10%に留まった。容器の材質を考えればもちろん非エコの筆頭である。しかしながら、児童の家庭において、密封ボトルの利便性が、エコという視点に打ち勝ち使用されていることが垣間見られた。これは消費者目線の限界ともいえる。

一方、一升ペットボトルがエコであるとの回答が26%にも達していることは意外であった。その理由としては、「ペットボトルはリサイクルしやすいからエコ。」「ビンのように割れない。」といった回答が複数見られた。ペットボトル(プラスチック)のリサイクルが一向に進んでいない現状を他所に、児童の中では、「ペットボトルはリサイクルできる。リサイクルしている。」という思考ができつつある事実も判明した。現状を丁寧に紹介する機会が必要である。

(2) 好きなコーラの容器、エコなコーラの容器はどれですか。



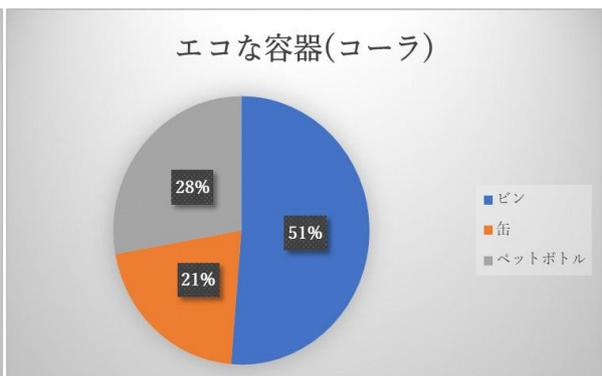
ビン



缶



ペットボトル



児童にとっても親しみがあり、児童の世界観に最も生活に即している容器が飲料水の容器であろう。ペットボトルが好きという回答が65%に上ったのはその利便性から予想通りであった。そして、ビンが好きと答えた児童も意外に多く27%に上った。その理由としては、「びんで飲むとずっと冷えている。」「おいしい。」「かっこいい。」「昭和レトロな感じが好き。」「マイクロプラスチックが出ない。」等、味覚とファッションとしての視点が上がっていた。

一方、フードマイレージや入手性も考慮すると、最もエコな容器は総合的には缶であろう。しかし、リユースのイメージから最もエコであると多く答えたのはビンの51%であった。ここで過誤できないのは、「アルミ缶は使い捨てだからエコではない。」「缶は電気の缶詰とも言われるアルミを使っているのだから、使ったら環境に悪そう。」「ペットボトルはリサイクルでき、回収もコンビニやスーパーで出来るからエコ。」という記述である。ペットボトル(プラスチック)のリサイクルの難しさや、ビンのリサイクル(リユース)システムが崩壊しつつある現状も授業の視点として組み込む必要性に迫られていることが如実に表れた。また、缶が児童の生活に身近ではなくなっていることも読み取れた。現代の社会システム、流通システムへの幅広い知識がなくては、議論の方向性を見誤る可能性がある。児童間で議論する際の資料的な知識として不可欠な要素である。

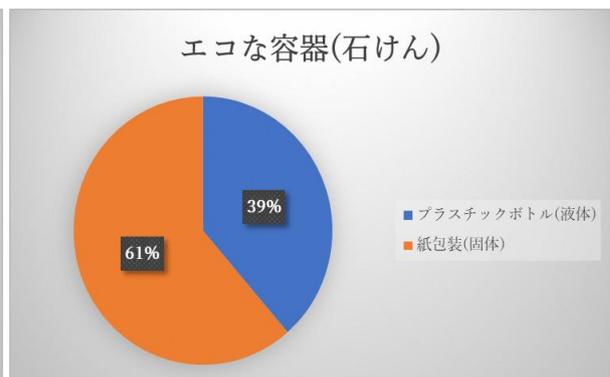
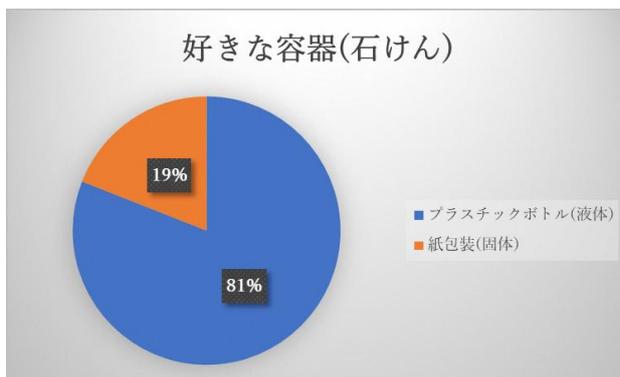
(3)好きな石けんの容器、エコな石けんの容器はどれですか。



プラスチックボトル(液体)



紙包装(個体)



紙包装がエコな容器であるとの答えが39%に留まった。その理由としては、「紙包装は毎回紙箱を捨てるけど、プラスチックボトルは中身を入れたら何度でも使えるからエコ。」「プラスチックボトルは使い捨てにならず、詰め替えて何度でも使える。」「プラスチックボトルは長く使い続けられる。」などが上がった。製品が家庭内にあるタイムスパンのみに着目している記述である。何がエコかを考えるとき、当然一つ一つの製品の製造から廃棄までのスパンで視点を広げる必要がある。授業を行うときの抑えておくべき事柄であることが見て取れる。

(4)児童意識調査のまとめ

「ペットボトルはリサイクルできるからエコ。」「回収できるからエコ。」「詰め替えて再利用

できるからエコ。」といった認識は、社会構造が複雑化し、私たち(児童)の生活から垣間見える物事だけで判断することは、「木を見て森を見ず」に繋がってしまうことを鮮明にした。単に脱プラスチックを課題として授業で取り組むことはたやすい。ごみとして散らばったプラスチックがマイクロプラスチックとなり、環境破壊を引き起こすといったシナリオである。しかし、それは非常に単面的な論理である。その論理は、私たち(児童)が日常生活を送る中で、「回収されればリサイクルできている。」「繰り返し使用したから十分エコであった。」という実感に掻き消される。社会の行く末を見誤りかねない論理といえる。かつ、それが例え誤った論理であったとしても、マイクロプラスチックの排出と実生活の現状がマッチしなければ、それは未来に繋がらない授業であり、SDGsの達成に資する人材育成のESDとはならない。一つのテーマをもって授業を行う際、指導者側のテーマに対する情報収集、それぞれの事柄の関係性、テーマへの視点とスタンス、テーマの社会とのかかわりと動きを揃え、総合的に判断して児童に提示していくことが求められる。児童にESDを進める上で、実はそれ以上に指導者側にSD(Sustainable Development)の思考が不可欠である重要性が、今回の児童意識調査から改めて浮かび上がっている。

## 10 考察

授業実践を重ねる中で、児童自身が「環境ジレンマ」を実感し、迷うことで初めて思考が深まっていく姿が、ポートフォリオから読みとることができた。指導者側が授業展開のために準備したものや情報は、商品そのものであり、現在の社会にリアルに即した出来事であり、ホットなニュースであり、家庭を飛び出したマクロな視点であり、情報をた易く得られるツールであった。良い意味での旧態依然とした実際に自身の手にとることから得られる情報と、マスコミを通じて様々な立場の人や組織から発せられる情報、インターネットを通じて得られる様々な考察や知見と言った情報、それらが混然一体となったからこそ、「環境ジレンマ」を実感することができたと言える。

“環境ジレンマを感じるから難しい”ことは、これまで環境教育が敬遠されてきた一つの原因であるが、ことESDに即せば、それはまたとない題材であり、過程になるであろう。この授業、環境教育の授業、ESDの授業の答えは一つではない。かつ、明確な答えはない。目指すものは、私たち、そして子供たちが、未来に向けて今と違った価値観の、より良いシステムの社会を創造していこうとする意志の醸成そのものである。新学習指導要領の謳う、“資質・能力”、そしてあえて付け加えるならば“態度”の育成とは、まさにこのことではないだろうか。

私たち東京都小中学校環境教育研究会は、これからも、澄み切った天高い青い空を東京に、そして世界に広げるため、ESDの手法を用いた環境教育を進めていく所存である。手を取り合い、それがたとえ小さな教育活動であったとしても、持続可能な社会の創造を信じて取り組んでいきたい。

この教育活動のもとに手を取り合うためのアクセスをお待ちしています。

[東京都小中学校環境教育研究会 <http://kankyokyoiku.jp/tokyo/>]

# □ 誌上発表 □ P 2 4 ~ 7 2



- 1 地域と連携し、将来をよりよく生きようとする児童の育成を目指した環境教育の実践  
～地域の人的・物的資源を生かした教育活動を通して～  
茨城県銚田市立白鳥西小学校 校長 佐藤 雅彦……P24～29
- 2 地域とつながり 未来を拓く はやしまっ子の育成  
～E S Dの資質・能力を備えた児童の育成～  
岡山県都窪郡早島町立早島小学校 校長 越宗 倫生  
研究主任 河本 章宏……P30～37
- 3 地域とつながり 未来を拓く はやしまっ子の育成  
～E S Dの資質・能力の育成に向けた、中学校区での一貫カリキュラムの充実～  
岡山県都窪郡早島町立早島中学校 校長 小野 秀明  
研究主任 赤堀 恵一……P38～45
- 4 地域に働きかけ、追究し続ける子供の育成 ～ふるさと学習の継承と創造～  
愛知県岡崎市立生平小学校 校長 長坂 博子  
教 諭 伊奈 良晃……P46～51
- 5 主体的に学習に臨み、SDG sの視点で未来につなげようとする子の育成  
『挑め！環境問題～平間環境守り隊』の実践  
神奈川県川崎市立平間小学校 校長 佐川 昌広  
総括教諭 石橋 修一……P52～57
- 6 主体的に学び、持続可能な社会を創造する環境教育  
～曽根干潟周辺の自然からの学びを通して～  
福岡県北九州市立曽根東小学校 校長 澤野 孝雄  
研究主任 高木 龍太郎……P58～63
- 7 <只見町小・中学校共通テーマ> 故郷只見を愛し、誇りに思う心を育てるE S D  
～ 故郷のよさを学び、課題を見つめ、未来を切り拓く力へ ～  
福島県南会津郡只見町立只見中学校 校長 横山 泰久……P64～72

## 地域と連携し、将来をよりよく生きようとする児童の育成を目指した環境教育の実践 ～地域の人的・物的資源を生かした教育活動を通して～

茨城県鉾田市立白鳥西小学校  
校長 佐藤 雅彦

### 1 はじめに

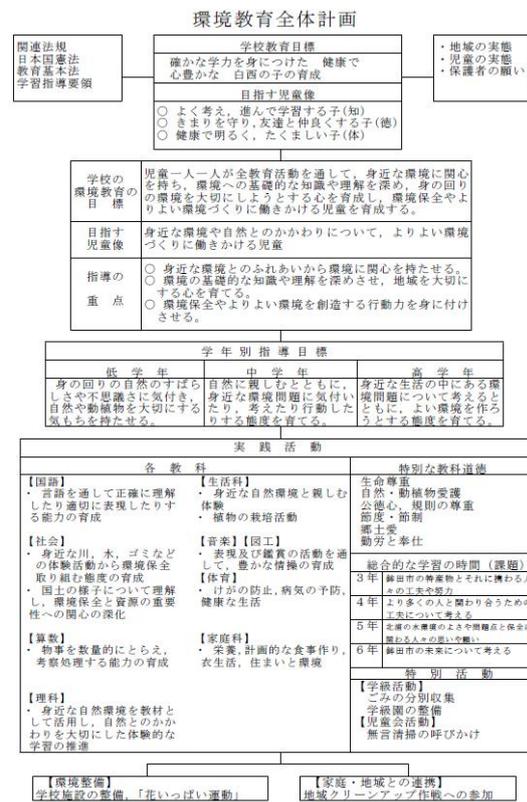
本校は明治8年に開校し創立145年を迎えた歴史ある学校であり、現在81名の児童が登校する小規模校である。本学区は、西側に水域面積日本第2位の霞ヶ浦の一部である北浦に接しており、その周辺は北浦の水を利用した水田が広がり、北浦を利用した鯉の養殖やワカサギ漁が行われている。豊かな自然環境とすばらしい景観に囲まれた学校である。

本校の環境学習の特徴は、地域の人材を活用し、総合的な学習の時間などを中心として、様々な視点から行っているところである。特に地域のコモリ食品の小森喜幸様には、20年前よりゲストティーチャーとして、年2回水産教室を実施していただいている。また、平成29年度からは茨城県霞ヶ浦環境科学センターと連携し、観察や実験などの実体験を中心とした専門的な視点にもとづいたプログラム学習を実施している。これらの成果の一つとして、平成30年度につくば市で開催された「第17回世界湖沼会議(いばらき霞ヶ浦2018)」において、第6学年が総合的な学習の時間に取り組んだ『北浦守り隊～北浦の水環境から得られる恵みを調べ、北浦の素晴らしさを見つけ、北浦をきれいにしよう!』を発表する貴重な機会を得ることができた。また、毎年2月に霞ヶ浦環境科学センターにおいて実施される学習発表会にも参加し、環境学習の成果を発表している。平成31年度には、環境教育の長年の実績が評価され、環境大臣賞の表彰を受けることができた。

今年度は新型コロナウイルス対策のために、実施できないものがあるが、地域との連携を大切に、人的・物的資源を活用しながら、環境学習を推進している。児童一人一人が自分たちの地域で学び、主体的によりよく生きていこうとする力の育成を目指して取り組んでいる。

### 2 本校の環境教育

本校の環境教育は、教科・領域など学校教育全体の活動を通して、地域の自然に積極的にかかわり、動植物及び自分たちの生活とのつながり等を意識し、自然を大切にしていこうとする心を育てたり、北浦を中心とした環境問題に関心をもち、地域社会の一員として環境保全・改善の役割を担い、環境問題を解決しようとする態度を養ったりすることをねらいとしている。そのねらいを達成するために、各教科領域において、様々な取組を進めている。特に、総合的な学習の時間では、霞ヶ浦環境科学センターや地域の人材と連携して、地域の自然環境に関する内容を探求課題として、実物に触れるなどの実体験を通して、生き物や自然の大切さを児童一人一人が学ぶことができるような環境学習にしている。また、地域と連携した環境教育の一環で毎年2回実施している「水産教室」は約20年の歴史



がある。学習したことを積極的にポスターやホームページを使って情報発信したり、地域の方と協力して北浦湖畔の清掃活動を行ったりしている。その他、花壇の整備やメダカの飼育、植物の栽培を児童が行い、動植物に積極的に関わっている。

### 3 具体的な実践

#### (1) 第5学年 総合的な学習の時間での実践

本校の環境学習は、第5学年の総合的な学習の時間に行われる「北浦守り隊」がその中心となっている。北浦の環境問題に着目し、その原因を追及したり、北浦で泳ぐことができたような昔の水環境を取り戻すために自分たちができることを考えたりしながら、環境保全・改善への意欲を高めている。学習を進めるにあたり、霞ヶ浦環境科学センター、北浦ヨットクラブ、霞ヶ浦漁業協同組合、銚田市西台「虹の会」、茨城県水産試験場の方々のご協力により、「湖上体験学習」「水産教室」「出前授業」等を実施し、多面的な調査、観察、実験を行い、



第17回世界湖沼会議における発表

環境問題に積極的に取り組んでいる。H29年度より毎年2月に霞ヶ浦環境科学センターで実施される学習発表会に参加し、学習したことをまとめ、発表している。H30年度には第17回世界湖沼会議で発表する機会をいただき、情報発信をすることができた。

#### ① テーマ

北浦の水環境から得られる恵みを調べ、北浦の素晴らしさを見つけ、北浦をきれいにしよう！

#### ② 目的

北浦の環境について、多面的な調査、観察、実験等を行い、自分たちができることを考え、実践するとともに、地域に情報を発信する。

#### ③ 具体的な内容

「北浦のめぐみを調べる」から始まり、身近な地域の歴史や産業まで視点を広げ、次の8の視点で北浦の環境について調べ、実践した。

	視 点	活動の内容
ア	北浦のめぐみについて調べる。	・プログラム学習 (霞ヶ浦環境科学センターの出前授業) ※北浦の生物のつながり、アオコ問題、プランクトンの観察)
イ	北浦近辺の用水路のいる生物について調べる。	・現地の魚・虫・プランクトンの観察
ウ	北浦湖上体験学習に参加し、船上での調査、観察を行う。	・船上調査・観察(水質検査、プランクトン等)
エ	北浦の漁業について知る。	・水産教室(漁業体験、捕れた魚等の試食会) (コモリ食品、漁協組合の協力により)
オ	地域周辺の川(白鳥川)と北浦の	・ろ過による実験

	水、水道水を比べる。	・水質検査（透視度，COD）
カ	北浦に流れ込む巴川（上流・中流・下流）の様子を観察し，水質を調べ，汚れの原因を知る。	・プログラム学習（現地調査，水質調査） （霞ヶ浦環境科学センターの出前授業）
キ	自分たちでできることを考え，実践し，地域に情報を発信する。	・新聞，手紙，ポスター，アクリルたわしを作成し，地域に配付 ・下級生への発表会 ・他校への呼びかけ ・ホームページによる情報発信 ・北浦湖畔の清掃活動 ・霞ヶ浦環境科学センターでの学習発表会へ参加
ク	日常生活でできることを実践する。	・北浦守りたいウイークの実践 （家族と一緒に家庭でできるエコ活動の実施） ※節水，洗剤の量を少なくする等 ・学校における節水等の呼びかけ



顕微鏡による微生物の観察



漁業体験'（水産教室）



獲れたて魚の試食会（水産教室）



水質調査（ヨット湖上体験）



北浦の環境改善に向けた話し合い活動



アクリルたわしの製作



北浦湖畔の清掃活動



環境学習発表会

#### ④ 児童の気づき・発見

- ・北浦にいる生き物の種類、北浦に注ぐ川の様子などを知り、北浦の現状を知ることができた。
- ・北浦から得られた魚を使って、おいしい料理ができることを知った。これらの料理をアピールしてみたいと思った。
- ・北浦に流れ込む用水路の出口付近にアオコが大量発生していた。家庭用排水だけが原因なのか疑問に思った。
- ・北浦で漁業をしている人から漁獲量が減っていることを聞いた。水質が悪化しているためと知り、水環境を改善したいと思った。
- ・生活排水が水の汚れの大きな原因となることを知った。北浦に周辺に住んでいる人にもっとこの状況を知ってもらふ必要があると思った。
- ・家庭用排水が浄化槽を経由せずにそのまま川に流されているところがあることに驚いた。
- ・北浦に接しているのは銚田市だけではない。他市に住んでいる人にも協力してもらわないと北浦はきれいにならないのではないか。
- ・北浦の水質浄化のための取組を考え、市内の学校に発信した結果、肯定的な意見をもらってうれしかった。
- ・これからも学校の水飲み場に節水石けんの無駄遣いをしないようにポスターなどをはって呼びかけたり、学校全体でエコ活動に取り組んだりしていきたい。
- ・いろいろな活動を通して、自分たちでできることから始めることが、北浦の水環境を守ることにすると実感できた。

## ⑤ 児童の変容

児童にとって身近な北浦をいろいろな角度で調べていく過程で、自分たちを含めた北浦周辺の動植物などの生き物や産業など様々なものが関わり合い、つながっていることが分かった。自分たちの生活が北浦の環境問題の原因の1つになっていることが分かった。また、北浦の環境を改善していくために自分たちでできることから始め、北浦周辺の地域へ情報発信していく必要があることに気付き実践することができた。

子どもたちは、北浦について理解を深めるに従い、北浦をよりよい環境にしていこうとする気持ちが育われ、自然を大切する心が育ってきている。

## (2) 第1・2学年 生活科での実践

### ① 単元名「たのしいあきいっぱい」

### ② ねらい

地域の農場でいもほりを体験する中で、春に植えたイモ苗の生長や実りに気付き、自然の変化や特徴を見つけられるようにする。

### ③ 活動の様子

地元の農家のイモ畑において、いも掘り体験を行った。自分たちが春に植えたイモ苗が生長し、地中から大きなサツマイモを掘り出すことができた。児童からは「大きくなって、秋には大きなイモがとれるんだね。」「このイモはこのあとどうなるの?」「イモってここの地域でもとれるんだね」の声が聞かれた。秋になるにつれての自然の変化に気付くとともに地元の産業についても関心をもつことができた。



## (3) 第4学年 社会科での実践

### ① 単元名「水はどこから」

### ② ねらい

茨城県鹿行水道事務所へ校外学習に行き、安全な飲料水を供給する事業について、理解を深める。北浦の水を浄水して、飲料水にすることを知り、北浦の水環境について関心を高める。

### ③ 活動の様子

鹿行水道事務所の方に北浦の水を飲料水にする過程を説明してもらい、浄水場の施設を見学した。飲料水が北浦の水を浄水されたものであることを知らない児童がほとんどであった。児童は安全な飲料水を供給する仕組みの理解を深めることができた。また、児童からは「北浦の水はあまりきれいでない。でも、きれいにしたら飲めるんだ。元々きれいだったら、もっとおいしい水が飲めるのかな。北浦の水、きれいにならないかな。」という声があり、北浦の環境について関心が高まった。



#### (4) 第6学年 図画工作科での実践

##### ① 単元名「北浦の未来を表現しよう」

##### ② ねらい

総合的な学習の時間で北浦の現状について学び、北浦に対する思いが高まった。その思いを「北浦の未来」と題して、版画で表現する。

##### ③ 活動の様子

北浦の環境を学習した児童は、「北浦の水が泳げるまできれになってほしい」「未来でもたくさん魚がとれるような環境であって欲しい」など様々な思いが高まっており、児童一人一人がいろいろ視点から構成を考え、版画で「未来の北浦」を表現した。

児童は、版画の制作や友達の作品を鑑賞することを通して、未来の北浦がすばらしい環境であって欲しいという思いをさらに高めることができた。また、教師も児童の発言や鑑賞の様子から、自然環境を大切にしていこうとする気持ちが育っていることを実感した。



#### 4 成果と課題

本校の環境教育は、「北浦」を中心とする地域の自然環境を素材として、コモリ食品の小森喜幸様を始め、地域の方々、北浦漁業協同組合、茨城県霞ヶ浦環境科学センターの皆様と連携しながら進めてきた。各学年において、様々な視点にたった取組を行い、学校教育全体の活動を通して、環境問題、動植物、人間の生活など多面的・系統的に学ぶことができている。

その成果として、

- ・地域の環境問題について関心をもつことができるようになった。また、環境を保全・改善していく活動への意欲が高まった。
- ・地域の環境について学習することによって、自分たちの生活と関連づけて、自然を大切にしようとする態度が養われた。
- ・動植物とふれあう活動を通して、生命を大切にする心が育った。
- ・北浦の水質を改善するための取組を考え、実践し、地域に情報発信することができた。などが挙げられる。

また、課題として、

- ・各家庭における生活排水の削減など、北浦周辺の市町村に対しても情報発信して、環境保全・改善に向けた実践を広げていきたい。
- ・令和4年度に本校は統合し、近隣の4校が集まり、新設校となる。これまで行ってきた環境教育を新設校においても、実践できることは継続していきたい。

#### 5 おわりに

本校は、北浦という身近で生きた素材があり、環境教育を実践する上で地域の人的・物的資源に恵まれた環境にある。子どもたちに、小学校段階で地域の自然や環境問題に触れ、環境を保全・改善していこうとする心や実践力を身に付けさせることは、地域社会の中で人が自然環境と共存し、将来をよりよく生きていくために重要な取組であると考えている。

令和4年度の統合に向け、統合小学校での環境教育の在り方も視野に入れながら、今、現在行っている環境教育を発展させ、将来をよりよく生きていこうとする力を育てていきたい。

## 地域とつながり 未来を拓く はやしまっ子の育成 ～ESD の資質・能力を備えた児童の育成～

岡山県都窪郡早島町立早島小学校

校長 越宗 倫生

研究主任 河本 章宏

### 1 はじめに

本校は岡山県の南に位置する全校児童 828 人の小学校であり、町内唯一の小学校という特色を活かし、保幼中との連携・協働、地域とのつながりを大切にした教育活動に取り組んでいる。校区である早島町は、岡山市と倉敷市に四方を囲まれており、早島インターを使えば米子や高知、広島まで車で 2 時間という交通の要衝でもある。

平成 29・30 年度に、国立教育政策研究所の研究指定を受け、「地域とつながり 未来を拓く はやしまっ子の育成～ESD の視点を踏まえた保幼小中連携カリキュラムの構築～」というテーマで、生活科・総合的な学習の時間等を中心に探究活動の充実や校種を超えたカリキュラムの再構築をした。今年度はその研究の成果や課題を踏まえて、総合的な学習の時間だけでなく、教科を中心とした教科等横断的な単元学習プログラムを作成し、ESD の視点で身に付けさせたい 6 つの構成概念・7 つの能力・態度と、キャリア教育の基礎的・汎用的能力とを関連づけながら教科での実践に取り組んだ。

課題設定、情報収集、整理・分析、まとめ・表現の学びを 2 サイクルとした W 型探究活動を用いて、総合的な学習の時間を中心としたカリキュラムのブラッシュアップを行い、教科の学習時間を、総合的な学習の時間における情報収集として位置付けるなどの工夫を行った。また、各教科の授業で付けたい力と、ESD の視点で付けたい力との関連性を明示し、各教科の授業を進めている。



### 2 ESD で身に付けたい力と新学習指導要領で目指す三観点の明確化

#### ①各単元で育成すべき資質・能力の整理

本校では、ESD の視点で大切にしている 6 つの構成概念と 7 つの能力・態度を、新学習指導要領の 3 つの柱に位置付け、単元ごとに育成すべき資質・能力を整理している。また、探究的な学習の充実を図ることで、自分の生き方を見つめ、内面に向かえばキャリア教育であり、地域や社会への貢献に向かえば ESD とつながると考えている。探究的な学習を通し

#### 【単元ごとに育成すべき資質・能力の整理】

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
各単元の学習プログラム	     	   	   
	6 つの構成概念	4 つの能力	4 つの態度

て、課題や目標の達成のために色々と試したり、工夫したりしながら積極的に挑戦していくことから、非認知能力の一つである「やり抜く力」が身に付くと考え、8つ目の力として定義し、中学校区で一体となって取り組んでいる。

## ②自己評価能力を高めるための小中統一した評価規準表（グレード表）の作成

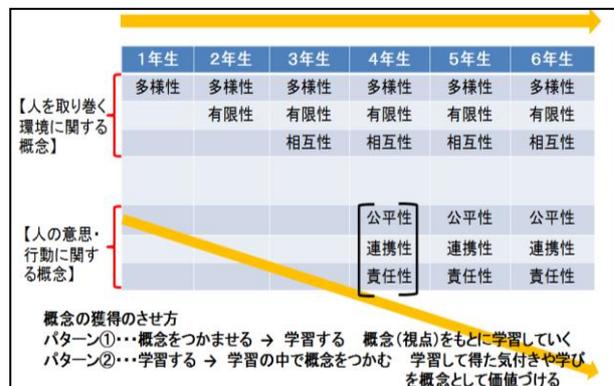
「やり抜く力」も含めて8つの能力・態度について、どこまで身に付けさせたいかを明確にするために、発達段階を踏まえたグレード表を作成している。グレード5の姿を目標に、各単元で8つの能力・態度が身に付くように指導方法を工夫している。また、小中学校統一のグレード表を作成することで、小中一貫して児童生徒の自己評価能力を育てていきたいと考えている。

【評価規準表】

8つの能力・態度	GRADE1	GRADE2	GRADE3	GRADE4	GRADE5
 他にもよい考えはないか考えることができる。	今ある考えをもとに、よりよい考えを創り出すことができる。	友達の見見を取り入れながら、今ある考えをもとに、よりよい考えを創り出すことができる。	インタビューやアンケートなどで様々な方向から客観的な情報を収集し、公平な判断ができる。	他者の意見や収集した客観的な情報をよく検討し、よりよい解決策を考えることができる。	
 目標を設定し、計画を立てることができる。	目的を設定して、他者と共有しながらものごとを計画することができる。	過去や現在に基づいて、的確な目的を設定し、その達成に向けて計画を立てることができる。	過去・現在からよりよい未来をつくるために、今自分たちができることを計画することができる。	早稲町に住む人々に、より質の高い生活をもたらすよう提案し、その達成に向けて計画を立てることができる。	
 自分だけでなく、他者の立場で考えることができる。	自分と他者、自分と地域とのつながりを理解し、いろいろな視点からものごとを考えることができる。	地域によさや課題に気づき、早稲町をいろいろな視点や立場から考えることができる。	関係者、出来事、社会情勢、自然などを理解し、多面的に考えることができる。	課題が社会・経済各方面において、複雑に絡み合っていることを理解し、多面的・総合的に考えることができる。	
 自分の気持ちや考えを伝えることができる。	自分の気持ちや考えを伝えたり、他者の気持ちや考えを大切にしたりすることができる。	目的に合わせた自分の考えを伝えたり、他者の話を聞き取ったりすることができる。	地域のいろいろな人と出会って、積極的に自分の考えを伝えたり、話を聞いたりすることができる。	他者の考えを尊重しながら自分の考えをまとめ、他者によりよく伝えられる方法で発信することができる。	
 他者の考えや行動に共感しようとしている。	共通の目的を達成するために、自分にできることをしようとしている。	互いの意見を集約しながら、共通の目的を達成するために行動しようとしている。	自分の身近な問題について、班内などで互い意見を集約し、協力して取り組もうとしている。	地域や関係機関とのつながりを深め、関わりのある人たちとともに、協力して考えを高めようとしている。	
 自分と人・こと・ものなどとのつながりに関心をもち、大切にしようとしている。	自分と人、自分と地域とのつながりに関心をもち、大切にしようとしている。	自分と人・こと・もの、地域とのつながりに関心をもち、それらを大切にしようとしている。	自分と人・こと・もの、地域とのつながりに関心をもち、地域で根拠に立つ活動を行おうとしている。	自分と人・こと・もの、地域とのつながりに関心をもち、地域の課題を見つけ、解決策について考え、それに向けて発信しようとしている。	
 自分の意見をもって活動しようとしている。	自主的に活動に取り組もうとしている。	自分の役割に責任をもって、積極的に活動に取り組もうとしている。	まとめた内容に責任をもち、解決策を発信し、解決の活動に取り組もうとしている。	広い視野で私たちの身近な問題と向き合い、それらを校内や地域等へ発表・発信しようとしている。	
 課題に対して、自分で選んで挑戦することができる。	課題や目標を立て、それに向かってがんばることができる。	困難だと感じる課題に対しても逃げずに挑戦して取り組むことができる。	課題や目標達成のために、いろいろな課題や目標達成のために、いろいろなことを試したり、工夫したりして積極的に取り組むことができる。	課題や目標達成のために、いろいろなことを試したり、工夫したりして積極的に取り組み、忍耐強くがんばることができる。	

## ③学年の系統を意識した「6つの構成概念」の指導の在り方

各学年で身に付けたい概念（視点）に重点を置いた指導を意識的・継続的に行っている。「多様性・有限性・相互性」は人を取り巻く環境に関する概念で、「公平性・連携性・責任性」は人の意思や行動に関する概念である。こうした概念の獲得のさせ方には2パターンあり、①概念を先につかませて学習していくやり方と、②学習する中で得た気づきや学びを概念として価値づけをするやり方がある。こうした積み重ねで、「6つの構成概念」を効果的に習得している。



【概念の指導の在り方】

### 3 ESDで身に付けたい力を明確にした単元学習プログラムの構築

小学1・2年生の生活科、小学3年生～中学3年生の総合的な学習の時間を中心とした単元学習プログラムを作成し、それぞれの発達段階に合わせて、身に付けるべき能力・態度を明らかにするとともに、校種を超えての交流や、学習内容の系統性、指導法の一貫性などを工夫しながら単元学習プログラムを作成している。各学年の指導内容については、教科等横断的な学習内容を整理したESDカレンダーを作成し、総合的な学習の時間と教科等の学習内容との関連性を明確にしながらか学習を進めている。

**【主な単元学習プログラム】**

学年	単元名	SDGsとの主な関連	学校園	単元名
中学1年	【福祉】の視点で、今早島で私たちにできること 地域をフィールドにした「福祉」の探究活動を通して、地域社会とつながり、自己や課題を見つめる機会とする。	3 すべての人に健康と福祉を 11 気候変動に脅かされるコミュニティ	幼稚園・保育園	「やろうぜ！野菜マスター」
中学2年	早島の夢の種を育てよう～世界へ発信！ 商品開発プロジェクト～ 「商品開発」に向けての必要な資質・能力を、職場体験を通して身に付け、それを地域の活性化につなげ、地域社会への愛着や発展を願う。	11 気候変動に脅かされるコミュニティ 12 つくばないで消費し、減らす	小学1年	「あきを たのしもう」
中学3年	共生～沖縄に学ぶ～ 「共生」をテーマに探究活動を行い、社会と自身自身を関連づけ、自分の将来の生き方を考え生涯にわたって学び続ける生徒を育てる。	13 気候変動に具体的な対策を 16 平和と公正	小学2年	「あそびの たつ人 あつまれ」
			小学3年	「IGUSA 知り隊・伝え隊」
			小学4年	「福祉～早島にあふれる思いやり～」
			小学5年	「防災～台風から守ろう、みんなの命～」
			小学6年	「みずから学び考える私たちの早島」



【やろうぜ！野菜マスター】



【IGUSA知り隊・伝え隊】



### 【ESDカレンダー6年生（一部抜粋）】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
国語			「学級討論会しよう」 【多様】<多面>				「ようこそ、わたしたちの町へ」 【多様】<多面>	「未来がよくなるために」 【責任】<未来>	「未来を語る」 【公平】<コミュニケーション>			「未来は、誰の」 【責任】<未来>
社会	「宮城・宇部多戸川」江戸時代のくらしや文化」 【歴史】<多面>										「わたしたちのくらしと政治」	
算数												
理科			「生き物のくらしと環境」 【多様】<多面>			「大地のつくり」 【多様】<多面>						
生活												
総合的な学習の時間	『学校のよきリーダーになろう』											
音楽								「日本の音楽の歴史」 【多様】<多面>				「聴く・音楽の歌」 【多様】<多面>
図工										「鑑賞」 【多様】<批判>		
家庭			「ホームワーク」 【多様】<多面>									
体育		「運動会」 【多様】<多面>			「水泳」 【多様】<多面>			「陸上運動」 【多様】<多面>		「健康の宝と健康」 【責任】<未来>		「ボール運動」 【多様】<多面>
道徳	「心を豊かにしよう」 【多様】<多面>											
外国語												

#### 4 具体的な実践

##### (1) 生活科を柱とした校種間連携を取り入れた単元学習プログラムの実践

##### (第1学年)「あきをたのしもう」



本単元は学習指導要領生活科の内容(6)「身近な自然を利用したり、身近にある物を使ったりするなどして遊ぶ活動を通して、遊びや遊びに使う物を工夫してつくりことができ、その面白さや自然の不思議さに気付くとともに、みんなと楽しみながら遊びを創り出そうとする。」を踏まえて設定した。

単元の初めに、集めた木の実などの特徴に十分に触れさせることで、遊べる物をつくりたいという思いや願いをしっかりともち、園児を「あきのあそびランド」に招待するという目標を児童に示し、常に意識させることで、相手意識と見通しをもって活動に取り組めるようにした。本単元の目標を達成するために、ESDの視点を取り入れ、「園児にはそれぞれの成長や特性がある」「自然や材料にはいろいろなものがある」「遊び方がいろいろある」といった児童の気付きを、「ヒト」「モノ」「コト」の多様性という概念で捉える。そこに、「園児が楽しむために」という相手意識を児童にもたせ、「どの園児でも楽しめるようにするにはどうすればいいのか」、「どの材料でつくったものが園児にとって遊びやすいのか」、「どの遊び方が園児にとって楽しめるものなのか」といった公平性の概念を取り入れていく。このように、生活科の目標の中にESDの視点を取り入れることで、児童の気付きの質をより高め、身近な自然やそれを利用した遊びに関心を持ち、園児を楽しませようと計画し、園児と関わりながら楽しく遊ぼうとする児童の姿に迫った学習プログラムである。



おもちゃへのアドバイス



あきのおもちゃで遊ぶ園児

【「あきをたのしもう」単元学習プログラム】

時	主な学習活動	評価規準
1 2	木の葉や実を実際に触って、その特徴をつかみ、どんなことができそうかを考えたり、身近な道具と組み合わせ、遊んでみたりする。	実物を触ったり、遊んだりしながら、自然にあるものの面白さや不思議さに気付くことができる。【 <b>多面的・総合的に考える力</b> 】
3	秋の自然物の多様な特徴や秋の自然物でどんな遊びができたかを交流する。	自分が気付いた、秋の自然物の特徴や遊びについて、伝えることができる【 <b>多面的・総合的に考える力</b> 】
4 5	保育園の友達を招待して、どんなあそびランドにするかを計画し、保育園の友達が楽しむためには、どんなポイント(きりりポイント)に気を付ければいいのかを話し合う。	どんな「あそびランド」にしたいのかについて自分なりの願いや、活動への見通しをもっている。【 <b>コミュニケーションを行う力</b> 】
6 7 8	計画を基に、グループであそびランドのおもちゃづくりをする。	思いや願いをもって、遊びや遊びに使うものをつくり出している。【 <b>コミュニケーションを行う力</b> 】
9 10	自分たちのおもちゃの工夫点を友達に伝えられるようにする。自分たちのつくったおもちゃや友達のつくったおもちゃで、実際に遊んでみる。	きりりポイントを基に、おもちゃの工夫点を考えることができる。【 <b>コミュニケーションを行う力</b> 】
11 12	友達のおもちゃで遊んでみて、アドバイスをしたり、友達が遊ぶ様子を見て、おもちゃを改良したりする。	園児の立場に立って、遊びや遊びに使うものを改良することができる。【 <b>批判的に考える力</b> 】 自分の思いや友達の意見をもとに、おもちゃをよりよく改良することができる。【 <b>批判的に考える力</b> 】
13 14	園児をあきのあそびランドに招待する。	園児と進んで関わり、交流の楽しさを味わうことができる。【 <b>コミュニケーションを行う力</b> 】
15	あきのあそびランドをしてみて、自分の成長や友達との関わり、気付いたことについて振り返りをする。	遊びの面白さや自然の不思議さ、友達や園児との関わりで気付いたことを言葉や絵で表現することができる。【 <b>多面的・総合的に考える力</b> 】

(2) ア 総合的な学習の時間を柱とした単元学習プログラムの実践  
(第5学年)「防災～台風から守ろう、みんなの命～」



本単元は、自助、共助、公助の視点から自分や友達や家族、近所の人たちの命を守るために自分にできることは何かを考え、実際に行動に移すことができるような力を身に付けることをねらいとしている。学校が火災に見舞われたときの避難経路を考える活動をきっかけに、身近で起こり得る災害からどうやったら自分や家族を守れるか、防災方法を自助の視点から考えていく。そして、模擬避難活動や避難所生活を行うことで、被災後のことまで考えた防災計画の必要性に気付いていくようになる。更に、理科「台風と天気の変化」の単元において、台風の動き方や地上への影響について学習することで台風の動き方や影響範囲、被害の想定をすることができるようになり、その学びを防災計画に役立てていく。このように、理科の学習内容と結び付けながら、双方に学びを深めていく単元としている。

小学校第5学年「防災～台風から守ろう、みんなの命～」において育成すべき資質・能力

柱	i) 個別の知識や技能 (何を知っているか、何ができるか)	ii) 思考力・判断力・表現力等 (知っていること・できることをどう使うか)	iii) 学びに向かう力、人間性等 (どのように社会・世界と関わりよりよい人生を送るか)
「防災～台風から守ろう、みんなの命～」を柱とした総合的な学習の時間	<p><b>i-1) 「防災～台風から守ろう、みんなの命～」に関わる課題について体系的・総合的な学習や探究的な学習を通して獲得する知識(及び概念)</b></p> <p>&lt;人を取り巻く環境に関する概念&gt;</p> <p><b>I. 多様性</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○災害の種類や地域・被害状況に応じた防災の仕方があること。</li> </ul> <p><b>II. 相互性</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○自助・共助・公助の観点から関わりあうことでより多くの命が助かること。</li> <li>○災害の状況と防災の仕方は関わりがあること。</li> </ul> <p><b>III. 有限性</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○自然災害が発生した際には、消防隊や救助隊などによる公助や施設物などに制限があること。</li> </ul> <p>&lt;人の意思・行動に関する概念&gt;</p> <p><b>IV. 公平性</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○自然災害により、公共の施設への避難が必要になった場合に与えられる救助物資などは住民に公平に与えられるものであること。</li> </ul> <p><b>V. 連帯性</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○地域住民や消防隊員、救助隊員等が状況に応じて応応・調和し、互いに連携・協力することが必要であること。</li> </ul> <p><b>VI. 責任性</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○早島町で自然災害が発生しても、自分やみんなの命を守っていくために、自分たちにできることをしていくという責任があること。</li> </ul> <p><b>i-2) 「防災～台風から守ろう、みんなの命～」に関わる課題について体系的・総合的な学習や探究的な学習を通して獲得する技能</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○資料や体験活動、理科や社会の授業などから自分に必要な情報を収集することができる。</li> <li>○自分の考えを述べたり友達の見解を聞いたりして話し合いを進めることができる。</li> <li>○必要な情報を整理・分析することができる。</li> <li>○まとめたものを他者に評価してもらい改善することができる。</li> </ul>	<p><b>ii-1) 探究的な学習を通して身に付ける。防災～台風から守ろう、みんなの命～に関わる課題を解決する力</b></p> <p><b>①批判的に考える力</b></p> <p>自然災害が起きた際に、早島町内に住んでいる人々が安心して避難したり、避難生活を送ったりと、自分たちにできることが高まりがみられるように考えることができる。</p> <p><b>②未来像を予測し、計画を立てる力</b></p> <p>見通しをもって、自分の決めたテーマについて具体的な調査計画を立てることができる。未来に向けてより災害を想定し対策を立てることができる。</p> <p><b>③多面的、総合的に考える力</b></p> <p>避難体験等の活動を通して、避難時や避難生活における問題点や、災害が及ぼす被害状況について、様々な視点から気づき、考えることができる。</p> <p><b>④コミュニケーションを行う力</b></p> <p>早島町の防災について自分の考えを伝えるとともに、友達考えを尊重し、積極的にコミュニケーションすることができる。</p>	<p><b>iii-1) 主体的な探究活動の経験の蓄積を信念や自信、自己肯定感につなげ、防災～台風から守ろう、みんなの命～に関わるさらに高次の課題に取り組もうとする態度を育てる。</b></p> <p><b>①つながり尊重する態度</b></p> <p>災害時における出来事を多面的、多角的な視点で考えることに興味をもち、それらを課題の解決に生かそうとする。</p> <p><b>iii-2) 協同的な探究活動の経験の蓄積を自己有用感や社会貢献の意識へとつなげ、防災～台風から守ろう、みんなの命～の実践に努めようとする態度を育てる。</b></p> <p><b>②他者と協力する態度</b></p> <p>自然災害から命やくらしを守るために、思いやりをもち、地域内・地域間の人たちと協力しようとする。</p> <p><b>③進んで参加する態度</b></p> <p>人との協力や自身の備えに興味を持ち、防災への意識を高めようとして進んで自助、共助、公助の関わろうとしている。</p>



課題設定 (避難生活体験)



整理分析 (防災計画のブラッシュアップ)



(2) ーイ 総合的な学習の時間を柱とした単元学習プログラムの実践  
(第6学年)「～みずから学び考える私たちの早島～」



本単元は、まず道徳の授業で、世界的医師である中村哲さんの生き方を知り、水の大切さや水と人、環境との関わりに関心をもち世界や日本の水問題を調べるところから学習が始まる。世界と日本の水問題の違いについて気付いた後、日本と早島の水問題について比較をすることで、早島の水問題について自分達がいまだ知らないことに気付く。そこでゲストティーチャーを招き、早島の水の歴史講座やフィールドワークを行う中で、早島の水についてたくさんの情報を収集していく。2学期には、収集した早島の水の歴史や川の様子などの情報と、理科で学習した生態系（水の循環・空気の循環・食物連鎖）の概念を関連付けることで、身近に起こる環境問題を明らかにし、そこから発見した課題を、自ら計画を立てて解決していく。そして、自分たちが考えた環境問題に対する取組や改善策を町主催の子ども議会において提案したり、子どもフォーラムでその成果を発表したりする。こうした活動を通して、早島の水を中心として、自分達と環境とのつながりに気付き、地域の環境を大切にする意識や態度を育てている。

小学校第6学年「みずから学び考える私たちの早島」において育成すべき資質・能力

注	i) 個別の知識や技能 (何を知っているか、何ができるか)	ii) 思考力・判断力・表現力等 (知っていること・できることをどう使うか)	iii) 学びに向かう力、人間性等 (どのように社会・世界と関わりよりよい人生を送るか)
「みずから学び考える私たちの早島」をテーマとした総合的な学習の時間	<p>i) 1) 「みずから学び考える私たちの早島」に関わる課題について横断的・総合的な学習や探究的な学習を通して獲得する知識（及び概念）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○水、空気、生き物を対象とした様々な環境保全の取り組み方法がある【多様性】</li> <li>○地球上の生き物は、水・空気・食物連鎖によって関わり合っている【相互性】</li> <li>○地球上の水・空気・生き物・エネルギーには限りがある【有限性】</li> <li>○地球上に住む生き物はみな平等であり、公平に守られるべきであること【公平性】</li> <li>○環境保全のためには、地域住民や公共団体、関係施設等、世界中の人々が状況に応じて順応・調和し、互いに連携・協力することが必要であること【連携性】</li> <li>○世界中の人々や生き物の命を守っていくために、自分たちにできることをしていくということ【責任性】</li> </ul> <p>i) 2) 「みずから学び考える私たちの早島」に関わる課題について横断的・総合的な学習や探究的な学習を通して獲得する技能</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○文献やインターネットなどを活用して、自分に必要な情報を収集することができる。</li> <li>○調査の記録や提案内容を6つの概念を使って整理・分析することができる。</li> <li>○調査結果や提案内容を図表や提案書などにまとめることができる。(国語科)</li> <li>○まとめたものを他者に評価してもらい、改善することができる。</li> </ul>	<p>ii) 1) 探究的な学習を通して身に付ける、持続可能な社会づくりに関わる課題を解決する力</p> <p>【課題設定】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○早島町の川の水質を知り、生き物を中心とした環境への影響を考え、現状に安心せず、課題を発見しようとする事ができる。(道徳科)</li> <li>⑥多面的・総合的に考える力</li> </ul> <p>【情報収集】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○課題解決に必要な早島の水に関する歴史や川の水質などの情報を収集、選択したり、組み合わせたりすることができる。</li> <li>④多面的、総合的に考える力</li> </ul> <p>【整理・分析】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○早島の川の水の水質とそこに住む生き物などの情報を収集・選択したり組み合わせたりして、様々な視点を取り入れながら、今の早島の川の様子について考えることができる。(理科)</li> <li>④コミュニケーションを行う力</li> </ul> <p>【まとめ・表現・行動】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○身近な水の問題について自分の考えを伝えるとともに、友達のを尊重し、積極的にコミュニケーションしながら考えをまとめることができる。(4) コミュニケーションを行う力</li> </ul>	<p>iii) 1) 主体的な探究活動の経験の蓄積を信念や自信、自己肯定感につなげ、「みずから学び考える私たちの早島」に関わるさらに高次の課題に取り組もうとする態度を育てる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○早島町の水の歴史や環境問題に興味を持ち、世界中の人々や環境を守ろうとする意識を高めようとしている。(7) 進んで参加する態度</li> </ul> <p>iii) 2) 協同的な探究活動の経験の蓄積を自己有用感や社会貢献の意識へとつなげ、「みずから学び考える私たちの早島」の実現に努めようとする態度を育てる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○環境破壊から命や暮らしを守るために、思いやりをもち、地域内・地域間で協力しようとしている。(6) 他者と協力する態度</li> <li>○環境破壊によって起こりうる出来事を多面的、多角的な視点で考えることに関心をもち、それらを課題の解決に生かそうとしている。能力・態度 (6) つながりを尊重する態度</li> <li>○環境をテーマに、見出した課題に向かって、計画実行し、行動、発信までやり切ろうとしている。能力・態度 (6) やり抜く力</li> </ul>



課題設定（道徳科・理科の学習）

情報収集（フィールドワークで生き物調査）

(3) ESDの資質・能力の育成を目指した教科学習

(第4学年 算数)「計算のやくそくを調べよう」

本単元は学習指導要領解説算数編の第4学年の内容「A 数と計算」に基づいている。児童は、本単元までに、加法、減法、乗法、除法について、式を用いて表したり、式を読み取ったりすることを学習している。

本単元では、第3学年で学習したことを活かし、問題場面を四則の混合した式や( )を用いた式に表す際、式は計算の結果を求める手段だけでなく、数量を簡潔に表現する方法であることに気付くようにし、各種計算のきまりを□, ○, △の記号を使って一般化していく。その際、コミュニケーションを行う力が弱いという児童の実態から、ESDで培いたい能力である「コミュニケーションを行う力」を意図的に育てることとした。

「コミュニケーションを行う力」については、ただ関わり合う力としてではなく、「相手に説明する力」として児童に捉えさせ、説得力のある説明力の要素として、『根拠』



自分の考えを表現する場面

『論理』『行為・視覚』を挙げ、図や式を用いて視覚的に筋道を立てて説明すれば、相手によく伝わり、共感を生む説明ができると考えた。本単元では、ESD がんばりカード等を活用しながら、相手に筋道を立てて説明する活動を多く取り入れることで、互いに「コミュニケーションを行う力」を伸ばしていく児童の姿が見られた。

指導と評価の計画(全9時間)

次	時	主な学習活動	評価の観点				評価規準および評価方法
			知	思	主	ESD	
一	1	○2段階構造の問題を1つの式に表す方法を考える。 ○( )のある式の計算の順序をまとめ、その計算をする。		○			○( )の中をひとまとまりとみて、( )を用いて1つの式に表すことを考え、説明している。 [児童の発言・ノート]
	2	○加減や乗除の2段階構造の問題場面を1つの式に表し、その計算順序を考える。 ○乗除は、( )を省いて書くことがあることや加減よりも先に計算することをまとめる。	○				○四則計算や( )のある式の計算順序を理解し、計算することができる。 [児童の発言・ノート]
	3	○四則混合の3段階構造の式の計算順序を考える。	○				○四則計算や( )のある式の計算順序を理解し、計算することができる。
	4	○ドットの数を工夫して求め、求め方を1つの式に表す。 ○他者の考えを図や式から読み取り、言葉や式、図で表す。		○			○多面的にとらえ検討してよりよいものを求めて粘り強く考えたり、数学のよさに気づき、学習したことを今後の生活や学習に活用しようとしていたりしている。[児童の発言・ノート]
二	1	○□や○などに数をあてはめ、式が成り立つことを確かめ、分配法則について一般的にまとめる。	○				○数や式の形に着目して、分配法則が適用できるかを考え、計算方法を説明している。 [児童の発言・ノート]
	2	○交換、結合法則を用いて、計算の工夫の仕方を考える。 ○□や○などに数をあてはめ、式が成り立つことを確かめ、加法と乗法の交換、結合法則について、一般的にまとめる。		○			○式にある数に着目して、交換法則や結合法則を用いて、計算を簡単にする工夫を考え、筋道を立てて説明している。 [児童の発言・ノート]
	3	○交換、結合法則を用いて、計算の工夫の仕方を考える。 ○計算のきまりを用いて、計算方法を工夫する。		○			○式にある数に着目して、交換法則や結合法則を用いて、計算を簡単にする工夫を考え、筋道を立てて説明している。
	4	○乗法では乗数を10倍すると積も10倍になる、被乗法と乗法をそれぞれ10倍すると積は100倍になるという性質をまとめる。	○				○乗法の性質を理解し、それらを用いて計算することができる。 [児童の発言・ノート]
三	1	○学習のまとめをする。 ○数学的な見方・考え方を振り返り、価値づける。			○		○単元の学習を振り返り、価値づけたり、今後の学習や生活に活かそうとしていたりしている。 [児童の発言・ノート]

## 5 成果と課題

成果と課題については、児童アンケートや、研究実践を終えての教師の省察、ゲストティーチャー等の地域住民の声などを参考にして考察した。

### 【教師】

- ESD の資質・能力を教科で育成するためにESD がんばりカード等を用いて指導することで、各教科のねらいにより迫ることができた。
- コロナウイルスで閉鎖的になりがちな学校生活において探究的な学びを通して自然や地域と交わり関わることは児童の心に安心感や所属感を与え、心の安定につながっていくと改めて痛感した。
- 学年やクラスによって、ESD の資質・能力の育成に偏りが見られるため、更に教材研究を深めていく。

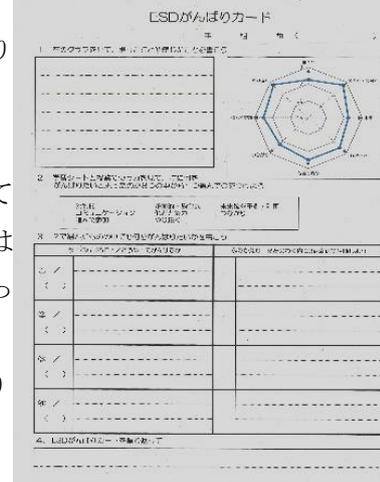
### 【児童】

- ESD がんばりカードを用いて、批判的や多面的に考える力を意識することで、当該児童が様々な視点や立場で考えることできた。
- 児童がESD の資質・能力を意図的に用いる姿や、キャリア教育の視点を使って、学習したことを自分の生活や未来に繋げて考えようとする姿が見られた。

### 【地域住民】

- 地域をフィールドにした探究活動を行うことで、児童が早島の歴史を学び、早島を大切にしようとする態度が育っていると感じる。
- 子ども議会や子どもフォーラムで児童から学習成果を聞くことで、大人も地域への愛着がわくとともに、学校との連携・協働の大切さを感じ、学校を応援したくなる。

### ESD がんばりカード



《参考》 早島町学校教育ビジョン ～協働・協学・協育の町づくり～

### 目指す子ども像【地域とつながり 未来を拓く 早島っ子の育成】



## 地域とつながり 未来を拓く はやしまっ子の育成

～ESDの資質・能力の育成に向けた、中学校区での一貫カリキュラムの充実～

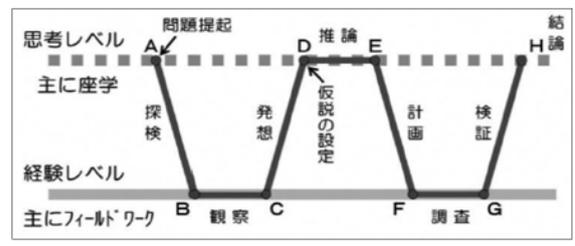
岡山県都窪郡早島町立早島中学校  
 校長 小野 秀明  
 研究主任 赤堀 恵一

### 1 はじめに

早島町では平成29・30年度に、早島町立早島小学校を中心として、国立教育政策研究所の研究指定を受け、「地域とつながり 未来を拓く はやしまっ子の育成～ESDの視点を踏まえた保幼小中連携カリキュラムの構築～」というテーマで、生活科・総合的な学習の時間等を中心に探究活動の充実や校種を越えたカリキュラムを作成した。この2年間の成果と課題を踏まえ、令和元年度より早島中学校が中心となり、総合的な学習の時間や教科等横断的な学習において、SDGsのゴール目標を踏まえた課題を設定し、ESDの視点で身に付けさせたい六つの構成概念・七つの能力・態度と、キャリア教育の基礎的・汎用的能力の視点を関連付けながら、付けたい力を明確にした実践に取り組んだ。

課題設定、情報収集、整理・分析、まとめ・表現の学びを2サイクルとしたW型探究活動を用いて、総合的な学習の時間や教科横断的な学習の時間のカリキュラムを構築してきた。また探究的な学習は、課題や目標達成のために、いろいろと試したり工夫したりしながら積極的に挑戦していくことから、非認知能力の一つである「やり抜く力」が身に付くと考え、八つ目の力として定義した。

#### 【W型探究学習活動のプロセス】



I【課題設定】 II【情報収集】  
 III【整理・分析】 IV【まとめ・表現・行動化】  
 「続・発想法」(川喜多二郎,1970)を一部改変

### 2 ESDで身に付けたい力を明確にした単元学習プログラムの構築

主な研究内容として、総合的な学習の時間等のカリキュラム・マネジメントを柱とし、保幼小中の相互連携による一貫カリキュラムの充実を図ってきた。第1学年では、「福祉・環境」の探究活動を通して地域社会とつながり、自己理解を深める。第2学年では、「商品開発」を通して、伝統文化であるイ草や地域の特色等を関連付けながら、地域の活性化を図る活動を行うことで、地域社会への愛着や発展を願う。第3学年では、「共生」をテーマに探究活動を行い、世代や国を超えた国際人として共に生きようとする視点を持ち、自分の将来の生き方を考え生涯にわたって学び続ける社会人に育てていく。それぞれの発達段階に合わせて、身に付けるべき能力・態度を明らかにするとともに、校種を超えた連携プログラムを作成した。

学年	単元名	SDGsとの主な関連
中学1年	<b>先人から学び、未来に発信!</b> 「LGBT」「認知症」「統合失調症」の学習を通して、差別や偏見に対する見方・考え方を学び、自己や地域の課題を見つめる探究活動を行う。	3 すべての人に健康と福祉を 5 ジェンダー平等を実現しよう
中学2年	<b>早島の夢の種を育てよう～世界へ発信! 商品開発プロジェクト～</b> 「商品開発」に向けての必要な資質・能力を、職場体験を通して身につけ、それを地域の活性化につなげ、地域社会への愛着や発展を願う。	11 住み続けられるまちづくりを 12 つくも責任 つかう責任
中学3年	<b>共生～雲仙に学ぶ～</b> 「共生」をテーマに探究活動を行い、社会と自身自身を関連づけ、自分の将来の生き方を考え生涯にわたって学び続ける生徒を育てる。	13 気候変動に具体的な対策を 16 平和と公正をすべての人に



新聞展覧会 (中1)      商品最終選考会 (中2)      広報ポスター (中2)      仮説設定 (中3)

### 3 キャリア教育とESDで身に付けさせたい力と新学習指導要領で目指す三観点の関係性の明確化

探究的な学習の成果が、地域や社会に向かえばESDであり、生徒の内面に向かえばキャリア教育につながると考えて、目指す生徒像を次の三点に定め、研究に取り組んだ。

- ① 地域社会との連携を図りながら当事者意識をもって探究活動を行い、身に付けた能力・態度を自分の生き方につなげる生徒
- ② 持続可能な発展に向けて、様々な世代や世界の人々と協力・協働できる生徒
- ③ “グローバル”な視点で、探究してきた考えを表現・発信・行動化できる生徒

そして、自分たちの活動だけに留まることなく、文化祭、子ども議会、熟議（児童生徒と地域の大人の意見交流会）、はやしま子どもフォーラム、各種の地域行事等を学習成果の発表の場とし、社会に開かれた提案・発信をした。地域が抱える課題を把握し、課題解決に向けた考えを構築することで、持続可能な社会づくりに貢献できる人材の育成を図っていきたい。

また、各教科においてもSDGsのゴール目標を踏まえた課題を設定し、ESDの視点で身に付けさせたい六つの構成概念・八つの能力・態度と、新学習指導要領で目指す三観点とを関連付けながら、付けたい力を明確にした実践に取り組んだ。



ESDとキャリア教育の関係性の明確化

#### 【単元ごとに育成すべき資質・能力の整理】

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
各単元の学習プログラム			
	6つの構成概念	4つの能力	4つの態度

新学習指導要領の三観点とESDの関係性の明確化

早島中学校 ESD 評価規程表 (各教科)

8つの能力・態度	語彙	数学	社会	英語	理科	音楽	美術	技術・家庭科	体育
I. 多様性	多様な文化や価値観を尊重し、異文化理解を深め、自己理解を深めることができる。	データにはいろいろな見方があることを知っている。	世界の諸国には様々な文化や価値観があることを知っている。	・世界には様々な多様な文化があることを知っている。	・地形や気候などには、地域の特色があること。 ・科学技術の発展には、長所と短所があること。	世界の諸国には様々な音楽文化や価値観があり、それらを尊重することの重要性を知っている。	芸術作品に関する表現力の多様性や価値について理解することができる。	技術を活用して多様な課題に創造的に取り組む力、多様な課題を解決しながら、新たな価値を生み出す力を知っている。	体力や技術の習得、年齢や性別、障害の有無にかかわらず、誰もが活躍できる環境づくりや、自分自身の強みや長所を伸ばし、他人と協力して取り組むことができる。
II. 相互性	多様な文化や価値観を尊重し、異文化理解を深め、自己理解を深めることができる。	表・棒・グラフはそれぞれ長所短所があり、お互いに補完して活用できることを知っている。	現代社会にみられる社会的課題の多くが、相互に補完しあっていることを知っている。	・異文化を学んだり紹介し、あつたりする中で国際理解が深まっていることを知っている。	・生物の間に、食う食われるの関係があること。 ・環境保全には、科学的知識が深く関わっていること。	世界の諸国には様々な音楽文化や価値観があり、それらを尊重することの重要性を知っている。	巨匠の作品の鑑賞と共通性を理解し、それを表現することができる。	自分の生活を変える取組活動が社会や環境の発展に貢献していることを理解している。	心と体の健康の維持管理、運動による心身の発達や健康、特に心の健康が重要であることを知っている。
III. 有限性	多様な文化や価値観を尊重し、異文化理解を深め、自己理解を深めることができる。	図の読み方や説明(図解)の方法には強みがあることを知っている。	多くの社会的課題が解決された社会的課題の上で成り立っていることを知っている。	・限りある資源を尊重し、国際社会が抱えている問題を理解している。	・電気は、つくりだしたり蓄えたりできること。 ・野外での環境の保護は、必要最小限にすること。 ・新技術の開発が環境に与える影響を減らす必要があることを知っている。	音楽文化が形ある文化財であることと知り、無形文化遺産として大切に守らなければならないことを知っている。	生命の有限性と自然の重要性に気づく。	衣食住に欠かせない多くのものの生産や消費の過程を知り、それらに責任を持って行動する力を知っている。	課題の解決に向けて、全力を尽くして積極的に活動に取り組む力、仲間とともに運動を楽しむ力を知っている。
IV. 公平性	多様な文化や価値観を尊重し、異文化理解を深め、自己理解を深めることができる。	情報源を、信頼性の高い情報源から取り出し、必要な情報を活用することができる。	互いに人の尊厳と基本的人権を尊重することを知っている。	・差別を許さずなく自己の思いを受け止めることを知っている。	・野外での環境の保護は、必要最小限にすること。 ・新技術の開発が環境に与える影響を減らす必要があることを知っている。	グローバル化が進む中、継承されてきた文化として歴史、芸術や価値観を尊重することの重要性を知っている。	生命の有限性と自然の重要性に気づく。	衣食住に欠かせない多くのものの生産や消費の過程を知り、それらに責任を持って行動する力を知っている。	仲間とともに運動を楽しむ力、仲間とともに運動を楽しむ力を知っている。
①批判的に考える力	文章や表に表れているものの見方や考え方に、批判的に読むことができる。	・自分の解法以外の解法はあり、その長所短所を比較検討することができる。	社会にみられる課題の解決に向けて、批判的に考えることができる。	英語で人の意見を聞き、それに対して自分の意見をもつことができる。(1～3年)	自然の事象・現象の中に隠れた因果関係や、自然の現象・現象のしくみを知り、科学的知識を応用して問題を解決することができる。	音楽文化が形ある文化財であることと知り、無形文化遺産として大切に守らなければならないことを知っている。	作書の歴史や表現の工夫を知り、自分と他者の考えを伝えあうことができる。	運動や健康についての自己の理解を深め、適切な運動に取り組む力を知っている。	運動や健康についての自己の理解を深め、適切な運動に取り組む力を知っている。
②未来像を予測して計画を立てる力	多様な文化や価値観を尊重し、異文化理解を深め、自己理解を深めることができる。	・未来像を予測して計画を立てる力。 ・多面的、総合的に考える力。 ・コミュニケーションを行う力。 ・継続と協力する態度。 ・つながり感を尊重する態度。 ・進んで参加する態度。 ・やり抜く力。	新しい未来の姿を構想し、実現するための計画を立てることができる。	未来の計画を用いて、予定を考慮して計画を立てることができる。(2～3年)	多様な文化や価値観を尊重し、異文化理解を深め、自己理解を深めることができる。	音楽文化が形ある文化財であることと知り、無形文化遺産として大切に守らなければならないことを知っている。	作書の手続きや予定を計画を立てることができる。	運動や健康についての自己の理解を深め、適切な運動に取り組む力を知っている。	運動や健康についての自己の理解を深め、適切な運動に取り組む力を知っている。
③多面的、総合的に考える力	多様な文化や価値観を尊重し、異文化理解を深め、自己理解を深めることができる。	・代答、読解、読解の読解力を用いて、文章を読み解くことができる。	社会的課題の解決や環境、社会の発展の推進に貢献することができる。	日本語だけでなく外国の文化に慣れ、理解を深めることができる。(1～3年)	自然の事象・現象のしくみを知り、科学的知識を応用して問題を解決することができる。	音楽文化が形ある文化財であることと知り、無形文化遺産として大切に守らなければならないことを知っている。	多様な文化や価値観を尊重し、異文化理解を深め、自己理解を深めることができる。	運動や健康についての自己の理解を深め、適切な運動に取り組む力を知っている。	運動や健康についての自己の理解を深め、適切な運動に取り組む力を知っている。
④コミュニケーションを行う力	多様な文化や価値観を尊重し、異文化理解を深め、自己理解を深めることができる。	聞き手や発表者として、相手の話を聴き、自分の考えを伝えることができる。	社会的課題の解決や環境、社会の発展の推進に貢献することができる。	英語の発音や文法を正確に理解し、その場で意思を伝えることができる。(1～3年)	自然の事象・現象のしくみを知り、科学的知識を応用して問題を解決することができる。	音楽文化が形ある文化財であることと知り、無形文化遺産として大切に守らなければならないことを知っている。	作書に対する自分の考えを伝えたり、他者からの意見を受け取り、自分と他者の考えを伝えあうことができる。	運動や健康についての自己の理解を深め、適切な運動に取り組む力を知っている。	運動や健康についての自己の理解を深め、適切な運動に取り組む力を知っている。
⑤他者と協力する態度	多様な文化や価値観を尊重し、異文化理解を深め、自己理解を深めることができる。	多様な文化や価値観を尊重し、異文化理解を深め、自己理解を深めることができる。	社会的課題の解決や環境、社会の発展の推進に貢献することができる。	英語の発音や文法を正確に理解し、その場で意思を伝えることができる。(1～3年)	自然の事象・現象のしくみを知り、科学的知識を応用して問題を解決することができる。	音楽文化が形ある文化財であることと知り、無形文化遺産として大切に守らなければならないことを知っている。	作書に対する自分の考えを伝えたり、他者からの意見を受け取り、自分と他者の考えを伝えあうことができる。	運動や健康についての自己の理解を深め、適切な運動に取り組む力を知っている。	運動や健康についての自己の理解を深め、適切な運動に取り組む力を知っている。
⑥つながり感を尊重する態度	多様な文化や価値観を尊重し、異文化理解を深め、自己理解を深めることができる。	多様な文化や価値観を尊重し、異文化理解を深め、自己理解を深めることができる。	社会的課題の解決や環境、社会の発展の推進に貢献することができる。	英語の発音や文法を正確に理解し、その場で意思を伝えることができる。(1～3年)	自然の事象・現象のしくみを知り、科学的知識を応用して問題を解決することができる。	音楽文化が形ある文化財であることと知り、無形文化遺産として大切に守らなければならないことを知っている。	作書に対する自分の考えを伝えたり、他者からの意見を受け取り、自分と他者の考えを伝えあうことができる。	運動や健康についての自己の理解を深め、適切な運動に取り組む力を知っている。	運動や健康についての自己の理解を深め、適切な運動に取り組む力を知っている。
⑦自ら進んで参加する態度	多様な文化や価値観を尊重し、異文化理解を深め、自己理解を深めることができる。	多様な文化や価値観を尊重し、異文化理解を深め、自己理解を深めることができる。	社会的課題の解決や環境、社会の発展の推進に貢献することができる。	英語の発音や文法を正確に理解し、その場で意思を伝えることができる。(1～3年)	自然の事象・現象のしくみを知り、科学的知識を応用して問題を解決することができる。	音楽文化が形ある文化財であることと知り、無形文化遺産として大切に守らなければならないことを知っている。	作書に対する自分の考えを伝えたり、他者からの意見を受け取り、自分と他者の考えを伝えあうことができる。	運動や健康についての自己の理解を深め、適切な運動に取り組む力を知っている。	運動や健康についての自己の理解を深め、適切な運動に取り組む力を知っている。
⑧やり抜く力	多様な文化や価値観を尊重し、異文化理解を深め、自己理解を深めることができる。	多様な文化や価値観を尊重し、異文化理解を深め、自己理解を深めることができる。	社会的課題の解決や環境、社会の発展の推進に貢献することができる。	英語の発音や文法を正確に理解し、その場で意思を伝えることができる。(1～3年)	自然の事象・現象のしくみを知り、科学的知識を応用して問題を解決することができる。	音楽文化が形ある文化財であることと知り、無形文化遺産として大切に守らなければならないことを知っている。	作書に対する自分の考えを伝えたり、他者からの意見を受け取り、自分と他者の考えを伝えあうことができる。	運動や健康についての自己の理解を深め、適切な運動に取り組む力を知っている。	運動や健康についての自己の理解を深め、適切な運動に取り組む力を知っている。

## 4 具体的な実践

### (1) 総合的な学習の時間を中心とした実践内容（第2学年）

第2学年の総合的な学習の時間「早島の夢の種を育てよう～世界へ発信！商品開発プロジェクト～」の単元において、本町のめざす子ども像「地域とつながり 未来を拓く はやしまっ子の育成」を具現化するために、ESDの視点を踏まえた保・幼・小・中連携カリキュラムの構築を目指してきた。生徒たちは小学校6年生のときに、「発信しよう！早島の宝」の単元において、早島の魅力を発信できる方法や工夫、PRポイント等を試行錯誤しながら考えてきた。本単元では、その小学校の取組を一層効果的にするため、方法や工夫を考えるだけでなく、実際に地域企業と連携・協働しながら商品を開発していき、販売まで行う起業体験活動に取り組んでいる。

職場体験学習では各職場での体験活動を通して、その職業の社会的役割、必要な能力、職業で大切にしている考え方や社会の中でどのように商品を売っていくのかを学んでいくだけではなく、各職場での体験やインタビュー活動を通して、職場のよさを新聞等でPRしたり、職場で販売している商品の魅力をポスターやポップを作って発信したりするなどして、商品を販売するためのノウハウや能力も身に付けている。

商品開発プロジェクトでは、早島の魅力を広めることができる商品の企画書を作成し、プレゼンテーション発表を通して、相互評価や外部評価を活かしながら、開発する商品をいくつか決定する。地域の企業担当者と連携・協働しながら試作品を作り、意見を出し合いながら商品を完成させていく。

職場体験で身に付けた力を活用し、早島の魅力満載の開発商品をより多くの人にPRしながら販売していくことを通して、商品を開発するための考え方やノウハウを獲得し（知識・技能）、体験や探究活動を通して思考力・判断力・表現力などを養い（思考・判断・表現）、最終的には企業の方や仲間と協議し、早島町のために進んで行動できる生徒の育成（主体的に学習に取り組む態度）を目指したい。



企画書作成

商品改良打ち合わせ

職場体験で広報活動

商品販売

### 中学校第2学年「商品開発プロジェクト」において育成すべき資質・能力

観点	i) 知識・技能 (何を知っているか、何ができるか)	ii) 思考・判断・表現 (知っていること・できることをどう使うか)	iii) 主体的に学習に取り組む態度 (どのように社会・世界と関わりよりよい人生を送るか)
「商品開発プロジェクト」をテーマとした総合的な学習の時間	<p>i-1) 「商品開発」に関わる課題について横断的・総合的な学習や探究的な学習を通して獲得する知識（および概念）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○早島町内には、人・モノ・コトの多様な特色があること（多様性）を知っている。</li> <li>○特色である人・モノ・コトは相互に働き掛け合い、早島町の魅力としてつながっていること（相互性）を知っている。</li> <li>○いくさのような資源は発信していかなければ、認知度が低下してしまう恐れがあること（有限性）を知っている。</li> <li>○早島町の認知度が上がる恩恵は、住民に公平に与えられるものであること（公平性）を知っている。</li> <li>○観光資源の保全・再生のためには、自分を含めた地域住民の協力が必要であること（連携性）を知っている。</li> <li>○町の持続的な発展のために、自分たちにも観光資源を次世代に残す責任があること（責任性）を知っている。</li> </ul> <p>i-2) 「商品開発」に関わる課題について横断的・総合的な学習や探究的な学習を通して獲得する技能</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○文献やインターネットなどを活用して、自分に必要な情報を収集することができる。</li> <li>○調査の過程や結果を記録することができる。</li> <li>○現状を把握し、課題を見出し、解決に向けて建設的な議論をすることができる。</li> <li>○提案すべき内容について、他者に理解できる形でプレゼンテーションすることができる。</li> <li>○提案した内容について他者に評価してもらい、改善することができる。</li> </ul>	<p>ii) 探究的な学習を通して身に付ける、持続可能な社会作りに関わる課題を解決する力</p> <p>【課題設定】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○社会人・職業人として必要な資質や、起業家精神の視点を持って、早島町を盛り上げるために必要な活動について、自ら課題（テーマ）を設定することができる。(①批判的に考える力)</li> </ul> <p>【情報収集】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○職場体験に向けて、自らの仮説の立証に必要な客観的な情報を収集・選択したり、組み合わせたりすることができる。(②多面的、総合的に考える力)</li> </ul> <p>【整理・分析】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○収集した情報や、実際の体験をもとに、商品開発や販売計画を見直すことができる。(③多面的、総合的に考える力)</li> </ul> <p>【まとめ・表現・行動】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○早島町の魅力が伝わり、盛り上げるために必要なことを、多面的・建設的・調和的に考えることができる。(④多面的、総合的に考える力)</li> <li>○第三者からの評価を受け、より効果的な表現方法になるよう改善し、町外の人に向けて発信することができる。(⑤コミュニケーションを行う力)</li> </ul>	<p>iii-1) 主体的に探究活動の経験の蓄積を信念や自信、自己肯定感につなげ、「商品開発」に関わるさらに高次の課題に取り組もうとする態度を育てる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○早島町における多様な特色や魅力と自分とのつながりやかかわりについて関心をもち、それらに感謝し、自ら進んでより活気あふれる早島町にしていこうとする。(⑥つながりを尊重する態度)</li> </ul> <p>iii-2) 協同的な探究活動の経験の蓄積を自己有用感や社会貢献の意識へとつなげ、「商品開発」の実現に努めようとする態度を育てる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○活気あふれる早島町にしていこうするために地域内・地域間で協力し、お互いに思いやりをもって活動に取り組もうとする。(⑦他者と協力する態度)</li> <li>○「商品開発」を通じて得た経験を踏まえて、早島町における自分の役割を自覚し、地域活性化のために活動に自主的・主体的に参加することができる。(⑧進んで参加する態度)</li> </ul>

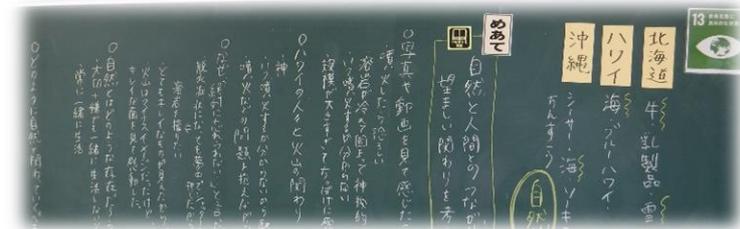
(2) -ア 教科横断的な単元学習プログラムの構築 (第1学年)

本校では、9/23～9/29をSDGs週間と称して、第一学年では「目指せ！エコサポーター ～エコな心の育成を目指して～」をテーマに、各教科で探究的な学習を行っている。まず問題発見の場として、道徳の授業で「自然の力と向き合って」を題材に取り上げ、人間は自然の中で生かされていることを自覚し、自分たちを取り巻く自然環境に目を向けていく。社会の授業では、アフリカ州の発展に向けての課題を考えることで様々な気候変動による課題があることを学び、家庭科の授業では、資源を有効利用することが二酸化炭素削減につながることを学び、エコバック製作につなげていく。数学の授業では、地球温暖化に関連するデータを読み取ることで温室効果ガスの影響が多いことを知り、理科の授業で、二酸化炭素に温室効果があることを実験で検証していく。そして、国語の授業で、資源を有効利用するために自分たちができることをレポートにまとめ、エコサポーター宣言をしていく。



目指せ！エコサポーター ～エコな心の育成を目指して～

時	探究活動	教科	主な学習活動	評価規準 (評価方法)
1	問題発見	道徳	○キラウエア火山での体験から、自然のすばらしさや、共に生きていく尊さを考える。	・自然のすばらしさや恐ろしさを読み取ることで、自然を守り、自然と共に生きていこうとしている。 (発表・ワークシート) 【⑥つながりを尊重する態度】
2	課題設定	社会	○アフリカの課題について共有し、課題に対する考えをまとめて表現する。	・アフリカ州の抱える課題について、よりよい社会の実現を視野に、主体的に追究することができる。 (ワークシート) 【⑤他者と協力する態度】 【③多面的・総合的に考える力】
3	情報収集	家庭科	○環境や資源に配慮した衣生活を送るための課題を話し合う。	・環境や資源への配慮の視点から、よりよい衣生活について工夫・創造し、実践することができる。 (ワークシート・観察) 【⑥つながりを尊重する態度】
4	整理分析	数学	○地球温暖化に関連する情報を読み取り、整理する。	・資料から気温変化のデータを収集し、データの特徴や傾向に着目して的確に表現できる。 (観察・ワークシート) 【③多面的・総合的に考える力】
5		理科	○二酸化炭素に温室効果があるか実験を行い、結果をまとめる。	・二酸化炭素には温室効果があることを明らかにし、結果を理論的に説明できる。 【①批判的に考える力】
6	まとめ表現	国語	○資源を有効利用するためにできることをレポートにまとめる。	・資料の整理や引用の仕方、出典の示し方などのルールに準じてレポートを作成している。 【I 多様性】



道徳 (問題発見)



社会 (情報収集)



理科 (整理分析)

**地球温暖化STOP!と水素(H<sub>2</sub>)の関係**

1. 課題  
地球温暖化の原因は、温室効果ガス(温室効果ガス)の増加による。温室効果ガスは、太陽の光を吸収し、地球を暖かく保つ役割がある。しかし、人間活動によって排出される温室効果ガスは、自然の温室効果ガスよりも多量に排出され、地球を過剰に暖かくしている。

2. 調査の方法  
インターネットで「温室効果ガス削減の取り組み」について調べた。

3. 調査の結果  
水素は水素(H<sub>2</sub>)でできている。水素は燃焼すると水(H<sub>2</sub>O)になる。水素は燃焼してもCO<sub>2</sub>を排出しない。水素は燃焼してもCO<sub>2</sub>を排出しない。水素は燃焼してもCO<sub>2</sub>を排出しない。

4. 考察  
地球温暖化の原因は「温室効果ガス」の増加による。温室効果ガスは、太陽の光を吸収し、地球を暖かく保つ役割がある。しかし、人間活動によって排出される温室効果ガスは、自然の温室効果ガスよりも多量に排出され、地球を過剰に暖かくしている。

5. 参考文献  
https://www.riken.go.jp/press/2023/04/23/20230423\_01/

図1: 温室効果ガス排出量 (2018年度) の棒グラフ。CO<sub>2</sub>が77%、メタンが9.3%、ア산화、酸化二酸化窒素が13.7%を示している。

図2: 世界の二酸化炭素排出量 (推移) の折線グラフ。2019年度は32,500億トン、2020年度は28,000億トン、2021年度は30,000億トンと推移している。

図3: Enecoハイブリッド動力ガスのメリットの比較表。CO<sub>2</sub>削減率、燃料費、メンテナンスコスト、騒音などを比較している。

国語 (まとめ・表現)

(2) -イ 教科横断的な単元学習プログラムの構築 (第2学年)

第二学年では「Be an ECOSIAN! ～森林保全のために私たちができること～」をテーマに、各教科で探究的な学習を行った。まず導入として、道徳の授業で「敬意をもって自然と接する」を題材に取り上げ、人間のこれまでの行動を振り返り、自然と謙虚に向かい合おうとする態度を身に付けていく。理科の授業では、森林破壊の原因について知り、森林破壊が生物に与える影響について考える。社会の授業では、江戸時代に行われていた様々なリサイクルや環境対策から、現代の生活でも実践できる内容を考える。英語の授業では、環境問題（森林伐採）に関して被害を受けている動物を選び、その動物目線でのメッセージを英語で書き、ギャラリーウォークで英文を読み合う。こうした考えを踏まえて、国語の授業では環境問題の被害を受けている動植物を擬人化して意見文を書く。総まとめとして、保健体育では森林保全をテーマにした創作ダンスを発表し、生徒の心に響く単元構成としている。



Be an ECOSIAN! ～森林保全のために私たちができること～

時	探究活動	教科	主な学習活動	評価規準 (評価方法)
1	問題発見	道徳	○自然と人間の関わりを振り返り、行動を見直し、在り方を考える。	・自然との関係について、人間目線だけでなく、多面的、多角的な視点で考えることができる。 (ノート) 【③多面的, 総合的に考える力】
2	課題設定	理科	○森林破壊の原因を知り、生物に与える影響について考える。	・生物が森林破壊により受ける影響について、他の動物や人の営みから総合的に考えようとしている。 (観察) 【⑥つながりを尊重する態度】
3	情報収集	社会	○江戸時代の様々なリサイクルや環境対策から、現代の生活で実践できることを考える。	・エコ社会の実現に向けて、実践的な目標を考えることができる。 (ワークシート) 【③多面的, 総合的に考える力】
4	整理分析 / まとめ	英語	○森林伐採の被害にあう動物目線でメッセージを書き、ギャラリーウォークで英文を読み合う。	・環境問題について知っている知識をまとめ、動物の視点から人間に訴えかけるような英文を書くことができる。 (ワークシート) 【④コミュニケーションを行う力】
5	まとめ表現	国語	○文章構成を意識し、被害のある動植物を擬人化した意見文を書く。	・自分の知っている環境問題を取り入れながら、情報を整理し、根拠を明確にした意見文を書くことができる。(ワークシート) 【④コミュニケーションを行う力】
6	発信	体育	○作品を発表するとともに、他グループの発想や動きを互いに評価する。	・イメージから想像して自由に表現することを楽しみ、仲間と協力してイメージをひと流れの作品にして表現しようとしている。(観察) 【V連携性】



道徳 (問題発見)



理科 (課題設定)



社会 (情報収集)



英語 (整理分析/まとめ・表現)



保健体育 (発信)

(2) -ウ 教科横断的な単元学習プログラムの構築 (第3学年)

第三学年では「誰もが安心して利用できる避難所へ」をテーマに、各教科で探究的な学習を行った。まず導入として、道徳の授業で「社会からの無言の賞賛を感じる感性」を題材に取り上げ、社会参画の意識と社会の一員としての自覚を深めていく。社会の授業では、大震災の被災者の現状を、アンケートを通して学び、理科の授業では、早島町で起こりうる被害の現状と問題点を挙げていき、保健体育の授業では、感染症の予防について今までの知識を活用して考えていく。そして、国語の授業では、避難所についての新聞記事を比較しながら、誰もが安心して利用できる避難所について考えていく。そのことを生かし、美術の授業では、避難所で必要となるピクトグラムを作り上げ、英語の授業では、外国人にも分かりやすいように、そのピクトグラムの説明を既習事項の文法を使ってまとめていく。

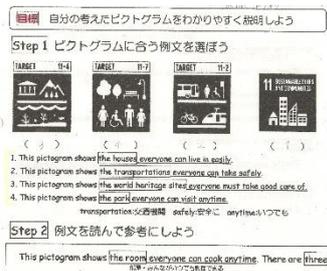


誰もが安心して利用できる避難所へ

時	探究活動	教科	主な学習活動	評価規準 (評価方法)
1	問題発見	道徳	○雪かきをしている人たちの思いを考えることで、社会参画の意識と社会の一員としての自覚を深める。	・人・もの・こと・社会・自然など自分とのつながり・かかわりに関心をもち、それらを尊重し大切にしようとしている。 (ワークシート、発表) 【6つなごりを尊重する態度】
2	課題設定	社会	○阪神淡路大震災や東日本大震災の住民アンケートを比較し、持続可能な社会の構築を考える。	・大震災の教訓から防災や安全に配慮した町づくりを考え、積極的に話し合うことができる。 (ワークシート) 【4コミュニケーションを行う力】
3	情報収集	理科	○循環型社会の構築に向けて、学校や地域で行われている取組を調べ、問題点を考える。	・自分たちが調べたことをワークシートやマップにまとめることができる。 (ワークシート) 【2未来像を予測して計画をたてる力】
4		保健	○感染症を予防するためにできることを、身近な生活と関連付けながら考え、話し合う。	・感染症には、3つの対策により予防できることを理解できる。 (ノート) 【Ⅲ有限性】
5	整理分析	国語	○避難所に関わる2つの新聞記事を比較して、納得できた点、できなかった点について考える。	・社説を比較し、説得力の強さや根拠を明確にして評価することができる。 (ノート) 【1批判的に考える力】
6	まとめ表現	美術	○ピクトグラムのスケッチを相互鑑賞し、他者の意見を取り入れて、ブラッシュアップしていく。	・伝達の効果と美しさの調和を視点として鑑賞し、他者の意見を取り入れて改善できる。 (観察・スケッチ) 【1批判的に考える力】
7		英語	○自分の描いたピクトグラムの説明文を、既習事項の文法を使って表現する。	・読み手に伝わりやすいように、接辞節を使ってピクトグラムを説明できる。 (ワークシート) 【4コミュニケーションを行う力】



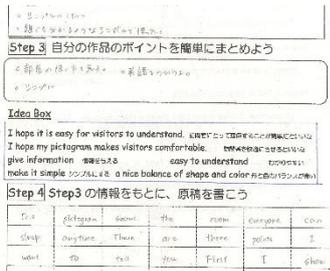
理科 (情報収集)



英語 (まとめ・表現)



保健体育 (情報収集)



情報を整理して伝える

(美術2・3 P54, 55 資料集 P67)

□ピクトグラム … 形と色でわかりやすく情報を伝えることを目的とした「絵文字」「絵ことば」のこと。

◎避難所に必要な(あると良い)ピクトグラムを考えよう

・災害時、「早島中学校」が避難所となったときに、必要と思われるピクトグラムを考えてみよう

<アイデアスケッチ>



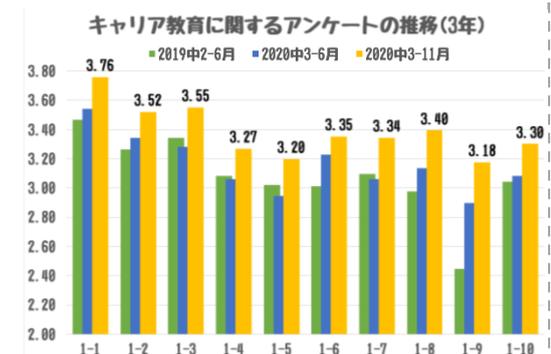
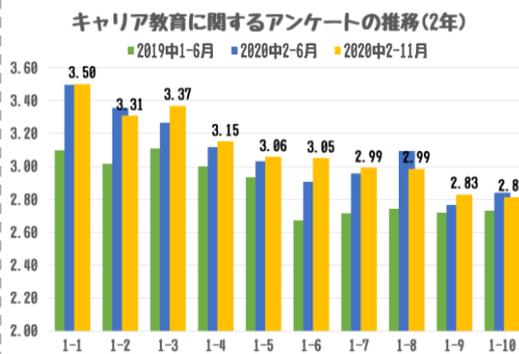
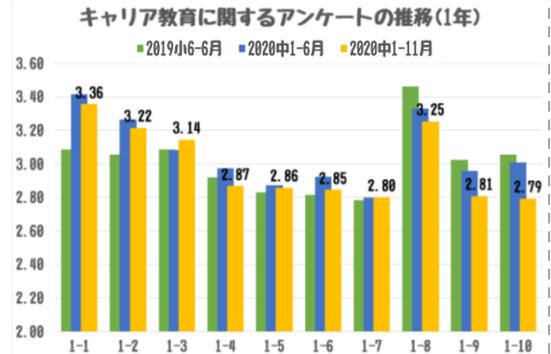
美術 (まとめ・表現)

## 5 成果と課題

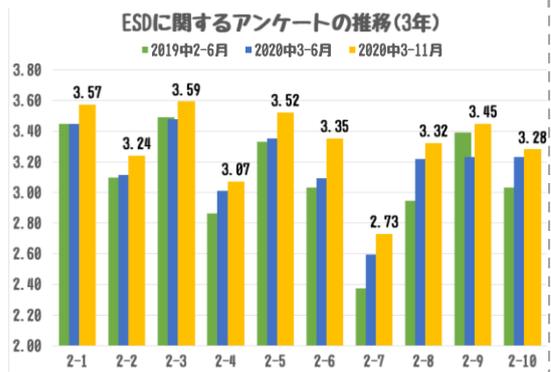
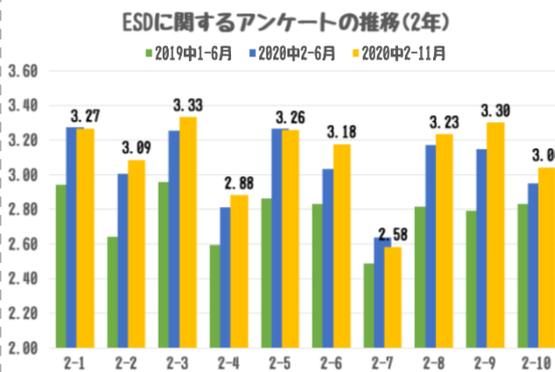
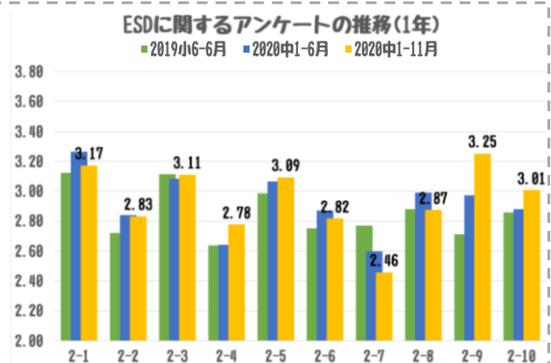
成果と課題については、アンケートを事前・中間・事後に実施し、考察した。アンケート項目については、キャリア教育の視点で10問、ESDの視点で10問、やり抜く力を測るために、アメリカで使われているGRITアンケートを10問活用した。

疑問に感じたことや体験学習、インタビュー活動を通して仮説を立て、情報を集めて整理・分析し、仮説を検証し、行動化までつないでいくという、一連の探究的な学習を保障していくことが大切である。またESDで社会貢献意識を育むだけでなく、キャリア教育で自己の生き方を見つめ直していく活動を大切にすることで、非認知能力「やり抜く力」の育成につながると考えている。

①キャリア教育に関するアンケート		2019年6-6月	2020年1-6月	2020年1-11月	
1-1	友達の見聞を聞くとき、相手の考えや気持ちを受け止めようとしている。	1	2	3	4
1-2	相手が理解しやすいように工夫しながら、自分の考えや気持ちを伝えようとしている。	1	2	3	4
1-3	自分から役割や仕事を任せてもらったり、周りの人と分担したりしながら、周囲と力を合わせて行動できる。	1	2	3	4
1-4	やる気が起きない時でも、自分がすべきことに取り組みようとしている。	1	2	3	4
1-5	不得意なことや苦手なことでも、自ら進んで取り組もうとしている。	1	2	3	4
1-6	分からないことやもっと知りたことがある時、自分から進んで情報を収集したり質問したりしている。	1	2	3	4
1-7	学ぶことの意義や働くことの意義について考えたり、今学校で学んでいることと自分の将来とのつながりについて考えたりしている。	1	2	3	4
1-8	将来の夢や希望を持っている。	1	2	3	4
1-9	自分の将来について具体的な目標をたて、その実現のための方法について考えている。	1	2	3	4
1-10	自分の将来の目標に向かって努力したり、生活や勉強の仕方を工夫したりしている。	1	2	3	4



②ESDに関するアンケート		2019年6-6月	2020年1-6月	2020年1-11月	
2-1	学校が楽しい。	1	2	3	4
2-2	ESDの活動内容や、授業で身に付いた力が自分がわかる。	1	2	3	4
2-3	ESDの時間に、友達と協力して活動するのが楽しい。	1	2	3	4
2-4	ESDの時間に、自分から進んで考えたり発表したりしている。	1	2	3	4
2-5	ESDの時間に友達の見聞を大事にして、自分の意見を考えている。	1	2	3	4
2-6	自分の周りの出来事やいろいろな視点から考えている。	1	2	3	4
2-7	地域のごとに進んで参加し、地域の方とつながっている。	1	2	3	4
2-8	物事をよりよくするためにもっとこうすればよいと考えている。	1	2	3	4
2-9	商品開発に興味があり、楽しい(楽しそうだ)。	1	2	3	4
2-10	私は早稲町の地域が好きである(自慢できるところがある)。	1	2	3	4



### ③GRIT (やり抜く力) に関するアンケート

項目	1	2	3	4	5
3-1 他に取られることがあっても、集中して作業することができる。	1	2	3	4	5
3-2 私は失敗をしてもめげない。簡単にはあきらめない。	1	2	3	4	5
3-3 一度目標を設定したら、すぐ別の目標に切り替えることは少ない。	1	2	3	4	5
3-4 私は努力家だ。	1	2	3	4	5
3-5 達成まで何ヶ月もかかることも、ずっと集中して取り組むことができる。	1	2	3	4	5
3-6 いちど始めたことは、必ずやり遂げる。	1	2	3	4	5
3-7 興味のあるものが毎年のように変わることはない。	1	2	3	4	5
3-8 私は勤勉だ。絶対にあきらめない。	1	2	3	4	5
3-9 考えることや活動していることに夢中になったら、すぐに興味を失ってしまうことはない。	1	2	3	4	5
3-10 重要な課題を克服するために、挫折を乗り越えた経験がある。	1	2	3	4	5

### ESDがんばりカード

ESDで身に付けたい資質・能力	
①批判的に考える力	②他者と協力する態度
②未来像を予測・計画を立てる力	③つながりを尊重する態度
③多面的・総合的に考える力	④進んで参加する態度
④コミュニケーションを行う力	⑤やり抜く力

頑張りたいこと/どうやって頑張るか ※左の枠に記入しよう

振り返り ※左の枠内に5点満点で評価しよう

①	/				
(	)				
②	/				

#### やり抜く力の推移 (学年別)

■ 2019 6月 ■ 2020 6月 ■ 2020 11月

学年	2019 6月	2020 6月	2020 11月
中学1年	3.3	3.53	3.37
中学2年	3.17	3.49	3.54
中学3年	3.27	3.48	3.76

#### やり抜く力 高まりの推移 (全学年の割合)

■ 2019 6月 ■ 2020 6月 ■ 2020 11月

範囲	2019 6月	2020 6月	2020 11月
1~2.4	10.4	12.5	13.1
2.5~2.9	8.4	11.0	15.2
3~3.2	4.5	9.3	15.5
3.3~3.4			
3.5~3.7			
3.8~4			
4.1~4.2			
4.3~4.4			
4.5~			

**【教師】**

- キャリア教育と ESD の関係性を明確にすることで、ESD で社会への貢献意識を高めていくと同時に、地域社会の抱える問題を自分事として捉え、自己の生き方を見つめ直すカリキュラムの構築ができた。
- ESD の研究を通して、探究的な学習プログラムによって児童生徒に身に付けさせたい能力や態度が明確になり、小中学校の職員間がベクトルをそろえて指導できるようになった。
- 地域と密着した活動を行うことで、連携・調整に時間が割かれ、打ち合わせの回数が増えるなど、教職員の時間的な負担にはなるが、3年間を通じた計画的な単元学習プログラムを開発、改善していくことで、継続的な教育効果が高まると考える。

**【○成果 ●今後の課題】**

**【生徒】**

- 探究的な学習を通して、不得意なことや苦手なことから逃げず、課題の解決や目標達成のためにいろいろと工夫しながら積極的に挑戦していく「やり抜く力」を育てることにつながった。
- ESD の八つの能力・態度を育てるグレード表を、発達段階に合わせて小・中学校統一の評価規準を作成することで、児童生徒の自己評価能力を高めることにつながった。

**【地域住民】**

- 地域と協働・連携して活動していくことで、中学校の活動が地域に伝わるようになり、その活動を理解し応援する企業や住民が増え、学校理解がより深まった。

## 6 今後の取組

- ESD の視点を取り入れた総合的な学習の時間の小中9年間を見通した単元学習プログラムのカリキュラムをブラッシュアップする。
- 保幼・小、小・中などの校種を越えたつながりを大切にしながら、発達段階に合わせて計画的に直接交流だけでなく、ICT 等を活用した交流活動も行うことで系統的な探究活動の充実を図る。
- 付けたい力を明確にした教科等横断的な単元学習プログラムを作成し、SDGs 週間がより効果的な学習活動となるようにする。

## 地域に働きかけ、追究し続ける子供の育成 ～ふるさと学習の継承と創造～

愛知県岡崎市立生平小学校

校長 長坂 博子

教諭 伊奈 良晃

### 1 はじめに

岡崎市立生平小学校は、愛知県岡崎市のほぼ中央に位置する全校児童 61 人の小規模校である。学校の周囲には標高 200～400m 程度の山々が連なり、矢作川水系の男川が学区を東西に横断して流れている。周辺の山には、植林されたスギやヒノキの人工林とともにコナラやカシなどの自然林も多く残されている。このように恵まれた自然環境の中で、子供たちはいきいきと学校生活を送っている。

本校では、地域の特色を生かした教育活動として、『ふるさと学習』を展開している。これは、身近な環境問題について課題を見付け、「自ら進んで追究する子供」、生平の人・もの・ことにふれ、「ふるさと生平に愛着をもつ子供」を育成することを目的に、昭和 52 年度に始められた地域学習である。同年には、学区の歴史を楽しく学べるようにとの目的から、生平の史跡をテーマにした「生平ふるさとカルタ」を作成した。また、昭和 54 年度にはふるさとの史跡を訪ねる会を、昭和 55 年度には敬老集会を開催し、それらの史跡を実際に歩いて回ったり敬老者から地域の昔ばなしを教えていただいたりすることで地域への理解を深めるなどして学習を継続してきた。「生平ふるさとカルタ」については、平成 26 年度に「新・生平ふるさとカルタ」として改定をされ、それをういて行われる「ふるさとカルタ取り大会」は、本校の伝統として今も大切にされている行事となっている。

愛知県から「愛鳥モデル校」、大日本猟友会から「野鳥保護校」の指定を受けたことをきっかけにふるさとを学ぶ入り口として取り組んできた愛鳥活動（野生生物保護活動）は、

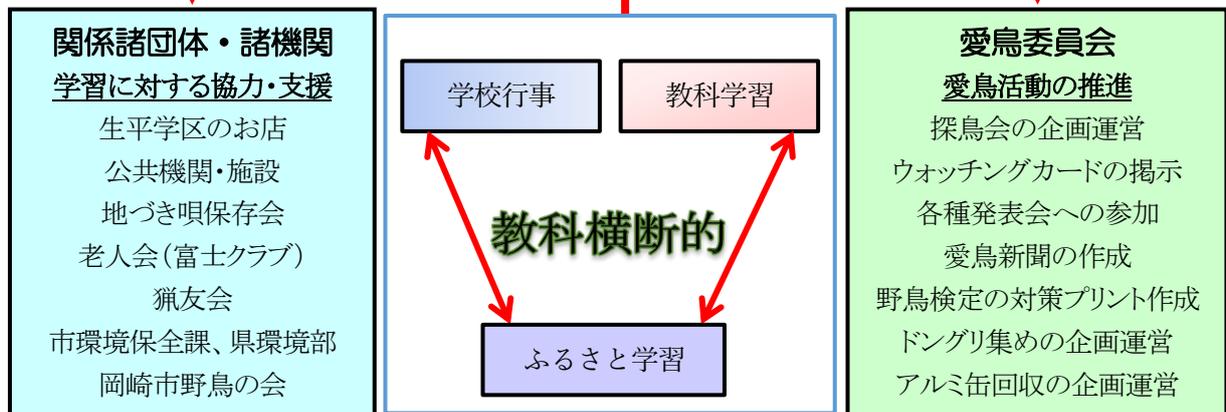
- ①各学年で定めたマスコットバードの継続観察や全校を縦割りのグループに再編成して行う探鳥会、野鳥についての知識を定着させることを目的とした野鳥検定等の「知る活動」
- ②冬季の給餌活動や「ふるさと池」、「わくわく池」のビオトープを中心に、学校裏山を野鳥の楽園「バードピア生平」として整備する「守る活動」
- ③学区の全家庭に本校の取組を紹介する「ふるさと愛鳥新聞」の発行や「野鳥を知ろう集会」、「ふるさと学習まとめ発表会」の公開などの「広げる活動」

の 3 つを柱として展開してきた。これらの活動は、平成 30 年度に全国野生生物保護実績発表大会における文部科学大臣賞の受賞をはじめ、平成 17 年から令和元年にかけて「愛知県野生生物保護実績発表大会」において愛知県知事賞を 15 年連続で受賞するなど一定の評価を得ている。

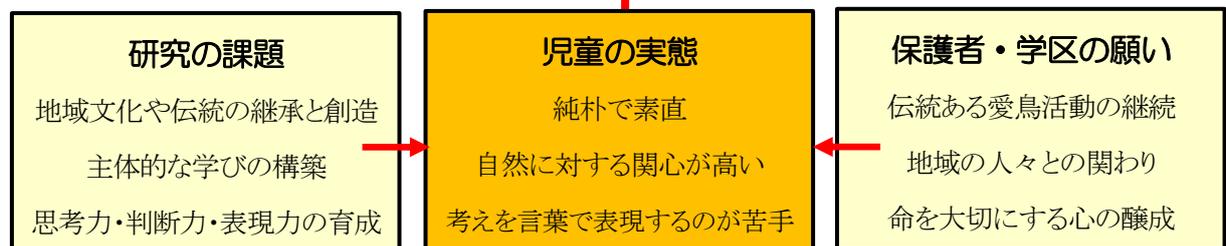
また、「ふるさと学習」は全校での取組だけに限らず、各学年で課題追究学習としても取り組んでいる。本年度を例にとってみると、1 年生では生活科の学習での探検活動を中心に、主に校内の人・もの・ことについて、2 年生でも、生活科の学区探検を中心に学校周辺の人・こと・ものについての知識を深める機会を設けている。3 年生では、総合的な学習の時間で取り組む伝統芸能「地づき唄」や愛鳥活動で取り組んでいる「セキレイの分布調査」から、学区の自然や文化を学んでいる。4 年生では、主に「学区におけるツバメの営巣調査」を通じて、学区の自然環境、自然と人との関わりについての学習を進めている。こうした低・中学年の学習を受け、5 年生では竹林が裏山全体に与える影響について学習を進めている。また、6 年生では、校内にあるビオトープ「ふるさと池」の水質や生態系調査により地域の環境問題に目を向けた学習を展開している。

2 研究構想

**目指す子供像**  
 ○自ら進んで追究する子供  
 ○自分の言葉でふるさと生平のよさを発信する子供  
 ○ふるさと生平に愛着をもつ子供



**身に付けさせたい力**  
 ○ふるさと発見力      ○問題解決力      ○思考力・判断力・表現力



### 3 実践

#### (1) 1・2年生におけるふるさと学習

##### ①1年生「あきはかせになろう」(令和元年度)

自然の豊かな生平小学校に通っているにもかかわらず、自然に対して関わりの少ない児童に対して、自然と触れ合い、その楽しさや美しさに気付くことができるようにしたいという担任の思いから、単元を構成した。裏山を中心とした秋見付けの学校探検をきっかけとして、自分が博士になれそうなことを考えさせた。児童は、「葉」「花」「実」「動物・昆虫」「鳥」「空」などから、思い思いの追究テーマを見付け、探検→まとめ→発表→探検→……というサイクルを繰り返すことにより、進んで自然と関わることができるようになった。そして、不思議だと思ふことを見付けたり、解明したりする中で、追究することの楽しさを感じるようになった。毎日発見される不思議や、それに対する考えは「あきはかせのおはなし」の時間として、朝の会の中に定期的に組み込んだ。これにより、子供たちが発見した「秋」を学級全体で共有することができるようになった。

「秋」をたくさん発見した子供たちは、自分が追究してきたものを形にして、より多くの人に伝えたいという気持ちをもつようになった。そこで、ふれあいタイム(本校では月曜日は清掃を行わず、清掃時間と昼の休み時間を合わせ、ふれあいタイムとして全校遊びができるようにしている)に他の学年を招待して「あきはかせのはっぴょうかい」を行うこととした。当日はオナモミを使った的当てゲーム、校内に生えるキノコをモチーフにした塗り絵遊び、カラフルに色づいた葉っぱを使った凧、ドングリを使ったこまのプレゼントなど多くの内容で、全校児童が秋を満喫することができた。



葉っぱのアクセサリを紹介する児童

##### ②2年生「学区探検」(令和元年度)

2年生では生活科の学習の一環として、例年、学区にある店舗や駐在所、郵便局などの施設を探検し、仕事の内容等について見聞きしたり、簡単な体験をさせていただいたりしている。そこに「ふるさと学習」としての要素を加えるために、学区の史跡探検も行うこととした。下の写真は、岡崎市でふるさとの名木として指定を受けている「古部の大クス」を訪ねた際の物である。

古部町は、学校から3キロ以上離れた山間の町であることから、実際に探検をするには遠いと判断で探検の目的地にならないことが多かった。しかし、2年生児童の一人が古部町から通っていることから、友達の住む場所を知るという目的で、探検を計画した。実際に出かけてみると、このクスが該当児童の自宅のすぐ隣に生えていると分かり、家の隣にそんな価値のあるものがあることがあってすごいと友達からの称賛を浴び、誇らしげな表情を浮かべている様子が印象的であった。



学区探検、古部の大クス前で

また、古部町へ上がっていく途中では、「生平ふるさとカルタ」に詠まれている「馬頭観音」や「どんぶち」、「田跡寺」などを見ることもでき、「生平ふるさとカルタ」に対する関心が高まった。以降の学区探検や登下校の際には「夜泣き地藏を見つけた」とか、「学校橋は自分の通

学路の途中にある橋のことだった」などの発見を聞くことが増えた。

## (2) 3・4年生におけるふるさと学習

### ① 3年生「セキレイの分布調査」(令和元年度)

セキレイは校庭でもよく見かける、子供たちにとってもなじみのある野鳥だけではなく、生平学区がハクセキレイ、セグロセキレイ、キセキレイの3種類のセキレイが混在する珍しい地域であるということから、セキレイの分布調査はこれまでも行われてきた。しかし、十数年前と比較して児童数が半減し、地域によって学齢期の子供がいない地域があることから、学区全域を網羅する調査を行うことが難しくなってきた。そこで、地域の老人会「富士クラブ」との共同実施を試みることにした。

右の写真は、富士クラブの皆さんにセキレイの見分け方を説明し、セキレイマップへの協力をお願いするために開いた「セキレイマップのお願いをする会」の様子である。ここでは、自分たちが描いたセキレイの絵や写真を使ったり、デジタル野鳥図鑑の鳴き声を聞いてもらったりしながら、見分け方や聞き分け方を説明していた。富士クラブの皆さんには、熱心にセキレイを観察して下さる方が多く、一月ごとのマップにコメントまでを添えて下さった方もいた。また、鳥を見るために上を見て歩くので腰が伸びて健康にもよい等のうれしいお話もいただいた。



セキレイマップのお願いをする児童

一方で、子供たちも届けていただいたデータを、マップにシールで貼ることを楽しみにしており、「キセキレイが増えてきたね」などと、データを分析する様子も見られるようになった。

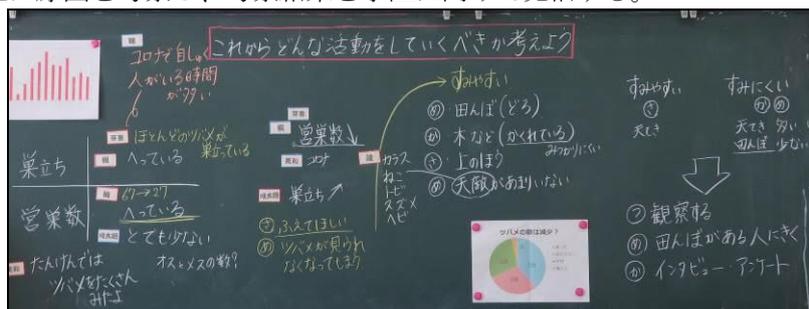
### ② 4年生「ツバメの営巣調査」(令和2年度)

ツバメの営巣調査は、昭和62年から継続して取り組んでいる、本校の特色ある活動の一つである。先にも書いたような児童数の減少に伴い、最近では、校内に営巣するコシアカツバメなどの営巣状況を4年生が担当し、学区全体の調査(アンケート)依頼や回収は全校児童で分担、その集計や分析については4年生児童が担当することで、負担を軽減しながら活動を続けてきた。役割分担をすることで負担軽減ができるようになった反面、集計や分析をする4年生がアンケートに協力して下さった方々の生の声を聞くことができないという状況が生じるようになった。

そこで、今年度は営巣調査に関係した活動のすべてを、4年生が担当することとした。手順は以下の通りである。

- ア 学区全戸を対象とした営巣・巣立ちの実績の有無だけを尋ねる簡易営巣調査を行う。
- イ その結果を踏まえて、営巣・巣立ちの多い地域と少ない地域で聞き取り調査を行う。
- ウ 営巣・巣立ち数が増えた原因を考察し、考察結果を学区に向けて発信する。

下の写真は、イの聞き取り調査の結果を受け、今後の活動を決めるための話し合いの記録である。生平学区における営巣数を増やすためには、何ができるかを懸命に考え、発表する児童の姿を見ることができた。



児童が考えたツバメの営巣数を増やすためにすべきこと

### (3) 5・6年生におけるふるさと学習

#### ①5年生「生平に伝わるお話を次の世代につなげよう」(令和2年度)

先に紹介した「生平ふるさとカルタ」と同様、生平の昔の様子を今に伝えるものとして、「生平のむかし」がある。これは、本校元校長が学校新聞に掲載した「ふるさとシリーズ」と、郷土を題材にした学芸会用シナリオをまとめたものである。本校では、運動会における高学年集団演技で、生平学区を代表する題材である「孝婦とら」、「ツバメ」、「地搗き唄」の3つを3年おきに披露している。そして、学芸会では5年生が郷土劇として「生平のむかし」に掲載されている話の中から上演しており、地域の方が非常に楽しみにして下さっている出し物の一つである。本年度はその中から「しかのつの」に取り組むこととなった。5年生児童は、江戸時代の庶民の生活の様子を思い浮かべたり、主人公が失ってしまった30両の価値を調べたり、当時の生平の様子に思いをはせたりしながら自分の役を演じていた。今年、新型コロナウイルスの感染拡大防止の観点から、観客の人数制限をする中での上演となってしまったが、それでも多くの観客の心を打つ作品となった。



土劇「しかのつの」上演の様子

#### ②6年生「野鳥の楽園『バードピア生平』を裏山に作ろう」(令和元年度)

平成21年に学校裏山に作られたふるさと池は、当時の5年生が学校にカワセミを呼び込もうとして作ったものであるが、それが2年前の猛暑により完全に枯渇してしまった。そこで、池の改修工事を実施し、常に水をたたえる池へと生まれ変わった。しかし、カワセミを呼び込むためには、それ以外の鳥も呼ばなくてはいけないのではないかと考えた6年生児童が、それぞれの保護者に協力を要請し、池の周辺に設置する給餌台を制作した。さらに、給餌台の設置に留まらず、池を含む裏山一帯を「野鳥の楽園バードピア生平」として整備していきたいと考えたようになった。中には、老朽化した飼育小屋の撤去やイノシシよけの柵の設置、カラ用巣箱の交換など、危険を伴うような作業もあるので、まずは自分たちだけでできることを進めていこうと、給餌台への給餌、池周辺の除草や、野鳥の餌として活用する実のなる木の植樹などの作業に取り掛かった。右の写真は、裏山にあるバードバスを掃除している様子であるが、この時期、6年生が頻りに裏山を訪れ、自発的に作業をする姿を見かけ、頼もしさを感じた。



保護者と給餌台を作成する児童



バードバスの清掃をする児童

### (4) 愛鳥委員会におけるふるさと学習

愛鳥委員は、主に愛鳥活動で知ることのできた学区の素晴らしさや、生平小児童の愛鳥活動に対する取組を学区に広げる(伝える)という役割を果たすべく、「ふるさと愛鳥新聞」を3か月に1度のペースで発行している。また、本年度は、自分たちと活動を共にしていただくことで、

愛鳥活動に対する学区の理解が深まるのではないかという考えから、これまで児童のみが参加をしていた縦割り探鳥会

(2か月に1度、全校を5つの縦割り班に編成し、それぞれが別のコースに出かけて探鳥をする)を保護者並びに学区の方が自由に参加できるように変更した。さらに、右資料の太枠内にあるように、探鳥会の参加して下さった学区の方に対するインタビューを行い、その内容を紹介することで、さらに参加者を増やしていきたいと考える。



学区の方への理解を深めるという点では、前出の「バードピア生平」整備について、作業の危険性、専門性などから児童だけでは作業ができない内容に対して協力をさせていただく「バードピア生平」サポーターの募集も手掛けている。現段階では10名ほどの方から申し出があり、お手伝いをいただいている。一方的な広報だけでなく、協力要請という形も含め、さらに地域への理解を深める活動続けていきたいと考えている。

さらに、本年度はコロナウイルスの感染拡大防止の観点から、本年度は例年通りに学校を訪問し合うことのできない豊田市立滝脇小学校との交流会の持ち方を検討するとともに、本校の活動を広げる別の手段を模索していこうとも考え、活動を続けている。

#### 4 おわりに

「コロナウイルスの影響で、今年の餅つき大会はできないと思っていました。でも、学区の皆さんのおかげで、例年と同じように餅つき大会をすることができました。特に6年生は、餅つきにも挑戦することができて、とても楽しかったです。本当にありがとうございました。」

これは、学区ふれあい餅つき大会の閉会式で、代表児童が伝えた感謝の言葉である。先日、本校では、学区の恒例行事となっている「学区ふれあい学習」、その一環としての「学区ふれあい餅つき大会」が行われた。コロナウイルスの感染拡大防止の観点から開催が危ぶまれたものの、町会長を始めとした多くの方々がアイデアを出し合い、最善の開催方法を考えて下さった。餅つきを上演することができない代わりに、子供たちに米作りや餅を搗くことの意味を教えたいと、お米についての学習会の講師を進んで引き受けたり、学区に伝わる「地搗き唄」のDVDを持参したりして、会を支えて下さった。そのおかげで、参加人数は例年の半分であったものの、例年以上の盛り上がりを見せた。

地域の方々は、学区探検に行けば「こんな時期だからこそ」と例年以上に子供たちの受け入れを快く受け入れてくれ、5年生児童が「ふるさと池」の改修を進めれば、人手が足りないなら、と作業への参加を申し出てくれる、本当に人情味にあふれる親切な方ばかりである。このように恵まれた環境の中で、ふるさと生平の素晴らしさに自ら気づき、大切にしていきたいという思いを抱くことができるような実践を今後も継続するとともに新たなアプローチの仕方を模索していきたい。



ふるさと池お披露目式での全校写真

## 主体的に学習に臨み、SDGsの視点で未来につなげようとする子の育成

### 『挑め！環境問題～平間環境守り隊』の実践

神奈川県川崎市立平間小学校

校長 佐川 昌広

総括教諭 石橋 修一

#### 1. はじめに

川崎市は、多摩川に沿って南北に細長い形で、南部の臨海工業地帯には、メガソーラーなど優れた環境技術を持つ施設や企業が集積している。また、北部の多摩丘陵や東京都との境を流れる多摩川には、自然が残されている。

川崎の学校は、公害のまちというイメージから脱却し、環境先進都市としての川崎あるいは再生した多摩川というような変化の中で、行政やNPO、企業の出前授業や施設見学などの協力を得ながらエネルギー・環境教育を進めてきた。さらに、かわさき教育プランのキャリア在り方生き方教育の考えをNPOや企業と共有し、「わたしたちのまち川崎」という視点から、ふるさと川崎への愛着やシビックプライドを醸成するような川崎ならではの地域に根差したエネルギー・環境教育も進めている。そして昨年、SDGs未来都市に選定されている。

平間小学校は、多摩川のガス橋近くにある川崎市中原区の児童数500名強、創立77年の学校である。明るく素直な子が多く、平間プライドを合言葉に自分をつくり、自分のまちや学校をみんなで作り上げていこうとしている。地域の特徴として、多摩川と平間銀座商店街が挙げられる。多摩川のガス橋下には多摩川最上流部の干潟があり、海と川の生き物が集まる貴重な場所である。平間銀座商店街は、南武線平間駅から多摩川近くまで続く商店街で、サマーフェスティバルやサンバカーニバル等のイベントや、お店屋さん体験などの学習で平間小の子どもにとって大切な場所である。

平間小では、多摩川と商店街を核とした環境教育やSDGs及びコミュニティ・スクールを実施している。多忙な学校において新しい教育を始めるのではなく、ESDやSDGsの視点を加えることで、教科横断的に取り組むことや、単元づくりや教材づくりが充実するようなカリキュラムデザインが考えられ、働き方改革や地域の活性化等の学校運営面でも生かせるので、子ども・教職員・地域が元気な学校になるような取組であると考え。 (ESDやSDGsは、子どもの心の発達や自己肯定感＝平間プライドの醸成に寄与することや、主体的・協働的に学ぶ力＝主体的・対話的で深い学びを高めることなど、現場が抱える教育の諸問題の解決に大きく役立っている)

この取組は、平間小だけで行うのではなく、近隣の川崎市立平間中学校や神奈川県立川崎工科高等学校との連携、川崎市小学校教育研究会の社会科教育研究会・理科教育研究会・生活科・総合的な学習の時間教育研究会及び「エネルギー環境子どもワークショップ in 川崎」実行委員会の協力を得て、川崎から全国に発信できる教育として成り立つものと考え。

#### 2. 平間小マネジメントコンセプト

##### 平間小マネジメントコンセプト

『すべての平間小の子が、どこにいても楽しく生き生きとすごすために、

平間プライドをもって自立と共生をめざす』

(SDGsの理念である「誰一人取り残されない」に通じる考え)

本校では、自分をつくり(自分を知り、自立する)、私たちのまちや学校をみんなで創り上げていく(周囲の人たちとつながり、共生する)という意味の合言葉「平間プライド」を学校運営のマネジ

メントコンセプトの最初に掲げ、全ての教育活動をSDG sの視点から捉えて推進している。様々な学習を通して日常的に子どもがSDG sを意識しているだけでなく、特にコミュニティ・スクールとして地域とともに運営する本校では、子どもがSDG sについて学んだことや考えたことを、家族や町の人に伝え、地域とともにいかに取り組んでいくかに力を入れており、多くのステークホルダーを巻き込んだ取組を川崎市内外に発信している。

### 『すべての平間小の子どもが、どこにいても楽しく生き生きとすごすために』今年度3つの重点

#### ① 「SDG sの視点での生活科・総合的な学習の時間の研究～主体的・対話的で深い学びを大切にしたい授業」

本校は、生活科・総合的な学習の時間の川崎市研究推進校である。そこでカリキュラム・マネジメントと、主体的・対話的で深い学びの実現に向け、つながりと見通しをもった教科横断的な授業改善を推進している。さらに、持続可能な社会の創り手の育成という面からSDG sの視点を加えることで、単元づくり・教材づくりが充実するカリキュラムデザインを考えている。

#### ② 「コミュニティ・スクール～学習が豊かなものになるようなステークホルダーと連携した開かれた学校づくり」

多摩川や平間銀座商店街を核とした授業を行うため、コミュニティ・スクールを教育課程の中に位置づけ、地域人材を活用した教育活動を実践している（ガス橋下干潟観察会・大人のための多摩川ガサガサ探検や商店街での夜店出店・CM創りなど）。また、学校や地域や保護者が連携・協働して地域に根差した特色ある教育活動に取り組むことでSDG sの17の目標の達成に貢献することにつながる。この取組は、保護者や地域の協力はもちろん、様々なステークホルダーの協力を得て行っている。

#### ③ 「ユネスコスクールチャレンジ～ESDを推進するカリキュラム・マネジメント」

今年度、本校はユネスコスクールに申請している。カリキュラム・マネジメントとは、総合的な学習の時間を中心に、教科等の学びを横断的に関連づけた教育課程を創ることと考え、教員だけでなく、職員室・保健室・事務室・用務員室・給食室のESD・SDG sの取組も行っている。

## その他の特徴的な取組

### 平間SDG sフェス

本校では、全ての学年でSDG sを学んでいるが、1月にその集大成として、「平間SDG sフェス」を開催する。このフェスでは、子どもがSDG sについて発表するだけでなく、SDG sに取り組む様々なステークホルダー（PTA・町会・商店街・企業・NPOなど）が、出前授業を行ったり、ブースを出展したりする。平間小の子どもだけで行う取組ではないので、「平間SDG sフェス」と呼んでいる。このフェスを川崎の平間から世界に広く発信したいと考えている。

参加団体は、動物愛護センター・花王・日本財団・ユニセフ・JT B・JICA・TBM・KDDI・積水化学・地球温暖化防止活動推進センター・岩手県山田町教育次長・アフリカを旅する小島先生・保育園ぶどうの実平間園・県立川崎工科高校・平間町会・平間銀座商店街・平間小PTAなどである。

平間SDG sフェス全体の参加者数は、約650名（地域・教育関係者・行政・企業・政治家・マスコミなどが市内外から180名、保護者や家族470名）だった。子どもも大人も参観者であり実践者でもあるというスタンスがSDG sにふさわしいと考えた。

### エネルギー・環境子どもワークショップ in 川崎2020

2. 8 大戸小体育館

市内の小中学生とワークショップ形式でSDG sや環境の取組についての発表を見せ合う。毎年16団体300名の児童生徒と300名程度の大人が集まるイベントである。本校では5年生がこのワークショップに参加することで、他校からの刺激を受け、環境教育のまとめとなっている。

#### 4. 5年「挑め！環境問題～平間環境守り隊」の実践

##### (1) 単元設定の理由

現在地球規模の環境問題は深刻な現状である。しかし、そのことについてなんとなく知っているだけで、どこか自分事として捉えられていない。児童に限らず大人達の認識としても、直接目に見える変化がないため実感がわかないのだと思われる。

そんな中、我々が暮らす川崎市は「公害の町」として広く知られていた歴史がある。顕著な例として多摩川の惨状は当時の資料を見ると誰もが衝撃を受ける。しかし、多摩川は一度失われた自然環境を、人々の思いと努力によって、現在では元の自然環境を取り戻している。

このことは、川崎に暮らす者としては知っていなければいけないことであり、また環境は「人の手によって良くも悪くもできる」という教訓として大きな意味をもつ。

初めにも述べたが、現在地球環境は深刻な状況にある。国連で世界の共通目標であるSDGsにも設定されていたり、この日本でも環境省から「2100年天気予報」が公式に発表されたりするほどである。このように、今こそ真剣に環境問題に取り組んでいかなければならない。そんな中、川崎市の実例は大変価値があると考えられる。

本単元を通して、子ども達には「一度壊れた自然環境も人間の手で元に戻すことができる」ことを理解し、自分達の未来のためにやるべきことを考え、これまで当たり前としてきた生活のあり方を見直し、新たな「当たり前」を創り上げてほしいと願う。

##### (2) 単元構想図

環境について考えながら生活しよう。

現在の子どもの姿

- ・無駄遣い、好き嫌いなど、自己中心的な生活態度が見られる。
- ・相手を意識して発表する力が低い。(意欲・技能ともに)
- ・学習に対して意欲的な児童が多い。

#### 探究活動1 身の回りの環境について考えよう。

##### 活動の動機づけ

##### 多摩川ガタガタ探検隊 (ガス橋)

- 身近な自然である多摩川の干潟の生き物をつかまえ、普段気づかない自然や生き物の存在に気づく。

##### 身の回りの自然環境を知ろう (課題設定・情報の収集)

- 自分達の身の回り (平間の町) の自然環境について考える。(クモの巣マップ)
- 疑問や関心をもったことをもとに個人の課題を設定し、調査する。(植物・動物・昆虫)

##### 調査内容を交流しよう (整理・分析) (まとめ・表現)

- 身の回りの自然環境について調査したことを、友だちに伝える効果的な発表方法でまとめる。(整理・分析) (まとめ・表現)
- 調査報告会を行い、交流する。(まとめ・表現)



##### 多摩川ガサガサ探検隊 (丸子橋)

##### 活動の動機づけ

- 身近な自然である多摩川の生き物をつかまえ、普段気づかない自然や生き物の存在に気づく。また、過去の多摩川 (死の川) との大きなギャップを感じさせる。

##### 中本賢さんのお話

- 多摩川の水質汚染の歴史と現在の様子との比較を通して、人間と環境のあり方を考える。
- 環境は人間の手で悪くもなるし、改善もできることに気づかせる。

## 探究活動2 環境問題について考え、自分の生活を見直そう。

環境について考えながら生活しよう。

### 現在の環境問題を知ろう（課題設定・情報の収集）

- 現在世界中で懸念されている環境問題の現状を知る。（資料・ゲストティーチャー）
- 環境改善の実践例を聞いたり、体験したりする。（出前授業）
- 疑問や関心をもったことをもとに個人の課題を設定する。

#### 活動の動機づけ

- 「2100年の天気予報」を見て、地球温暖化の現状と課題を知る。

### 課題について調べよう（情報の収集）

- 自分の課題について調べる。（本・インターネット）

### 環境問題との向き合い方を考えよう（整理・分析）

- 調べたことを整理して、自分自身が環境問題にどのように向き合っていたらよいか考える。（日常生活の見直し→学校生活の見直し）

### 自分の生活を見直そう（課題設定・情報の収集）

- 自分たちの考えた生活改善の方法を意識して、生活する。（チェック表）

### 環境問題について自分の考えや、実践したことを発表しよう（まとめ・表現）《学年交流会》

- 自分のクラスの取り組みだけでは問題を解決できないことに気づき、学年全体で取り組む意義を確認する。
- 環境問題に対する自分の考えと取り組みについて、効果的に伝える方法を考え、学年交流会で発表する。（国：「わかりやすく伝える」）
- 学年交流会を通して、学年全員で「平間環境守り隊」として活動することを確認する。

## 探究活動3 平間のみんなに私たちの実践を伝えよう

#### 活動の動機づけ

### 平間の町の現状を知ろう

- 地域に暮らす人々の環境問題に対する実態調査をする。（校内・商店街のインタビュー・アンケート活動）
- なぜ、ごみ拾いなどのボランティア活動をしているのか、活動に対する思いや身近な環境に対する考え、継続して取り組むことの必要性を聞く。



### 平間の町の環境に自分達ができることを考えよう（課題設定）

- 平間の町の環境における問題点に基づいて自分たちにできる改善策を考え、「平間環境守り隊」（各クラス）を結成する。

### 平間環境守り隊の活動計画を立てる（情報収集・整理分析）

- 具体的な取り組みをクラス全員で話し合う。（国：提案書「あしたをつくる私達」）
- 全体で取り組む内容や、グループで取り組む内容を考え、活動分担する。
- 各グループで計画書を作成する。

環境について考えながら生活しよう。

平間 みんなに私たちの実践を伝えよう (情報収集・整理分析・まとめ・表現)

○SDGsフェスで自分たちの実践を伝える準備をする。

○相手に伝える工夫を考え、効果的な発表方法を考える。

○SDGsフェスで自分たちの実践を伝える。

活動をふりかえろう (まとめ・表現)

○「平間環境守り隊」の活動内容と成果を紙媒体にまとめる。(国:「活動報告書」)

○「平間環境守り隊解散集会」報告書を基に、お互いの成果やこれからの自分のあり方を語り合う。

(有志で「エネルギー・環境子どもワークショップ」に参加)



### めざす子どもの姿

人間の生活の仕方によって環境は変わってしまうことや、自分達の生活を改めることで環境を改善することができることに気づき、日常生活において身の周りの環境について考えながら行動できるようにする。

## (3) 成果と課題

### ◎成果・子どもの意欲を引き出す手立て

#### 「多摩川体験」

多摩川でガタガタ探検・ガサガサ探検の2回の体験活動を環境学習の入り口に設定したことで、「環境は、人の手によって良くも悪くもなること」について実際に見たり感じたりしたことを通して理解を深めることができた。この考えが、本単元の軸になり、自分たちが環境改善に向けて行動を起こしたり、自分たちの活動を広めたりしようとする際の根拠になった。

#### 「2100年天気予報」

資料として提示した環境省「2100年天気予報」は、子どもたちの意欲を引き出すうえで非常に効果的だった。環境問題に対して具体的な取り組みを実践するうえでの必然性や、未来の環境に対する危機感を自分事として捉えるうえで最高の資料だった。

### ◎課題・表現力、発想力、発表方法の工夫について

上述の通り、SDGsフェスで、学習の成果や自分たちの実践を、校内や地域の人に伝えるべく、相手意識をもって発表方法を考え、伝えることができた。

しかし、子どもたちの活動の様子を見て、表現力・発想力を高めていく必要があると感じた。「どうしたら飽きずに最後まで聞いてもらえるか?」「相手の印象に残るためにできることはないか?」など、子どもたちから引きだそうにも、モデルになる発表方法との出会いが不足しているように感じた。今年度のSDGsフェスのように様々な発表方法に触れる機会を積み重ねていく必要があると感じた。

3. 令和2年度 第5学年ESDカレンダー

教科等	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月			
国語			きいて、きいて、 きいてみよう 和語・漢語・外来語	古典の世界		目的に応じて引用するとき みんなが過ごしやすい町へ	新聞を読もう よりよい学校生活のために	固有種が教えてくれること 古典芸能の世界—語りで伝える			図書館を使いこなそう 提案しよう、言葉とわたしたち				
算数							割合 割合とグラフ								
理科			植物の発芽と成長 魚のたんじょう	花から実へ		人のたんじょう		流れる水のはたらき							
社会			国土と世界、気候、自然条件と人々の暮らし			水産業のさかんな地域			情報を伝える人々・情報技術		国土の自然と共に生きる				
総合的な学習の時間			<p>挑め！環境問題～平間環境守り隊～</p> <p>探究活動1 身の回りの環境について考えよう。</p> <p>探究活動2 環境問題について考え、自分の生活を見直そう。</p> <p>探究活動3 平間のみんなに私たちの実践を伝えよう</p> <p>SDGs フェス エネルギー環境子どもワークショップ</p>									13	14	15	17
英語			外国語												
特別活動			学級会 係活動、当番活動、実行委員												
道徳			命の詩—電池が切れるまで 一ふみ十年		自分の身は自分で守る 同じでちがう	だれもが幸せになる社会を	クールボランティア	おおきに、ありがとう 小さな国際親善大使			最後のコンサート おばあちゃんからもらった命	アンパンマンがくれたもの			
音楽															
図工															
体育			水の事故防止の心得					表現運動							
家庭			持続可能な暮らしへ			物を生かして住みやすく									
	環境の教育		多文化の理解		人権・命の教育		関連する内容・活動								



# 主体的に学び、持続可能な社会を創造する環境教育 ～曾根干潟周辺の自然からの学びを通して～

福岡県北九州市立曾根東小学校

校長 澤野 孝雄

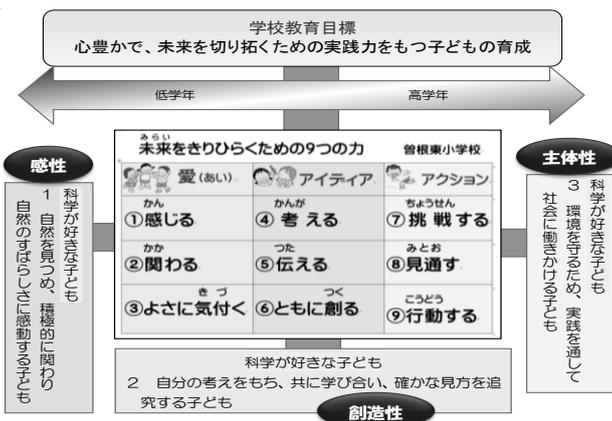
研究主任 高木 龍太郎

## I 主題設定の理由



曾根干潟をはじめ、豊かな自然を校区に有する本校の周辺には、絶滅危惧種に指定されているニッポンバラタナゴやクロメダカなどの多様な水生生物が生息している。また、周防灘に面する曾根干潟は、北部九州最大級の干潟と言われ、ズグロカモメが飛来したり、カブトガニの産卵が見られたりする貴重な場所である。このような豊かな自然に囲まれた立地を生かして、本校は30年余り、環境教育に力を入れている。さらに近年には、子ども達を中心となった「持続可能な社会を創造する活動」

にも力を入れている。このように本校の子どもたちは、小学校6年間を通して生活科や理科、総合的な学習の時間、特別活動などあらゆる機会を通して自然と触れ合い、関わり、自然から学んでいる。継続してきた環境教育の中で、試行錯誤を重ねながら様々な面からアプローチしてきた教材開発も多岐にわたってきた。子どもたちが見せる「感動の表情」「考え、追究する態度」そして、何より「自分のこととして本気で取り組んでいる姿」がこれまでの最も大きな財産と考える。本年度から、学習指導要領の全面実施を受け、これまで本校が蓄積してきた研究の財産を生かしつつ、これからは、時代の変化に応じた環境教育を目指し、内容ベースから「何ができるのか。」「何を身に付けるのか。」といった「育てる資質・能力」を視野に入れた研究を推進することとした。研究では、これらの資質・能力の育成のために、①「ひと・もの・こと」を中心に据えた主体的な体験活動を取り入れた指導、②思考の過程を可視化し、協働的な学びの楽しさを生む対話的な学習の工夫の2つを手立てとし、児童の対話、発言、文章表現を分析しながら、検証を行うことにした。



## II 実践内容

- 1 第3学年 総合的な学習の時間：曾根東の宝物「クリークの生物調べ」2019年 10月実践
- 資質・能力を中心とした教科横断的なカリキュラム 3年生

そねつとカリキュラム 3年 学校教育目標 心豊かで未来を切り拓くための実践力をもつ児童の育成

特別活動	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
特別活動	クリーン作戦 どろんこ集会					クリーン作戦						お別れ集会
国語		良い関係を築こう		水は友だち 「星山は未来の風流」		説明の工夫について話し合おう （姿を変える大豆）		例をあげて説明しよう「食べ物 の秘密を教えよう」		三年とうげ	資料からわかったことを筋道を立てて語ろう「資料からわかること」	心に残ったことを自分の言葉で表そう「モチモチの木」
総合的な学習の時間	曾根東の宝物(40時間) ①②③④⑤⑥						-曾根東の水環境を調べ、地域の自然環境を広い視野で捉え環境を守る取り組みについて考える。					
社会	私たちの大好きなまち		小倉南区の様子							受け継がれる祭りや行事	昔の道具と暮らし	世界とつながる福岡県
理科	生き物の姿	植物を育てよう	昆虫を育てよう	植物を育てよう	植物を育てよう	植物を育てよう	動物のすみかを調べよう					
音楽										日本の音楽に親しもう		みんなでオンステージ
道徳		助かった命(生命尊重)		かな子の喜休み(自然愛護)			平尾合と曾根干潟(自然愛護)			ふるしき		礼儀正しい人
学習目標	①感じる力	②かかわる力	③よさに気付く力	④考える力	⑤伝える力	⑥ともに創る力	⑦挑戦する力	⑧見過す力	⑨行動する力			

小学校周辺のクリークや水公園に生息する生き物に興味・関心を持ち、その特徴や生態について調べ、クリークや水公園に多様な生き物が生息する理由を考え、生き物のつながりについて、分かったことを発表することができるようにする。また、曾根東小の豊かな自然に気付くようにする。

○ 単元構成(32時間)+理科の8時間

	主な学習活動	教師の指導・支援
【課題設定】 つかむ	1 理科の学習を想起し、学校周辺の生き物はどんなものがあるか予想し、本単元の学習のゴールと学習計画を考える。 ② 2 水公園に生息する生き物について調べる。 ～現地調査～ ② 3 見つけた生き物を紹介する。 ①	○ 事前の下見を行い、水辺に生息する主な生き物を紹介する。理科の学習を想起し、体のつくりや、食べもの、すみかのつながりについて確認できるようにする。 ○ 採集や写真によって、資料を活用できるようにする。
【情報の収集】 さぐる  【整理・分析】 深める	4 生き物を捕獲したいという意見が出た場合には、捕まえる方法を考える。 ① 5 生き物を捕る前にクリークの役割や管理している地域の人の気持ちを知る ② (9/3 9/4 又は 9/5 午前) 6 学校図書館や地域の図書館を活用し、必要な資料を集める、絵カードにまとめていく。 ④ 7 生き物調べグループで調べたことを共有する。②  8 絵カードを操作しながら生き物のつながりをまとめていく。 ② 9 グループで共有した情報から、さらに詳しく知りたいことについて調べる。(再調査1・2) ② 10 同じ生き物グループで、調べてわかったことの情報をもとに整理する。 ②	○ 調べやすい環境を整える。 ○ 必要であればクリークを管理している地域の方にインタビューを行う。 ○ 調べたい生き物が同じ(似ている)児童でグループを作り、情報を共有できるようにする。 ○ グループ交流で出た疑問や課題を整理し、見通しをもって活動できるようにする。 ○ 生息している場所の土の様子や周囲の様子などに目を向け、自分で調べたことで友達との共通点や、違いに気付かせるようにする。 ○ ワークシートをもとに、生き物についての情報を整理する。 ○ 生息場所でグループ構成を行い、絵地図につながりを表すことができるようにする。 ○ 必要に応じて、ゲストティーチャーを招聘し、地域の願いに気付かせる。
【まとめ・表現】 生かす	11 グループで、模造紙にまとめたことにわかったことを文で書き加えて掲示できるものに仕上げている。 ④ 12 これまでの学習で学んだことをもとに、生き物のつながりについてまとめる。 曾根東のたからものについてまとまる。 ①	○ 理科・国語科の学習を生かして、絵や文で、調べて分かったことや気づいたことをまとめるようにする。 ○ たからものは、生き物だけではなく生き物が暮らせる環境があり、その環境を守っていく人々の努力や願いがあることに気付くようにする。

## ○ 授業の実際場面

導入の場面では、まず、校庭で昆虫などの動物のすみかを確認し、観察カードに記録した。その際、各グループにデジタルカメラを持たせ、写真も記録するようにした。別の日に理科の学習で獲得した見方を働かせて、学校の回りのクリークの生き物調べを行った。調査する場所については、前年度までは、希少種がいる大浜池を調べていたが、「何度も観察に行けない」という課題から、いつでも繰り返し観察することのできる学校回りのクリークに変更した。子ども達は、いつも馴染んでいる場所なので、効率的に生き物を見つけ、デジタルカメラで写真を撮りながら生き物とすみかの関係を記録していった。



その後、子ども達は、観察カードを整理し、生き物マップ作りを行った。これらの活動を通して、動物は食べ物のある場所や隠れることができる場所に多くいることなどをとらえることができた。話し合いの結果、「食べ物やすみかは動物によって違う（多様性）けれど、どの動物のすみかも、餌を獲たり身を隠したりすることは同じ（共通性）だ」という結論に至った。そして、同じ生き物を調べた児童で情報交換を行い、自分の予想を確かめるために図鑑やインターネットを活用して調べ活動を行った。その後、再びクリークに足を運び、自分の得た情報が本当に正しいのかを確かめに行き、自分の調べた生き物についてまとめた。繰り返し調査に行くことで実感を伴った理解につながったようだ。

さらに、もっと様々なつながりについて調べたいという課題から、クリークのウェビングマップを作成した。その結果、「生き物」と「人」のつながりに気付く子どももいた。学習のまとめとして、整理した生き物マップはエコミュージアムに掲示して、本校の児童や保護者へ情報を発信した。低学年の子ども達を中心にとっても好評だった。

### 「単元終了後の児童の感想例」

- ・たくさんの生き物がつながっていることが分かりました。
- ・エコミュージアムに掲示して嬉しかった。もっと調べたいことはショウリョウバッタの仲間にはどんな生き物がいるかです。

## ○ 成果と課題

- ・何度も繰り返し、観察できる場所を定点観察することで、細かな変化に気付いたり、新たな発見をしたりして、自然を見る目が養われることが分かった。観察を重ねる中で、生き物のすみかと生体の関係や相互のつながりなどを自ら発見する子どもが増えた。しかし、「自然のすばらしさ」を実感しても、それを上手く友だちに伝えたり、記録に残したりすることができない子どももいた。感じ考えたことを豊かに表現する力の育成が必要である。
- ・学校周辺のクリークは、学年が変わっても学習の場となっている。それぞれの学年によって観察の視点が違うので、学年が上がることに自然事象への見方の質の高まりが感じられる。
- ・3年生では、焦点化したい内容に合わせた思考ツールを活用した。子ども達は「生き物のすみか」「生き物の食べ物」などを手がかりに「対話」を通して考えを深め、確かな見方を追究していった。また、振り返りで自分との対話、自然事象との再対話などを行う姿が見られた。子ども達一人一人に「本当にそうなのか」「もう一度、調べてみよう」「やっぱりそうだった」といったつぶやきが見られるような授業が成立した。しかし、協働的な学びの良さを感じ、自分の考えを深めた子ども達がいる一方、多様な考えに耳を傾けることが難しい子どもも存在する。誰一人取り残さない教育のためにも有効な個別の支援策を検討したい。

## 2 全学年 第28回 秋の曾根干潟クリーン作戦(with コロナ) 2020年 9月実践

曾根干潟クリーン作戦と名付けられたこの活動は、年2回、6月と10月に行われている。スタートのきっかけは、28年前に遡る。当時、学校の慣例行事となっていた冬の曾根干潟の野鳥観察で、ゴミが散乱している様子や釣り糸が足に絡まった野鳥を6年生の子ども達が見つけショックを受け、「このままではいけない。干潟の自然を守りたい」という強い思いがゴミ拾いという活動につながり、現在の曾根干潟クリーン作戦に至っている。

今では、地域の方、保護者の参加もあり、毎回600名規模の一大イベントになっている。しかし、本年度は、新型コロナウイルス感染防止の観点から、6月の曾根干潟クリーン作戦は、中止となった。

子ども達が活動を楽しみにしている学校行事であり、秋はなんとか実施できるように3密を回避・マスク着用・参加人数の縮小等感染防止対策を徹底して、9月18日に実施することができた。

また、今回はこの活動の趣旨に賛同してくださる本市を拠点とするJ2のギラヴァンツ北九州と関東圏の企業数社の協力も得て、プラスチックゴミを循環させる新規事業にも取り組んだ。プラスチックの循環再生については、6年生の学習内容と関連させ、オンラインで開催予定(令和3年1月22日)の「環境フォーラム」で実践発表の形を取りたいと考えている。以下にその概要を紹介する。

令和2年8月吉日

地域の皆様

北九州市立曾根東小学校  
校長 澤野 孝雄  
PTA会長 新浪 義和

秋の

# 第28回 曾根干潟クリーン作戦

「曾根干潟クリーン作戦」実施のお知らせとお願い

暑い日が続いておりますが、皆様方におかれましてはいかがお過ごしでしょうか。

さて、本校ではスクロカモメやカフトガ二等、豊かな自然に囲まれた曾根干潟を生かした教育を進めてきました。子どもたちの「大切な自然を守ろう」という自発的な気持ちから「曾根干潟クリーン作戦(清掃活動)」が始まり、今回で28回目を迎えます。子どもたちは、ますます自分たちの活動の大切さを感じているようです。

そこで、秋の曾根干潟周辺のクリーン作戦を下記のように実施したいと思っております。みんなで清掃活動を行いながら、語るべきふるさとの自然の素晴らしさを実感し、環境を守り続けることの大切さを学んでいきたいと思います。

ご多用とは存じますが、趣旨をご理解いただき、参加していただきたくご案内申し上げます。実施にあたっては、3密を回避して、新型コロナウイルス感染防止を徹底した形態で行う予定です。但し、新型コロナウイルスの感染状況によっては中止する場合があります。ご理解とご協力をお願いします。

記

1. 日 時	令和2年9月17日(木)	※ 雨天等で延期・中止の場合は、午前10時までに曾根東小学校のホームページでお知らせします。
2. 時 程	13:30 児童学校出発 (5年→6年→2年→1年→4年→3年の順で出発) 14:00 現地到着・活動開始 15:00 作業終了・現地出発 15:30 学校到着・解散	
3. 集合場所	現地集合(裏面参照)	
4. 準備していただくもの	軍手、タオル、水筒(肩から下げられるタイプ) 大きなビニル袋(拾ったものを入れる。学校でも準備しています。) 汚れてもよい服(けが防止のため長ズボンが望ましい。)、靴(長靴)、帽子	
5. 服 装	・参加人数把握のため、現地の受付にてお名前をお書きください。 ・熱中症対策を十分に行い、参加をお願いいたします。 ・雨天の場合は、18日(金)の同時刻に順延とします。	
6. 備 考	※ 児童の活動場所(予定)を裏面に記載しています。	



**令和2年 9月18日 実施  
第28回 曾根干潟クリーン作戦**



**昨年度 実施  
第6学年 地域環境フォーラム**

### 3 第6学年 総合的な学習の時間「ビオトープ再生プロジェクト2021始動！」

2020年 6月より実践開始

#### ○ 資質・能力を中心とした教科横断的なカリキュラム 6年生

そねつとカリキュラム 6年		学校教育目標 心豊かで未来を切り拓くため実践力をもつ児童の育成											
学年	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
学習領域	愛・こころにこ	アクション	アイデア	アイデア	アイデア	アイデア	アクション	アイデア	アクション	アイデア	アクション	アイデア	
活動	毎週運動会	アクトアクト	アクトアクト	アクトアクト	アクトアクト	アクトアクト	アクトアクト	アクトアクト	アクトアクト	アクトアクト	アクトアクト	アクトアクト	
目標	筆者の意図をとらえ、自分の考えを表現しよう	立場を明確にして主張をし合い、考えを広げる議論をしよう	町の良さを伝えるパンフレットをつくらう			意見を閉き合って考えを深め、意見文を書こう	筆者のものの見方をとらえ、自分の考えをまとめよう	読み取ったこと、感じたことを表現しよう	筆者の考えをとらえ、自分の考えと比べて書こう	話し方を工夫し、資料を示してスピーチをしよう		石井先生の講話	
総合的な学習の時間	リトルリーダーズプロジェクト(15時間) ・自分たちで、1年生や全校のためにどんなことができるか考え、最上級生としての自覚を持つ。 ①②④⑤⑥		ビオトープ再生プロジェクト 2021(20時間) ・ビオトープを復活・維持するための調査活動を行い、自分たちの手で再生させる。 ①②③④⑤⑥⑦⑧⑨				見つけよう自分の未来(10時間) ・今までの自分をふりかえり、自分の将来について考え、なりたい職業について調べ、まとめる。 ③⑥⑦⑧						
面識の取得	われら広報大使 魅力いっぱい管根東(25時間) ・管根東のまちの課題を整理・分析し、地域へ発信することで、自分たちのまちのさらなる発展を願い、実践することができるようにする。 ①②③④⑤⑥⑦⑧⑨												
歴史	歴史:大昔の暮らし		歴史:武士の世の中				歴史:近代国家へのあゆみ		歴史:戦争から平和へ		暮らしの中の政治		世界の中の日本
理科	ものの燃え方	植物の成長と日光の関わり	体のつくりとはたつき	植物の成長と水の関わり	生物と水の関わり	月と太陽	水と油の性質	土地のつくりと変化	てこのはたらき	電気の性質とその利用	生物と地球環境		
社会	図 わたしのまち に入りの場所		家 クリーン大作戦									家 共に生きる生活	
道徳		自分のできること(動物)	長崎の鐘鐘鐘(生命の尊さ)			IPS細胞の向こう(希望と典義)				母校大英院(よりの学校生活)	杉原千蔵(公正・公平)	アユがもってきた(自然愛護)	
	①感じる力	②わかる力	③よさに気付く力	④答える力	⑤伝える力	⑥ともにする力	⑦挑戦する力	⑧見通す力	⑨行動する力				

#### ○ 【関連させる教科】理科：生物と環境・水溶液の性質

#### ○ 単元目標

- ・ビオトープの役割等を調べ、自分たちの手で、生き物にとって快適な棲みかとなる場所にするができるようにする。
- ・食物連鎖や自然環境が生き物にどのように関係しているか多面的に調べるとともに、環境保全の在り方を積極的に探ろうとする態度を育てる。
- ・個の考え(情報)をまとめるための思考ツールを活用して、グループで意見を出し合いながら考えをまとめる。
- ・ICTを活用した記録の蓄積とタブレット端末を活用した非接触の学び合いの工夫

#### ○ 授業の実際場面

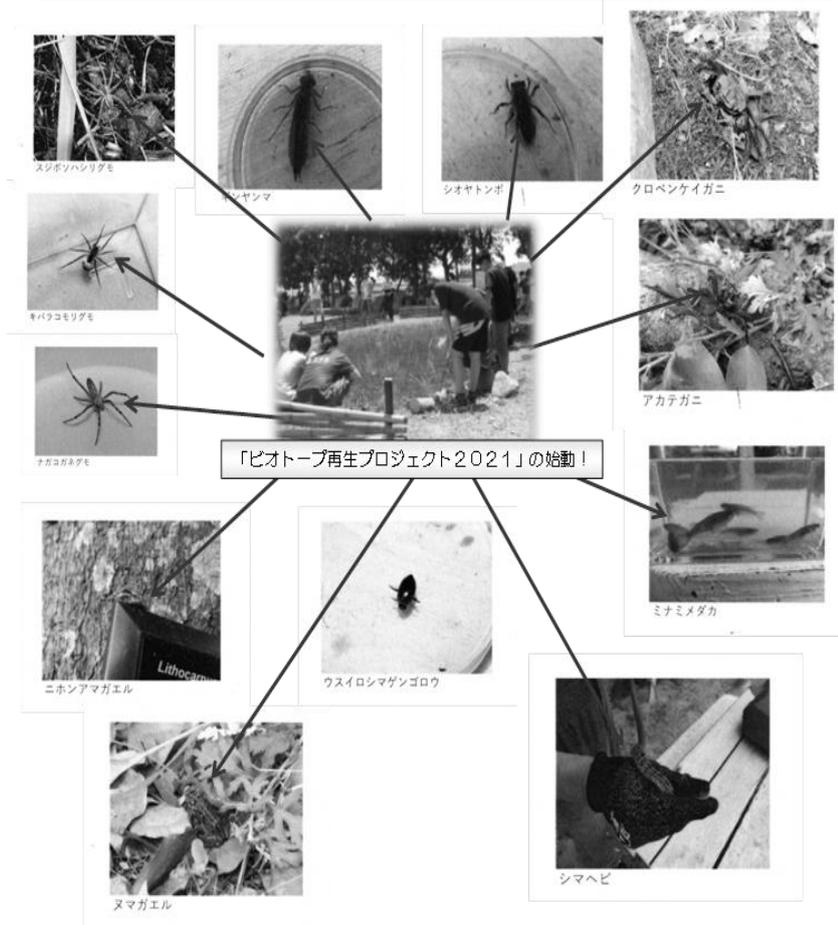


本校の運動場の隅にかつてニッポンバラタナゴを繁殖させていたビオトープがある。しかし、数年前に整備したが、雑草が生い茂り、池の底もシートが破損するなどして授業での活用が難しくなっていた。そこで、本年度、北九州市立かぐめよし少年自然の家と響灘ビオトープの所員の方に全面的に協力いただき、再整備することにした。総勢20名近くの所員の方が樹木の伐採、草刈り、生き物調査等を行った。さらに、今後、観察しやすいように手作りの柵等も設置していただいた。

整備された翌日以降、子ども達からは、「ビオトープが変わった」「何もなくなったよ。生き物のすみかは大丈夫?」といった声が多く上がった。

整備前の生き物調査の結果(2020年6月現在)、未整備にも関わらず、数多くの生き物が生息していたことが分かった。調査に関しては、響灘ビオトープの所員(専門家)が行ったものである。以下に写真で示すとおりである。

## 調査結果 今現在の生き物調査結果（2020年 6月実施）



調査結果を6年生に知らせ、「ビオトープ再生プロジェクト2021始動！」の学習のきっかけとした。

資料を6年生に提示すると、日頃何気なく見ていたビオトープにこんなに多くの生き物が生息していたことに多くの子ども達が驚き、曾根東小学校区の自然の豊かさを感じたようだ。6月以降、6年生の子ども達は、定期的にビオトープの定点観察（デジタルカメラによる記録も含む）を続けている。7月の大雨の後、ビオトープには、学校周辺のクリークから、再び、アカテガニなどの生き物が戻ってきた。6年生の子ども達は、あっという間に草木が生えていることに改めて驚いていた。今も子ども達は、猛暑の中、興味をもって、定期的にビオ

トープを観察している。今後、ビオトープにどのような変化があらわれるのか。生き物の快適な棲みかにはどんな働きかけが必要なのか。主体的に関わり、追究していくことを楽しみにしている。

### ○ 成果と課題

・コロナ禍の今年、6年生は多くの行事が中止もしくは、規模縮小実施となった。そのような中、「ビオトープ再生プロジェクト2021」をきっかけに、自然とかかわる体験活動や友だちとかかわる学び合い活動を通して、マスク越しではあるが、子ども達の笑顔に触れることもできたことは大きな成果である。また、制限された教育活動の中でも、下級生のために生き物が溢れるビオトープを実現したいという強い思いから、様々な工夫をして活動する子どもも多く見られた。子どもたちは、大人が思っている以上に順応力があると改めて感じた。

### Ⅲ 今後の本校の環境教育の推進について

今年は、新型コロナウイルス感染防止の観点から体験的な教育活動は中止及び延期を余儀なくされている。そこで3密を防ぎながら新しい生活様式でも可能な体験活動を少しでも実施できるように教育課程を再編成し、以下の5点も踏まえながら研究を推進していきたいと考える。

#### ①資質・能力を学習指導要領とSDGsの視点で捉え直す

→単元、1時間の授業レベルで細分化、「子どもの姿」で検証

#### ②ソネットカリキュラムのブラッシュアップ→①内容的なつながり②学び方のつながり両面から整備

#### ③1時間のタイムマネジメントの再考→何を問い、何を学ばせるのか 不要な部分は省く

#### ④主体的な学びへ導入の工夫→何に出会わせ、どのような課題をつかみ、どんなゴールを目指すのか

#### ⑤課題を明確にする実践記録へ→研究の継続には課題が不可欠、学校カリキュラムの継続的修正

# 只見町小・中学校共通テーマ 故郷只見を愛し、誇りに思う心を育てるESD ～ 故郷のよさを学び、課題を見つめ、未来を切り拓く力へ ～

福島県南会津郡只見町立只見中学校  
校長 横山 泰久

## I はじめに

只見町は福島県の西南部に位置し、町の総面積747km<sup>2</sup>の約94%が山林で占められている中山間地域である。気候は日本海側気候で、季節ごとの大自然の風景が美しい。その中でも冬季は積雪が2～3mにもなる日本有数の豪雪地帯で厳しい自然環境でもある。また、この豪雪と地形が電力資源として注目され、只見川電源開発による水力ダムが建設されてきた自然保護と開発の歴史を持った町である。そして昭和30年代のダム建設時の人口12,000人をピークに、現在は4,000人台で高齢化率も46%に達するなど、持続可能な町の発展が大きな課題となっている。



そのような只見町は平成17年「世界ブナサミット」を開催し平成18年「ブナと生きる町、雪と暮らす町」を理念に振興計画を策定し、平成19年には「自然首都・只見」宣言を行った。厳しくも豊かな自然と、それに共生する文化により平成26年にはユネスコエコパークに認定され、町内の小中学校はユネスコスクールとしてESDを学校教育の柱にしている。只見町の課題と自然環境を踏まえるとESDへの取組は必然と捉えられる。

多くの学校でも地域学習には取り組んでいるだろうが、さらにグローバルな視点を持つ子どもたちを育てていくために、東京大学大学院教育学研究科附属海洋教育センターと提携し、海洋教育の視点を付加したESDへと発展させてきた。小学校では「只見学」として地域を学び、ESDの素地は十分にできている。そこで本校では大学や地域、小学校、教育委員会等との連携によるSDGsを意識した実践をおこなっており、そのいくつかの実践を紹介したい。

その際、本校の学校経営・運営のキーワードである【そろえること】【つなぐこと】【まわすこと】の視点で記載することで、少しでも整理できればと考える。

## II 実践内容

### 1 海洋教育・海洋ゴミ削減のための取組

#### 【そろえること】

#### (1) 海釣りとお釣りのゴミ拾いで経験をそろえる

海水浴や海釣りの経験がほとんどない生徒たちに海洋教育へ取り組ませるためのきっかけとして、海辺のゴミ拾い活動と、海での魚釣り体験を行った。会場は上越市海洋フィッシングセンター内の埠頭で、ここでは全員がフグなどを釣ることができ、海の生物について興味を持つことができた。海浜のゴミ拾いでを約一時間程度行った。生徒が予想していたようにペットボトルなどのプラスチックゴミが多く、ゴミ袋13個分のゴミを拾うことができた。その多くは日本のゴミだったが、中には中国語や韓国語が書かれているものがあり、遠くから



海外からと思われるペットボトル

流れ着いたことを知ることができた。また、海外に日本のゴミが流れ着いていることを心配する生徒もあらわれた。海辺の人たちが捨てたゴミだけでなく、上流の河川から運ばれるゴミについても多いのではと考える生徒もあらわれた。河川の上流に生活する我々が注意することで、海外の環境を良くすることにつながるということも考えられるようになった。この体験が地球環境を考えるきっかけになり、もっと学び、強く関わりたいという探究心に火がついた。

## (2) 地球温暖化学習講演会で課題意識をそろえる

キリバス代表理事ケンタロ・オノ氏にキリバスの現状と地球環境改善の必然性についてご講演頂いた。キリバスの場所も分からない生徒が大半だったが、海面上昇により今後難民になるかもしれないキリバスの画像を見せられ、子どもたちの中には「自分たちでできることは何だろう？」と考え行動できる生徒が増えてきた。



講演会で温暖化の現状を知る

## 【つなぐこと】

### (3) プラゴミ削減宣言により課題を自分事としてつなぐ

海洋プラゴミ、地球温暖化の問題を自分事として捉えるために自分なりにできることを学級に掲示した。また、何度か見直し・反省して次の行動に移せるようにした。

### (4) ウニの飼育により海への意識をつなぐ

(お茶の水女子大学プロジェクト…関係機関とのつなぎ)

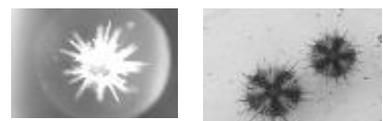
海洋から地理的に離れている只見町で、いつも海洋を意識して生活することは非常に困難である。インターネットで検索もできるが、やはり本物にはほど遠い。そこで、海洋生物を実際に飼育することで、その課題を解決しようと考えた。総合的な学習の時間だけでなく、理科での生物分野で取り上げてもらい、教科横断的に学習を進めることができた。お茶の水女子大学の協力の下、未受精卵と精子を提供して頂き、プレパラートの上で受精に成功した。

生徒だけでなく、保護者も一緒になって海を感じ続けることができた。ウニを飼育するための水は、学校の近くでわき出る清水に海塩を入れて作っている。飼育水から海までのつながりや命の尊さも学ぶことができ、非常に良い教材となった。現在はさらに下の学年があらためて飼育に取り組んでいる。

生徒の中には、只見町特産のトマトをエサとして育て「ただみウニ」を新たな特産にできるのではと、新しい産業を起こす夢も膨らんだ。

### (5) 思考ツールを使用して考えをつなぐ

課題解決の手立てを考える段階では、様々な意見が出されて、まとまらないことが多かった。教科指導や総合学習でイメージマップを使って情報の共有をすることを学んでから、自分たちで積極的に黒板を利用するようになった。少数意見を大切にしながら、よりよい方法を見つけられるようになった。プラゴミ削減のために『紙製レジ袋』を使うことや、袋の問題点について話し合いをするために有効なツールとなった。※黒板画像は保存し適時に考えを付け足して活用している。



アイデアをつなぐイメージマップ

## 【まわすこと】

### (6) 考えたことを行動に移しPDCAサイクルをまわす

行動に移したのが新聞紙を利用したレジ袋作りである。海洋プラスチックゴミと地球温暖化防止のことをもっと多くの人に知ってもらいたいと願う気持ちがその原動力になった。何度も熟議を重ねレジ袋を作り地元のコンビニで使ってもらうことになった。また店に自分たちの取組のポスターを掲示してもらっているため、生徒が地域の方から声をかけてもらえ励みにもなっている。地域の商店を利用した発信が、学校の枠を超えてのコンソーシアムの広がりにつながることを実感できた。



## 【つなぐこと・まわすこと】

### (7) 取組を発信し広げるためのマスコミとのつながり

新聞紙レジ袋が爆発的に広がったのは、昨年7月から始まったレジ袋有料化からである。県内の新聞2社、TV局5社、ラジオ局からも取材を受けた。これらを通じて本校の取組を知った方から直接手紙を頂いた。町内の商店などから新聞紙レジ袋を利用したいという申し出が増え、現在9店舗で扱ってもらっている。毎月の生産量も400枚ほどになり、休み時間やスクールバスを待つ時間を使っていたが、それでも足りない状態であった。



### (8) 行政、地域コミュニティとつながる

地域の方の作り方を知りたいという声と、学校での作成が間に合わないことから、町教育委員会に相談したところ、町教委主催の「新聞紙レジ袋作成教室」開催へとつながった。

町民に呼びかけ、講師を中学生として4会場で7回の開催が実現された。講習会の終わりに新聞紙レジ袋生産が間に合わないことを受講者に伝え、その後月に100枚程度の寄付が集まるようになった。

校内の取組から町としての取組へと広がってきていることを感じた。



作成教室の取組を見守る町教育長

## (9) 常に改善のサイクルをまわす

新聞紙レジ袋を納入していた業者から、もう少し丈夫な袋が欲しいという要望が出されるようになった。これをヒントに地元の小さな米焼酎蒸留所に贈答用の袋を提案した。作り方は家庭科教員の指導を受けたが、「ねっか」のロゴも丁寧に手書きし、納品している。レジ袋も「ねっか」の袋も子どもたちが週一回各店舗に在庫を確認し注文を受けている。この製品は納品係の生徒が

統括し、納入状況を記録している。

経済について学ぶ生きた教材ともなっている。



## 2 防災・減災教育（地域合同防災訓練）の取組

### 【そろえること】

#### (1) 外部講師招聘による演習・講義、講演等で課題意識をそろえる

只見町は平成23年の夏に新潟・福島豪雨災害を経験している。災害を風化させないため、外部講師招聘による学びの機会を設定している。ESDで地球温暖化についての学習を進めている生徒にとって、自然災害の講演・講義はつながりのある学びであり、自分たちは何ができるかを考える良い機会となった。



土砂災害のモデルに学ぶ生徒



法面強化による防災の仕組み



防災アドバイザーの講演

#### (2) 関係施設への訪問学習で知識と課題意識をそろえる

ESD・SDGs学習の一環として、町内の田子倉ダムや近隣町村の柳津地熱発電所、東北電力奥会津水力館を訪問し学習する機会を設定している。クリーンエネルギーと環境、防災について専門的な知識を学ぶ良い機会であり、自然環境や地理的要因と災害について学ぶことができる。



只見町 田子倉ダム



柳津町 地熱発電所



金山町 奥会津水力館

### 【つなぐこと】

#### (3) 外部関係機関・団体・地域住民とつながる

只見中学校を会場にして、隣の小学校と地区振興センターと連携、協働し地域合同防災訓練を行っている。この訓練は、地域コミュニティの強化に大きく寄与している。

訓練の実際は、小学生の登校時間に合わせて地域の防災放送で避難を呼びかける。中学生が避難経路に立ち、誘導を行い地域の方も多く参加



避難誘導する生徒

している。実際の避難所を想定して赤十字婦人会の指導の下、少量の水を使っておにぎりを作り避難してきた人たちに配っている。さらに、消防署員の協力によるAEDの講習会を始め、行政の防災担当者の指導のもと簡易テントの設営を行い有事に備えている。この取組により、「自助・共助・公助」の意識が生徒のみならず、地域全体の意識となり、中学生が地域コミュニティの一員として活躍できるという、生徒の自己有用感の育成にもつながっている。



婦人会と炊き出し



AED講習会



簡易テント設営



コミュニティの強化



【まわすこと】

(4) 風化とマンネリ防止のため先進校の取組から学びPDCAサイクルをまわす

平成23年夏の新潟・福島豪雨災害から10年になる。当時の経験を記憶している生徒もいなくなってくる。そこで、2年生は次年度の地域合同防災訓練の中で、災害当時の様子を地域の方から聞き取ったことを、自分たちが後輩たちや小学生へ語り部として伝えようと計画している。これはユネスコスクール北海道・東北ブロック大会に参加した際の宮城県気仙沼市の中学校の実践から学んだものである。

3 教科等横断的でSDG sを意識、関連させた取組

【そろえること】

(1) ESD・SDG sについての知識や意識を全学年、全教科でそろえる

年度初めの総合的な学習の時間全体オリエンテーションで、前年までの取組を各学年が発表し、継続した取組となるようにしている。また、各学年担当教員は、学年便りや掲示物などでESD・SDG sについて意図的・計画的に取り上げている。



2学年便り



教室前の掲示



SDG s宣言



(2) オリジナル木製SDG sカラーホイールの作成でコンソーシアムの基盤をそろえる

ESDに関する取組のシンボルとして、SDG sカラーホイールを只見町のブナの間伐材を用いて作成している。地域の林業関係の方から間伐材をいただき、のこぎり引きから色つけまで生徒たちが手作りし全校生、全職員が付けている。さらに本校の活動に賛同してくださる方などにも配付している。それは小学校や教育委員会、町役場の職員、町教委主催の「新聞紙レジ袋作成教室」参加



只見町のブナ間伐材



のこぎり引きでチップ作り

者などの町内の方々をはじめ、取材して下さったマスコミ関係者、ESD・ユネスコスクール関係機関などである。配付された方々がこのSDGsカラーホイールをもとに本校の実践を話題にして下さりコンソーシアムの広がりにもつながっている。

現在は大きめのチップにメッセージも書き込んだものを作成している。



手作りのプナチップ



17色を色鉛筆で



SDGsカラーホイール



SDGsメッセージ

## 【つなぐこと】

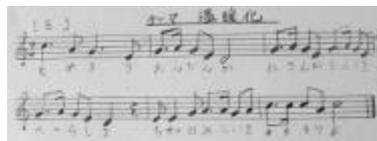
### (3) 各教科の学習内容・実践をESD・SDGsの視点でつなぐ

各教科でESD・SDGsに関わる活動を取り入れて授業を展開する試みがなされてきて教科横断的な学びとなってきている。以下に各教科の実践の一例を紹介したい。

- ・国語・・・町主催青少年健全育成主張発表会への参加  
(2年男子)「地球温暖化を考える」  
○国際理解協力作文応募 (3年女子)  
「誰も取り残さないために」  
県優秀賞、全国佳作  
○県主催「朝河貫一賞」論文出品 (3年女子)  
最優秀賞 (県ホームページ掲載)
- ・社会・・・持続可能な社会を目指すための意見交換  
○新聞社主催町づくりコンテスト応募  
(3年グループ) 最優秀賞 (グランプリ)
- ・理科・・・海洋生物 (ウニ) の飼育 (2, 3年生)
- ・英語・・・英語弁論大会「創作の部」参加 (1年女子)  
「私たちの海を守れ Seve Our Seas」  
支部大会最優秀賞、県大会出場

町青少年の主張「地球温暖化を考える」より

今からでも遅くはありません。・・・僕たちにもできることがあるはず。レジ袋をもらわなかったり、電気をこまめに消したり...考えればいろいろとできることはあるかと思えます。現状を知ること、そして何ができるか考えること、最後にそれを行動に移すこと。これらが一体となって、初めて地球温暖化は食い止められると思います。みなさんもぜひ行動してください。これからの地球とこれからの子供たちのために...



私たちの海を守れ！を題材に英語弁論

- ・音楽・・・SDGsソングの作詞作曲と発表会 (2年生)
  - ・美術・・・環境教育ポスター、絵はがき作品出品 (全校生)
  - ・技術・・・SDGsカラーホイール作成 (2年生)  
○コキアの栽培とほうきへの利活用 (別記載)
  - ・家庭・・・エコバック作り (2年生)
- ※生徒たちは日常的にSDGsを意識し、グローバルな視野で物事を捉える姿が多く見られるようになってきている。



#### (4) 各種教育活動(行事)の目的やねらいをESD・SDGsの視点とつなぎ・まわす

##### ① 海洋教育の視点と防災・減災教育を取り入れた修学旅行

例年、京都・大阪と関西方面の計画で実施していた修学旅行を、本州最南端の和歌山を目指すことにした。ねらいは海洋教育で学んだことを補充・深化・統合させるためである。計画の一部は以下の通りである。

- ・ユネスコスクール、海洋教育実践校等(串本古座高校、潮岬中学校)との交流、海浜清掃
- ・民泊先での只見町のPR活動、道の駅での只見町の物産販売
- ・近大マグロの養殖体験、トビウオ漁体験、シーカヤック&SUP体験 など

しかし、新型コロナウイルスの影響で、行き先を変更することとなり、近隣の宮城県松島方面での実施となった。再計画の内容は以下の通りである。

- ・震災学習(東日本大震災遺構見学、語り部による説明)
- ・只見町のPR活動、海岸の海ゴミ拾い活動、海ゴミ&地球温暖化問題ディスカッション
- ・漁業体験(釣り、刺し網漁、かご網漁)シーカヤック&SUP体験
- ・水族館の見学、飼育していたウニの放流 など

海洋ゴミ削減のスタートとなった海岸のゴミ拾い活動では東松山市商工観光課の6名の方と活動することができた。また、以前来校したキリバス代表理事のケンタロ・オノ氏も駆けつけてくれた。オノ氏によりマイクロプラスチックの説明を受けてから活動を開始した。また、この日の夜には海ゴミ&地球温暖化問題のディスカッションに参加いただいた。事前にオノ氏から子どもたちは宿題を頂いており、「私たちが望む未来」について一人一人が発表をした。



最終日には9ヶ月間育ててきたバフンウニを放流することができた。

放流に関しては生態系を壊さないためにも、環境水族館アクアマリンふくしまに相談し、福島県岩間海岸まで南下することになった。教師も含め海洋生物の放流という初めての経験をし、命の大切さや、自然環境への配慮、地球温暖化を遅らせるために何ができるかを改めて考える機会となった。

##### ② つなぎとまわすを意識し、発信力を育てる校内文化祭

例年は学年ごとに様々なテーマを設定して発表していたが、本年度は学年の取組を他学年へとつなげ、実践のサイクルをまわすため、テーマをESD・SDGsに統一しての発表とした。そしてこれからの時代に求められる発信力を意識させたことで、それぞれ工夫を凝らしての発表となった。

- ・1学年…自然体験学習から学んだこと
- ・2学年…SDGsについて
- ・3学年…新聞紙レジ袋の益金について

上記テーマについてスライド、クイズ、投票形式など様々な形態を取り入れ、報告にとどまらず、考えを発信する工夫が取り入れられていた。また、学年の取組の理解とその発展についても考える機会となった。

保護者からも高い評価を得ることができた。



1学年「自然体験学習」



2学年「SDGs」



3学年「益金の募金先は？」



新聞紙レジ袋のメッセージ

### ③ 花壇づくり、栽培、その後の利活用（コキアの栽培）

例年、校舎正面にはひまわりやコスモスを植えている。本年度は、1学年が長期的視野に立ちコキアを植えた。それは、緑から紫への紅葉が綺麗で観賞用として癒やしの効果があり、ほうきへの再利用でE S D・SDG sの学びができ、さらに奉仕活動への意欲の向上が図れると考えたからである。教育活動をE S D・SDG sの視点でつなぎ、サイクルをまわす有効な実践である。



丸いコキアによる癒やし



刈り取って乾燥させる



ほうきへの加工と活用



## 4 小・中学校の連携による取組

### 【そろえること】【つなぐこと】【まわすこと】

本校のE S Dの充実には町内の3つの小学校での実践が素地となっており、互いに連携・協働することが大変重要である。そのための組織が只見町小中学校E S D海洋教育推進協議会である。町教委、東京大学の指導を受けながら、代表者（校長）部会と実務担当者部会を組織し、定期的に研修や協議、情報交換の機会を設定している。この組織はE S D先進地区である福岡県大牟田市を参考にしている。

研究公開も毎年10月頃に町内の代表校が開催しており、県内の学校や全国のE S D推進校、ユネスコ・E S D関係機関の方々が多く参加してくださっている。

さらに教員の研修だけでなく、毎年2月頃にはE S D・海洋教育活動報告会を開催し、各小中学校の児童生徒が実践を発表し意見交換する場も設定している。これらの取組により、教員はもちろん児童生徒が学びをつなぎ発展させてきている。

町内にある県立高校も本年度より地域連携推進校に指定され、来年度からはコミュニティスクールとして地域と連携しグローバルリーダーの育成に取り組んでいくこととしている。本校生徒の多くが進学するため、生徒たちは小中学校での学びを高校で発展させたいと喜んでいる。今後は小中高の連携のための組織を整えていきたいと考えている。



研究公開



E S D成果報告会

## 5 持続可能な取組となるための教員研修への取組

### 【そろえること】【つなぐこと】【まわすこと】

只見地区は地元出身の教員が少なく人事異動のサイクルが短い。本校の実践が持続可能なものとなるためには、教員研修が重要である。E S D・海洋教育の意義や効果、先進地区の実践など教員が研修することで自校の取組のヒントを得ることができると考え、校長として積極的に研修へ参加させている。その際、県の経費では参加できない遠方の先進地区の研修へ町予算が確保されているのは大変ありがたい。また、新型コロナウイルス感染拡大防止により各種研修会がオンラインでの開催になったことも経費、移動時間の負担なく参加できたのも良い機会となった。

以下に本校のE S D推進のために参考になった遠方での研修についていくつか記載する。

○気仙沼E S D/ユネスコスクール研修会：気仙沼市（H30. 6. 8）校長参加

○第7回ユネスコスクール東北大会：宮城教育大学（H30. 11. 16）校長参加

- ESD/ユネスコスクール・東北コンソーシアム運営委員会（R元. 6. 22）校長参加
- 全国海洋教育研究会：東京（R元. 7. 31）教頭、教員1名参加
- 日本ESD学会：宮城教育大学（R元. 8. 19,20）教員1名参加
- 第11回ユネスコスクール全国大会：広島県福山市（R元. 11. 30）教員1名参加
- ユネスコスクール・SDGs/ESD教育委員会サミット：大牟田市（R2. 1. 11）校長参加
- ESD/ユネスコスクール・東北コンソーシアム学びあいセミナー：宮城教育大学（R2. 2. 8）校長、教員2名参加
- 環境水族館アクアマリンふくしま教育セミナー（R2. 8. 5）教員1名参加
- アクサユネスコ協会防災減災プログラム：オンライン（R2. 9. 24,25）教頭参加
- 教職員等環境教育・学習推進リーダー養成研修：オンライン（R2. 11）教員2名参加

### III おわりに

本校実践の大きな成果である海洋ゴミ削減の取組は、生徒たちの小さな気づきだった海洋ゴミについての課題意識が、地域を巻き込み、全国的な広がりにつながってきた。体験を通して知ること、考えること、動くこと、発信すること、協力することが大切であることを学ぶことができた。海洋ゴミと豪雨による水害といった一見関係なさそうな事柄のつながりも理解でき、持続可能な社会の一員として、中学生の実践が大きな力になることを実感することができた。

「Think Globally Act Locally」を具現化する生徒に頼もしさを感じ誇りに思う。今後も、さらなる発展に努めていくこと、そして持続可能な取組となるように、只見中コンソーシアムを基盤として実践を積み重ねていきたい。

最後に、今回の全国小中学校環境教育大会の紙上発表へ声をかけてくださった藤森会長のおかげで、本校の実践を整理するきっかけとなり、取組を広く発信する良い機会となったことに感謝申し上げます。ありがとうございました。

#### <受賞の記録>

令和元年度 第7回全国海洋教育サミット ポスター発表の部 優秀賞

東京大学大学院教育学研究科附属海洋教育センター主催（R2. 2. 15）

令和2年度 第2回ユネスコスクール北海道・東北ブロック大会 ポスター発表の部 最優秀賞

国立大学法人宮城教育大学主催（R2. 11. 2）

令和2年度 第11回ユネスコスクール全国大会 ESD大賞 文部科学大臣賞

特定非営利活動法人日本持続発展教育推進フォーラム主催（R2. 12. 6）

令和2年度 福島県教育・文化関係表彰特別功績者

○優秀教職員（個人）の部 特別功績者「教諭 目黒英樹（ESD担当教員）」

○優秀教職員（団体）の部 特別功績者「只見中学校」

○児童生徒（団体）の部 特別功績者「只見中学校」

福島県教育委員会（R3. 2. 3）



# 研究会沿革史

全国小中学校環境教育研究会  
東京都小中学校環境教育研究会

- 昭和39. 9. 10 東京都小中学校公害対策研究会が錦華小学校にて発足  
初代会長に 小野 孝雄 就任  
11. 13 会報「碧い空」創刊号を発行  
12. 11 講演会「公害と児童生徒の健康について」を開催（都PTAと共催）
- 昭和40. 1. 20 会長・副会長で四日市・尼崎方面の公害状況を観察
- 昭和40. 10. 5 公害講演会を開催（都PTAと共催）、空気清浄器を都内50校へ配布  
12. 1 都内児童生徒の公害に関する作文・詩募集
- 昭和41. 10. 1 全国主要都市の中学1年生を対象に公害意識調査実施
- 昭和42. 1. 20 都内小学校・中学校を対象に教育環境調査を実施、2月に結果を発表  
2. 13 全国小中学校公害対策研究会を発足（東京都港区立桜田小学校）  
東京・大阪・四日市・北九州・神奈川・千葉・釜石

- 
- 昭和42. 6. 1 第二代会長 伊藤 和 就任  
11. 1 東京都学校公害対策連絡協議会に協力
- 昭和43. 11. 7 第1回 学校公害研究大会を開催（代々木ゼミナール）
- 昭和44. 4. 10 都の学校に及ぼす公害対策研究会へ協力  
10. 10 第2回 学校公害研究大会を開催（東京都港区立桜田小学校）
- 昭和45. 2. 6 第3回 学校公害研究大会を開催（勤労福祉会館）  
2. 10 単行本「碧い空を子どもらに」を発行

- 
- 昭和45. 4. 1 第三代会長 中島 定吉 就任  
4. 15 東京都公害副読本・スライド製作委員会を出し、その製作に協力
- 昭和46. 1. 10 第2回 全国調査実施「東京都及び七大都市の教育環境意識調査」  
中学1年・小学校5年生、都内4万名、七大都市8万名  
全国小中学校養護教諭対象「公害に関する意識と実態調査」35,000校  
1. 28 第4回「親と教師の公害研究大会」開催（勤労福祉会館）
- 昭和46. 10. 14 第5回 学校公害教育研究大会開催（東京都江戸川区立平井南小学校）  
11. 10 公害講座開講（朝日新聞社講堂）
- 昭和47. 6. 1 都内の児童生徒対象「公害意識と実態調査」実施
- 昭和48. 2. 20 第6回公害研究大会（東京都品川区立鈴ヶ森中学校）

- 
- 昭和48. 4. 1 第四代会長 立石 書信 就任（中央公害審議会委員兼務）  
6. 5 都内の児童生徒の公害意識実態調査「教育環境調査」実施
- 昭和49. 5. 15 環境週間記念、都内の児童生徒の公害に関するポスター、作品募集  
7. 20 都内の児童生徒の夏季20日間健康調査実施
- 昭和50. 2. 10 第7回環境教育研究全国大会開催（日本青年館）
- 昭和50. 5. 10 東京都環境週間行事に協力、都内児童生徒の図画・作文募集  
12. 5 第8回環境教育研究会全国大会開催（東京都台東区立下谷小学校）
- 昭和51. 1. 10 東京都環境週間実行委員派遣
- 昭和51. 4. 20 東京都教育委員会副読本及びスライド編集に協力  
5. 10 東京都環境週間行事に協力、都内児童生徒の図画・作文募集  
9. 7 東京湾人工渚見学会を実施
- 昭和52. 1. 10 東京都環境週間実行委員派遣  
2. 21 第9回環境教育研究会全国大会開催（東京文化会館）
- 昭和52. 5. 10 東京都環境週間行事に協九一都内児童生徒の図画・作文募集  
6. 10 東京都内児童・生徒20,000人に環境意識調査実施  
9. 19 「これからの環境教育はどうあるべきか」研究会開催  
（日本環境協会と共催）  
12. 6 江東清掃工場・東京湾埋立地見学会
- 昭和53. 1. 12 東京都環境週間実行委員派遣
- 昭和53. 5. 10 東京都環境週間行事に協力  
10. 31 人工渚・廃棄物埋立地等の東京湾及び宇宙博見学
- 昭和54. 1月～7月 環境週間東京都実行委員会に参加協力  
4月～6月 同上の行事の図画・作文募集に協力  
6. 5 環境教育講演会（東商ホール）  
7. 17 公害副読本代表者会議  
9. 3 日本環境協会の映画企画の協力  
11. 30 都水道施設見学（利根川水口）
- 昭和55. 2. 13 常任理事会（朝霞浄水）  
2. 19 環境教育の講演と映画会（労音会館）  
2. 21 第11回 全国環境教育研究大会（東京文化会館）
- 昭和55. 8. 21 第12回 全国環境教育研究大会（滋賀県大津市）  
11. 20 人工渚・廃棄物埋立地等東京湾見学会

- 
- 昭和56. 4. 1 第五代会長 谷本 寛 就任 (中央公害審議会委員兼務)  
4月～6月 東京都環境週間行事に協力  
6. 29 環境庁長官室にて本研究会役員と鯨岡長官、環境教育について懇談  
11. 20 隅田川・東京湾見学会 (隅田川クラブ後援)
- 昭和57. 1月～6月 環境週間東京都実行委員会に参加協力  
2. 5 第13回 全国環境教育研究大会 (東京文化会館)
- 昭和57. 4月～6月 同上行事の図画作文募集・審査協力  
10. 29 全体研究会 (於東京都教育会館 講師 愛知教育大学教授 榊原康男先生)  
11. 18 環境教育授業協議会 (東京都杉並区立方南小学校)
- 昭和58. 1. 25 同 上 (東京都江戸川区立上小岩小学校)  
2. 18 第14回 全国環境教育研究大会 (東京・関東百貨店健保会館)  
会報「碧い空」20号発刊  
1月～6月 環境週間東京都実行委員会に参加協力
- 

- 昭和58. 4. 1 第六代会長 藤田 繁雄 就任 (中央公害審議会委員兼務)  
4月～6月 同上行事の図画作文募集・審査協力  
11. 4 全体研究会 (東京都台東区立下谷小学校)  
講師 文部省初等中教育局 教科調査官 奥井智久先生  
11. 10 自本科学協会等主催、リモートセンシング研修会に協力
- 昭和59. 1. 20 第15回 全国環境教育研究大会 (東京文化会館)  
1月～6月 環境週間東京都実行委員会に参加協力
- 

- 昭和59. 4. 1 第七代会長 平野 輝和 就任 (中央公害審議会委員兼務)  
6. 9 第五代会長 谷本 寛 第2回朝日森林文化賞を受賞  
11. 29 環境教育研究授業及び協議会 (東京都渋谷区神宮前小学校)
- 昭和60. 1. 24 第16回 全国・東京都環境教育研究大会 (東京都江戸川区総合文化センター)  
1月～6月 環境週間都行事に参加協力
- 

- 昭和60. 4. 1 第八代会長 遠藤 尚 就任 (中央公害審議会委員兼務)  
6. 5 東京都台東区立下谷小学校にて総会
11. 18 千葉県船橋市立船橋小学校環境教育研究大会見学  
12. 5 東京都公害監視委員会と意見交換
- 昭和61. 1. 31 第17回 全国・東京都環境教育研究大会 (東京文化会館)

昭和61. 6. 6 昭和61年度 定期総会（東京都練馬区立光和小学校）  
10. 31 現地研修会（東京都八王子市立由木西小学校）  
昭和62. 1. 23 第18回 全国・東京都環境教育研究大会（東京文化会館）

---

昭和62. 4. 1 第九代会長 塩沢 勇 就任（中央公害審議会委員兼務）  
6. 4 東京都台東区立大正小学校にて総会  
11. 9 現地研修会（東京都文京区立昭和小学校）  
昭和63. 1. 29 第19回 全国・東京都環境教育研究大会（東京文化会館）

---

昭和63. 4. 1 第十代会長 小尾 辰昌 就任（中央公害審議会委員兼務）  
1月～6月 環境週間都行事に参加協力  
6. 6 昭和63年度 定期総会（東京都台東区立富士小学校）  
9. 17 都内児童の環境意識調査を実施  
11. 6 環境教育研究大会第11回大会参加（大阪・時乗 晃 副会長）  
11. 22 環境教育研究会 見学会（厚木市・七沢自然教室）  
平成元. 1. 27 第20回 全国・東京都環境教育研究大会（東京文化会館）  
1. 27 会報「碧い空」26号発刊

---

平成元. 4. 1 第十一代会長 松澤 秀俊 就任（中央公害審議会委員兼務）  
6. 6 平成元年度 定期総会（東京都台東区立富士小学校）  
9. 5 環境教育研究会 見学会（つくば市公害研究所）  
環境教育研究会第12回大会参加（大阪・時乗 晃 副会長）  
平成2. 1. 26 第21回 全国・東京都環境教育研究大会（東京文化会館）  
1月～6月 環境週間都行事に参加協力  
1. 27 会報「碧い空」27号発刊

平成2. 6. 6 平成2年度 定期総会（東京都台東区立富士小学校）  
9. 10 松澤秀俊会長 環境教育推進指導資料作成委員  
9. 20 環境教育研究会 見学会（台風のため中止）  
11. 30 第15回 全国教育研究大会に参加（国立教育会館 江頭 基子会計）  
12. 6 東京都小中学校環境教育研究発表会（東京都中央区立銀座中学校）  
平成3. 1. 25 第22回 全国・東京都環境教育研究大会（東京文化会館）  
1. 25 会報「碧い空」28号発刊  
環境週間都行事の図画・作文募集審査への参加協力

---

平成3. 4. 1 第十二代会長 高木 恒治 就任（中央公害審議会委員兼務）  
5. 31 平成3年度 定期総会（江東区立東陽小学校）  
9. 19 環境教育研究会 見学会（神奈川環境センター）

11. 22 都小中学校環境教育研究発表会（江戸川区立松江小学校）  
平成4. 1. 31 第23回 全国・東京都環境教育研究大会（東京文化会館）  
会報「碧い空」29号発刊  
東京都環境実行委員会への参加  
環境教育シンポジウムへの参加  
全国ネットワークの強化活動  
東京都環境週間行事の図画・作文募集、審査協力

- 
- 平成4. 5. 29 平成4年度 東京都小中学校環境教育研究会定期総会（東京都渋谷区立本町東小学校）  
第十三代会長 岩本 光雄 就任（中央公害審議会委員兼務）  
7. 29 平成4年度 全国小中学校環境教育研究会定期総会（ホテルマリナーズコート東京）  
7. 29～31 教育総合展参加協力（研究発表・展示・実演）  
12. 8 東京都小中学校環境教育研究発表会（北区立豊島中学校）  
平成5. 1. 11 事務局 江頭基子 文部省環境教育指導資料作成協力（平成6. 3. 31迄）  
1. 29 全国小中学校環境教育研究大会（中央区立教育センター）  
会報「碧い空」30号、研究紀要24号発刊  
3. 31 環境教育研究集録 第3集発刊  
東京都環境週間行事実行委員会への参加協力  
文部省環境教育シンポジウムへの参加  
都教委グループ研究助成費受給  
全国ネットワークの強化活動  
東京都環境週間行事の図画・作文募集、審査協力  
東京都環境週間行事運営委員会への協力（委員長：会長、副委員長：副会長）
- 平成5. 5. 23 平成5年度 東京都小中学校環境教育研究会 定期総会  
（東京都渋谷区立神宮前小学校）
- 平成6. 1. 18 第25回 全国小中学校環境教育研究大会（東京都庁 第二庁舎・ホール）  
会報「碧い空」31号、研究紀要25号発刊  
全国小中学校環境教育研究会支部長会・総会（東京都庁 第二庁舎・ホール）  
2. 24 東京都小中学校環境教育研究発表会（東京都大田区立西六郷小学校）  
3. 31 環境教育研究集録 第4集発刊  
文部省環境教育シンポジウムへの参加、協力  
全国ネットワークづくりの活動強化（支部結成）  
東京都環境週間行事の図画・作文募集、審査協力  
東京都環境週間運営委員会への協力（委員長：会長、副委員長：副会長）
- 平成6. 6. 21 平成6年度 東京都小中学校環境教育研究会 定期総会  
（東京都渋谷区立神宮前小学校）
- 平成6. 11. 25 第30回 東京都小中学校環境教育研究発表会（東京都江戸川区立南葛西第三小学校）  
平成7. 1. 20 第26回 全国小中学校環境教育研究大会  
全国支部長会（東京都江戸東京博物館ホール）

会報「碧い空」32号、研究紀要26号発刊  
文部省、第1回全国環境フェアへの参加協力（埼玉県）  
東京都環境週間行事の図画・作文募集、審査協力  
東京都環境週間運営委員会への協力（委員長：会長、副委員長：副会長）

3. 31 環境教育研究集録 第5集発刊

---

平成7. 6. 9 平成7年度 東京都小中学校環境教育研究会 定期総会  
全国小中学校環境教育研究会 定期総会  
全国支部長会（東京都渋谷区立神宮前小学校）  
第十四代会長 江頭 基子 就任（中央公害審議会委員兼務）  
8. 7 環境教育研究会 一日研修（港区立芝小学校）  
12. 4 第31回 東京都小中学校環境教育研究発表会（東京都北区立西浮間小学校）  
平成8. 1. 26 第27回 全国小中学校環境教育研究大会（福岡県福岡市、福岡市博物館）  
会報「碧い空」33号、研究紀要27号発刊  
文部省、第2回全国環境フェアへの参加協力（10. 30～11. 1福岡県）  
東京都環境週間行事の図画・作文募集、審査協力  
東京都環境週間運営委員会への協力（委員長：会長、副委員長：副会長）  
3. 31 環境教育研究集録 第8集発刊

平成8. 5. 30 平成8年度 東京都小中学校環境教育研究会定期総会  
全国支部長会（東京都渋谷区立神宮前小学校）  
4. 5 東京都小中学校環境教育研究会夏季宿泊研修（東京都杉並区立教職員研修所）  
12. 6 第32回 東京都小中学校環境教育研究発表会  
第28回 全国小中学校環境教育研究大会（東京都渋谷区立神宮前小学校）  
会報「碧い空」34号、研究紀要28号発刊  
文部省 第3回全国環境フェアへの参加協力（11. 14仙台市）  
東京都環境週間行事の図画・作文募集、審査協力  
東京都環境週間運営委員会への協力（委員長・会長、副委員長：副会長）

平成9. 3. 31 環境教育研究集録 第7集発刊

平成9. 5. 23 平成9年度 東京都小中学校環境教育研究会定期総会  
全国理事会（東京都杉並区立杉並第三小学校）  
第29回 全国小中学校環境教育研究大会（高知県民文化ホール）

平成9. 8. 28～29 東京都小中学校環境教育研究会研究部夏季宿泊研修  
(東京都杉並区立教職員研修所)

11. 18 第33回 東京都小中学校環境教育研究発表会（東京都江戸川区小松川第二小学校）  
会報「碧い空」35号、研究紀要29号発刊  
全国小中学校児童・生徒環境絵画コンクール実施  
文部省 第4回全国環境フェア参加（松江市）  
東京都環境週間行事の図画・作文募集、審査協力  
東京都環境週間運営委員会への協力（委員長：会長、副委員長：副会長）

平成10. 3. 31 環境教育研究集録 第8集発刊

---

平成10. 5. 22 平成10年度 東京都小中学校環境教育研究会定期総会

全国理事会（東京都杉並区立杉並第三小学校）

第十五代会長 中庭 武雄 就任

8. 2～3 東京都小中学校環境教育研究会夏季宿泊研修（東京都杉並区立教職員研修所）

平成11. 1. 22 第30回 全国小中学校環境教育研究大会

第34回 東京都小中学校環境教育研究発表会

（東京都杉並区立杉並第十小学校、セッション杉並）

会報「碧い空」36号、研究紀要30号発刊

第2回 全国小中学校児童・生徒環境絵画コンクール実施

東京都環境週間行事の図画・作文募集、審査協力

東京都環境週間運営委員会への協力（委員長：一代会長、副委員長：副会長）

3. 31 環境教育研究集録 第9集発刊

平成11. 5. 21 平成11年度 東京都小中学校環境教育研究会定期総会

全国理事会（東京都渋谷区立笹塚小学校）

8. 22～23 東京都小中学校環境教育研究会夏季宿泊研修（東京都杉並区立教職員研修所）

9. 25～26 自然観察会実施（新潟県・当間観光リゾート）

12. 7 第35回 東京都小中学校環境教育研究発表会（東京都渋谷区立笹塚小学校）

平成12. 1. 21 第31回 全国小中学校環境教育研究大会（岐阜大学教育学部附属心・中学校）

会報「碧い空」37号、研究紀要31号発刊

第3回 全国小中学校児童・生徒環境絵画コンクール実施

文部省全国環境フェア参加（広島市）

環境パートナーシップ東京会議への参加

中央環境審議会企画政策部会と各種団体との意見交換会出席（経済社会のグリーン化）

3. 31 環境教育研究集録 第10集発刊

---

平成12. 6. 9 平成12年度 東京都小中学校環境教育研究会定期総会

全国理事会（東京都杉並区立杉並第十小学校）

平成12. 6. 9 第十六代会長 平部 武彦 就任

平成12. 8. 17～18 東京都小中学校環境教育研究会夏季宿泊研修（東京都杉並区富士学園）

平成13. 1. 26 第32回 全国小中学校環境教育研究大会

第36回 東京都小中学校環境教育研究発表会

（東京都渋谷区立猿楽小学校・渋谷区立鉢山中学校）

会報「碧い空」38号、研究紀要32号発刊

第4回 全国小中学校児童・生徒環境絵画コンクール実施

第2回 自然観察会（新潟県・十日町市）実施

東京都環境週間行事運営委員会に参加

第3回 文部省全国環境学習フェア（三重）参加

- 平成13. 3. 31 環境教育研究集録 第11集発刊
- 平成13. 6. 8 平成13年度 東京都小中学校環境教育研究会定期総会  
全国理事会（東京都杉並区立杉並第十小学校）
8. 16～17 東京都小中学校環境教育研究会夏季宿泊研修（東京都杉並区立教職員研修所）
9. 8～9 第3回 自然観察会実施（新潟県刈羽村、当間リゾート）
- 平成14. 1. 25 第33回 全国小中学校環境教育研究大会  
第37回 東京都小中学校環境教育研究発表会（東京都江戸川区立大杉小学校）  
会報「碧い空」39号、研究紀要33号発刊  
第5回 全国小中学校児童・生徒環境絵画コンクール実施  
第4回 文部科学省全国環境学習フェア（滋賀）参加  
環境パートナーシップ東京会議への出席  
環境教育、環境学習連絡会に出席
- 平成14. 3. 31 環境教育研究集録 第12集発刊
- 
- 平成14. 6. 7 平成14年度 東京都小中学校環境教育研究会定期総会  
全国理事会（東京都新宿区立大久保小学校）  
第十七代会長 佐々木 定治 就任
8. 15～16 東京都小中学校環境教育研究会夏季宿泊研修（東京都杉並区立教職員研修所）
9. 8～9 第4回 自然観察会実施（新潟県十日町市、当間リゾート）
11. 15 第38回 東京都小中学校環境教育研究発表会（東京都江戸川区立二之江中学校）
- 平成15. 1. 24 第34回 全国小中学校環境教育研究大会（千葉県成田市立吾妻小学校・吾妻中学校）  
会報「碧い空」40号、研究紀要34号発刊  
第6回 全国小中学校児童・生徒環境絵画コンクール実施  
第5回 文部科学省全国環境学習フェア（金沢市）参加  
環境教育、環境学習連絡会に出席
- 平成15. 3. 31 環境教育研究集録 第13集発刊
- 平成15. 6. 16 平成15年度 東京都小中学校環境教育研究会定期総会  
全国理事会（東京都新宿区立大久保小学校）
8. 14～15 東京都小中学校環境教育研究会夏季宿泊研修（東京都杉並区立教職員研修所）
9. 6～7 第5回 自然観察会実施（新潟県十日町市、当間リゾート）
- 平成16. 1. 23 第35回 全国小中学校環境教育研究大会  
第39回 東京都小中学校環境教育研究発表会（東京都新宿区立大久保小学校）  
会報「碧い空」41号、研究紀要35号発刊  
第7回 全国小中学校児童・生徒環境絵画コンクール実施  
第6回 文部科学省 全国環境学習フェア参加（群馬県片品村）  
環境教育、環境学習連絡会に出席
- 平成16. 3. 31 環境教育研究集録 第14集発刊
- 平成16. 6. 14 平成16年度 東京都小中学校環境教育研究会定期総会

- 全国理事会（東京都杉並区立泉南中学校）
8. 9～10 東京都小中学校環境教育研究会夏季宿泊研修（東京都杉並区立教職員研修所）
8. 28～29 環境教育研修会（福島県Jビレッジ）
9. 4～5 環境教育研修会（新潟県当開高原）
- 平成17. 1. 20 全国理事会
1. 21 第36回 全国小中学校環境教育研究大会  
第40回 東京都小中学校環境教育研究発表会（東京都江戸川区立東葛西小学校）  
会報「碧い空」42号、研究紀要36号発刊  
第8回 全国小中学校児童・生徒環境絵画コンクール実施  
第7回 文部科学省 全国環境学習フェア参加（愛媛県松山市）  
環境教育、環境学習連絡会に出席
- 平成17. 3. 31 環境教育研究集録 第15集発刊

- 
- 平成17. 6. 14 平成17年度 全国理事会  
平成17年度 東京都小中学校環境教育研究会総会（東京都杉並区立泉南中学校）  
第十八代会長 高橋 康夫 就任
8. 9～10 東京都小中学校環境教育研究会夏季宿泊研修（東京都杉並区立教職員研修所）
9. 3～4 環境教育研究会 自然観察会 新潟県 当開高原
12. 1 全国理事会
12. 2 第37回 全国小中学校環境教育研究大会（愛知県小坂井町立小坂井西小学校）
- 平成18. 2. 10 第41回 東京都小中学校環境教育研究発表会（東京都調布市立布田小学校）  
会報「碧い空」43号、研究紀要37号発刊  
第9回 全国小中学校児童・生徒環境絵画コンクール  
第8回 文部科学省 全国環境学習フェア参加（鳥取県）
- 平成18. 6. 6 平成18年度 東京都小中学校環境教育研究会定期総会  
全国理事会（東京都杉並区立泉南中学校）
8. 11～12 東京都小中学校環境教育研究会夏季宿泊研修（杉並区立教職員研修所）
8. 25 第10回 全国小中学校児童・生徒環境絵画コンクール表彰式
9. 2～3 自然観察会（新潟県塗当開高原）
11. 9 全国理事会（東京都杉並区立泉南中学校）
11. 10 第38回 全国小中学校環境教育研究大会（東京都杉並区立泉南中学校）  
第42回 東京都小中学校環境教育研究発表会  
会報「碧い空」第44号 研究紀要第38号発行  
第9回 文部科学省 全国環境学習フェア参加（つくば市）

- 
- 平成19. 6. 12 平成19年度 東京都小中学校環境教育研究会定期総会  
全国理事会（東京都杉並区立泉南中学校）  
第十九代会長 岸 栄子 就任
8. 9～10 東京都小中学校環境教育研究会夏季宿泊研修会（東京都杉並区立教職員研修所）

- 、
- 8. 24 第11回 全国小中学校児童・生徒環境絵画コンクール表彰式
  - 9. 1～2 自然観察会（新潟県当開高原）
  - 10. 11 全国理事会（埼玉県越谷市立大袋東小学校）
  - 10. 12 第39回 全国小中学校環境教育研究大会（埼玉県越谷市立大袋東小学校）
  - 平成20. 2. 15 第43回 東京都小中学校環境教育研究発表会（東京都多摩市立南鶴牧小学校）  
会報「碧い空」第45号 研究紀要第39号  
第10回文部科学省 全国環境学習フェア参加（岡山市）

- 
- 平成20. 6. 17 平成20年度 東京都小中学校環境教育研究会定期総会  
全国理事会（杉並区立泉南中学校）  
第二十代会長 綿貫 沢 就任
- 8. 4～5 東京都小中学校環境教育研究会夏季宿泊研修会（東京都杉並区立教職員研修所）
  - 8. 8. 22 第12回 全国小中学校児童・生徒環境絵画コンクール表彰式
  - 9. 6～7 自然観察会（新潟県当開高原）
  - 12. 4 全国理事会（板橋区立金沢小学校）
  - 12. 5 第40回 全国小中学校環境教育研究大会（東京都板橋区立金沢小学校）  
第44回 東京都小中学校環境教育研究発表会  
会報「碧い空」第46号 研究紀要第40号  
第11回文部科学省 全国環境学習フェア（福島市）

- 
- 平成21. 6. 15 平成21年度 東京都小中学校環境教育研究会定期総会  
全国理事会（杉並区立和泉小学校）  
第二十一代会長 末吉 潤一 就任
- 6. 27～28 自然観察研修会（尾瀬ヶ原）
  - 8. 21 第13回 全国小中学校児童・生徒環境絵画コンクール表彰式
  - 9. 5～6 自然観察会（新潟県当開高原）
  - 11. 26 全国理事会（広島県海田町立海田東小学校）
  - 11. 27 第41回 全国小中学校環境教育研究大会（広島県海田町立海田東小学校）  
会報「碧い空」第47号 研究紀要第41号

- 平成22. 6. 28 平成22年度 東京都小中学校環境教育研究会定期総会  
全国理事会（東京都杉並区立杉並第四小学校）
- 6. 26～27 自然観察研修会（尾瀬ヶ原）
  - 8. 20 第14回 全国小中学校児童・生徒環境絵画コンクール表彰式
  - 9. 4～5 自然観察会（新潟県当間高原）
  - 12. 2 全国理事会（多摩市立南鶴牧小学校）
  - 12. 3 第42回 全国小中学校環境教育研究大会（東京都多摩市立南鶴牧小学校）  
会報「碧い空」第48号 研究紀要第42号

- 平成23. 6. 16 平成23年度 東京都小中学校環境教育研究会定期総会  
全国理事会（東京都新宿区立東戸山小学校）  
8. 19 第15回 全国小中学校児童・生徒環境絵画コンクール表彰式  
11. 24 全国理事会（宮城県気仙沼市立大谷小学校）  
11. 25 第43回 全国小中学校環境教育研究大会  
（宮城県気仙沼市立大谷小学校・大谷中学校）  
会報「碧い空」第49号 研究紀要第43号
- 

- 平成24. 6. 26 平成24年度 東京都小中学校環境教育研究会定期総会  
全国理事会（東京都新宿区立東戸山小学校）  
第二十二代会長 棚橋 乾 就任  
8・20 第16回 全国小中学校児童・生徒環境絵画コンクール表彰式  
平成25. 1・2月 文部科学省・環境省  
平成24年度 環境教育に関する教職員、環境保全を担う者に向けた研修（協力）  
2月 文部科学省 全国環境学習フェア（協力）  
2. 14 全国理事会（東京都新宿区立東戸山小学校）  
2・15 第44回 全国小中学校環境教育研究大会（東京都新宿区立東戸山小学校）  
第48回 東京大会（東京都新宿区立東戸山小学校）  
会報「碧い空」第50号 研究紀要第44号

- 平成25. 6. 18 平成25年度 東京都小中学校環境教育研究会定期総会  
全国理事会（東京都新宿区立鶴巻小学校）  
6. 27 東京都小中学校環境教育研究会 研究員発足  
8. 22 第17回 全国小中学校児童・生徒環境絵画コンクール表彰式  
11. 28 全国理事会（秋田県大仙市大曲市民会館）  
11. 29 第45回 全国小中学校環境教育研究大会（秋田大会 秋田県大仏市）  
会報「碧い空」第51号 研究紀要第45号  
平成26. 1. 24 第49回 東京都小中学校環境教育研究発表会（東京都多摩市立連光寺小学校）  
1・2月 文部科学省・環境省  
平成25年度 環境教育に関する教職員、環境保全を担う者にむけた研修（協力）

- 平成26. 6. 17 平成26年度 東京都小中学校環境教育研究会定期総会  
全国理事会（東京都新宿区立鶴巻小学校）  
7. 24 エネルギー研修会（東京ガス扇島工場、がすてな～あに見学）  
11. 20 全国理事会（神奈川県横浜市立永田台小学校）  
11. 21 第46回 全国小中学校環境教育研究大会（神奈川大会 横浜市立永田台小学校）  
会報「碧い空」第52号 研究紀要第46号  
12. 13 第18回 全国小中学校児童・生徒環境絵画コンクール表彰式  
平成27. 1. 30 第50回 東京都小中学校環境教育研究発表会（東京都板橋区立板橋第二小学校）  
1・2月 文部科学省・環境省

平成26年度 環境教育に関する教職員、環境保全を担う者にむけた研修（協力）

---

- 平成27. 6. 16 平成27年度 東京都小中学校環境教育研究会定期総会  
全国理事会（東京都新宿区立鶴巻小学校）  
第二十三代会長 国分 重隆 就任
7. 24 エネルギー研修会（東京ガス扇島工場、がすてな〜に見学）
11. 19 全国理事会（東京都多摩市立多摩第一小学校）
11. 20 第47回 全国小中学校環境教育研究大会  
（東京大会 多摩市立多摩第一小学校）  
第51回 東京都小中学校環境教育研究発表会  
会報「碧い空」第53号 研究紀要第47号
12. 12 第19回 全国小中学校児童・生徒環境絵画コンクール表彰式
12. 23 文部科学省・環境省  
平成27年度 環境教育・ESDカリキュラムデザイン フォローアップ研修（協力）
- 平成28. 1・2月 文部科学省・環境省  
平成27年度 環境教育・ESDカリキュラムデザイン研修（協力）
- 

- 平成28. 6. 13 平成28年度 東京都小中学校環境教育研究会定期総会  
全国理事会（東京都品川区立第三日野小学校）  
第二十四代会長 小山 成志 就任
7. 22 エネルギー研修会（東京ガス扇島工場、田町スマエネパーク見学）
8. 1 地球温暖化防止コミュニケーター養成講座（東京都品川区立第三日野小学校）
11. 17 全国理事会（須賀川市内ホテル）
11. 18 第48回 全国小中学校環境教育研究大会（福島大会 須賀川市立白方小学校）  
会報「碧い空」第54号 研究紀要第48号
12. 10 第20回 全国小中学校児童・生徒環境絵画コンクール表彰式
- 平成29. 1・2月 文部科学省・環境省  
平成28年度 環境教育・ESDカリキュラムデザイン研修（協力）
2. 10 第52回 東京都小中学校環境教育研究発表会（東京都品川区立第三日野小学校）
- 

- 平成29. 6. 12 平成29年度 東京都小中学校環境教育研究会定期総会  
全国理事会（東京都品川区立第三日野小学校）  
第二十五代会長 野澤 由美 就任
7. 28 エネルギー研修会（東京ガス根岸工場、田町スマエネパーク見学）
7. 31 地球温暖化防止コミュニケーター養成講座（東京都品川区立第三日野小学校）
- 7・8月 J-Power エコ×エネ体験ツアー水力編 小学生親子ツアー（協力）
- 8・11月 文部科学省・環境省  
平成29年度 環境教育・ESDカリキュラムデザイン研修（協力）
12. 7 全国理事会（掛川市内ホテル）

12. 8 第49回 全国小中学校環境教育研究大会（静岡大会 菊川市立菊川西中学校）  
会報「碧い空」第55号 研究紀要第49号
12. 9 第21回 全国小中学校児童・生徒環境絵画コンクール表彰式
- 平成30. 2. 13 第53回 東京都小中学校環境教育研究発表会（東京都中野区立鷺宮小学校）
- 平成30. 6. 14 平成30年度 東京都小中学校環境教育研究会定期総会  
全国理事会（東京都品川区立第三日野小学校）
7. 27 エネルギー研修会（東京ガス新宿地域冷暖房センター見学）
8. 1 地球温暖化防止コミュニケーター養成講座（TKP新宿カンファレンスセンター）
- 8月 J-Power エコ×エネ体験ツアー水力編 小学生親子ツアー（協力）
10. 27～28 J-Power 先生方のためのエコ×エネ体験ツアー2018（協力）
11. 29 全国理事会（府中市内）
11. 30 第50回 全国小中学校環境教育研究大会（東京大会 府中市立武蔵台小学校）  
第54回 東京都小中学校環境教育研究発表会  
会報「碧い空」第56号 研究紀要第50号
12. 8 第22回 全国小中学校児童・生徒環境絵画コンクール表彰式
- 12・1月 環境省 平成30年度 教職員等環境教育・学習推進リーダー育成研修（協力）
- 平成31. 2. 23 平成30年度 水産多面的機能発揮対策シンポジウム（協力）  
（全国漁業協同組合連合会、全国内水面漁業協同組合連合会）
- 

- 令和元. 6. 7 平成31年度 東京都小中学校環境教育研究会定期総会  
全国理事会（東京都杉並区立浜田山小学校）  
第二十六代会長 藤森 克彦 就任
7. 26 エネルギー研修会（東京ガス豊洲スマートエネルギーセンター見学）
- 8～2月 環境省 平成31年度 教職員等環境教育・学習推進リーダー育成研修（協力）
8. 8 J-Power 先生方のためのエコ×エネ体験ツアー2019火力編（協力）
10. 26～27 J-Power 先生方のためのエコ×エネ体験ツアー2019水力編（協力）
11. 21 全国理事会（富里市内ホテル）
11. 22 第51回 全国小中学校環境教育研究大会（千葉大会 富里市立根木名小学校）  
会報「碧い空」第57号 研究紀要第51号
12. 7 第23回 全国小中学校児童・生徒環境絵画コンクール表彰式
- 令和2. 2. 7 第55回 東京都小中学校環境教育研究発表会（東京都町田市立南成瀬小学校）
- 

- 令和2. 6月 令和2年度 東京都小中学校環境教育研究会定期総会・全国理事会  
（新型コロナウイルス感染症 感染拡大防止のため書面開催）
- 6月 第24回 全国小中学校児童・生徒環境絵画コンクール 中止
- 7月 エネルギー研修会 中止
- 9～3月 環境省 令和2年度 教職員等環境教育・学習推進リーダー育成研修（協力）
- 令和3. 2. 26 全国理事会（書面開催）  
第52回 全国小中学校環境教育研究大会

第56回 東京都小中学校環境教育研究発表会

オンライン開催（ライブ配信・期間限定録画配信）

会報「碧い空」第58号 研究紀要第52号

## 大会宣言

環境教育は、人類を含めた地球上の生物全体にかかわる課題である。近年の地球温暖化等の環境問題は、自然の生態系に変化を与えるほど深刻な事態となっている。個人や社会全体がこれらの課題解決に早急に取り組むことで、持続可能な社会づくりを図らなくてはならない。環境教育はこの課題解決を図るための重要な学びであり、この地球上に生物が生存・繁栄を続けるために必要な教育である。

ここに、第52回全国小中学校環境教育研究大会、第56回東京都小中学校環境教育研究発表会を開催し、次世代を担う児童・生徒の環境にかかわる教育の在り方を追求するとともに、本大会に結集された総意をもって次の決意を表明し、その実現を期す。

- 一 環境教育は、地球的視野に立ち、地域に根ざした活動を通して生涯にわたる学びとして推進する。
- 一 環境教育は、自然を愛護すると共に、環境保全意識や環境倫理観、豊かな人間性を育む。
- 一 環境教育は、環境に対する正しい知識や、課題解決に取り組む能力を育成し、持続可能な社会づくりのための人材を育成する。
- 一 環境教育の小中学校での指導は、各教科や総合的な学習の時間、特別活動などすべての学びを通して実践し、指導を充実させる。

以上、宣言する。

令和3年2月26日

第52回全国小中学校環境教育研究大会

第56回東京都小中学校環境教育研究発表会

21世紀「環境の世紀」への提言

## 持続可能な社会づくりのための環境教育の推進

—環境教育で育む学力と環境保全意欲—

令和2年度

第52回 全国小中学校環境教育研究大会（東京大会）

第56回 東京都小中学校環境教育研究発表会

### 研究紀要

令和3年2月26日 発行

発行 全国小中学校環境教育研究会

会長 藤森克彦

編集 研究部長 關口寿也

事務局 東京都調布市立北ノ台小学校

校長 箱崎高之

東京都調布市深大寺北町2-41-1

TEL 042-485-1291

印刷所 (株)東京巧版社

TEL 03-3881-4173

この研究紀要は再生紙を使用しています



全国小中学校環境教育研究会  
東京都小中学校環境教育研究会